

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ウツノミヤダイガク 国立大学法人 宇都宮大学								
フリガナ大学の名称	ウツノミヤダイガクダイガクイン 宇都宮大学大学院 (Graduate Schools, Utsunomiya University)								
大学本部の位置	栃木県宇都宮市峰町350								
大学の目的	宇都宮大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	「持続可能な豊かな地域社会の創成に貢献する」ための「社会デザインの創造」と「イノベーションの創造」に関する教育研究により、融合・多様化する分野に積極的に対応できる、幅広い知識と技術に支えられた、より高い専門性を備える自立した人材を養成する。それによって、地域や社会の課題解決に資する先端融合研究を推進し、学際新領域を開拓する教育研究を展開することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる博士前期課程】 地域創生科学研究科社会デザイン科学専攻、地域創生科学研究科工農総合科学専攻  14条特例の実施
	地域創生科学研究科 [Graduate School of Regional Development and Creativity]	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次		
	先端融合科学専攻 [Division of Advanced Transdisciplinary Science]	3	25	—	75	博士（光工学） [Doctor of Optical Science and Engineering] 博士（分子農学） [Doctor of Molecular Agriculture] 博士（工学） [Doctor of Engineering] 博士（国際学） [Doctor of International Studies] 博士（学術） [Doctor of Arts]	令和3年4月 第1年次	栃木県宇都宮市峰町350 栃木県宇都宮市陽東7-1-2	
計		25	—	75					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	○学生募集の停止 <del>国際学研究科（博士後期課程）（廃止）</del> <del>国際学研究専攻（△3）</del> <del>工学研究科（博士後期課程）（廃止）</del> <del>システム創成工学専攻（△30）</del> ※令和3年4月学生募集停止  ○令和3年4月 博士後期課程の開設に合わせ、修士課程を博士前期課程に改める。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	地域創生科学研究科 先端融合科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	15 単位			
		112 科目	12 科目	3 科目	127 科目				

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 設 分	地域創生科学研究科（博士後期課程）		人	人	人	人	人	人	
	先端融合科学専攻		56 (56)	60 (60)	0 (0)	0 (0)	116 (116)	0 (0)	3 (3)
既	計		56 (56)	60 (60)	0 (0)	0 (0)	116 (116)	0 (0)	— —
	地域創生科学研究科（博士前期課程）		53 (53)	52 (52)	4 (4)	10 (10)	119 (119)	0 (0)	53 (53)
設	社会デザイン科学専攻		66 (66)	59 (59)	5 (5)	27 (27)	157 (157)	0 (0)	67 (67)
	工農総合科学専攻		8 (8)	15 (15)	1 (1)	6 (6)	30 (30)	0 (0)	42 (42)
設	教育学研究科（専門職学位課程）		2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	教育実践高度化専攻		1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
設	雑草と里山の科学教育研究センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)
	総合メディア基盤センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
設	留学生・国際交流センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	バイオサイエンス教育研究センター		1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
設	保健管理センター		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	キャリア教育・就職支援センター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
設	キャリア教育・就職支援センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	教職センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
設	大学教育推進機構		1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	11 (11)	0 (0)	44 (44)
	地域創生推進機構		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)
分	計		130 (130)	130 (130)	10 (10)	52 (52)	322 (322)	0 (0)	— —
	合 計		130 (130)	130 (130)	10 (10)	52 (52)	322 (322)	0 (0)	— —
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 員		146 (146)		122 (122)		268 (268)		
	技 術 員		56 (56)		26 (26)		82 (82)		
	図 書 館 専 門 員		2 (2)		11 (11)		13 (13)		
	そ の 他 の 職 員		2 (2)		22 (22)		24 (24)		
計		206 (206)		181 (181)		387 (387)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	220,087 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		220,087 m <sup>2</sup>		
	運 動 場 用 地	125,768 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		125,768 m <sup>2</sup>		
	小 計	345,855 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		345,855 m <sup>2</sup>		
	そ の 他	8,575,430 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		8,575,430 m <sup>2</sup>		
合 計	8,921,285 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		8,921,285 m <sup>2</sup>			
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	108,989 m <sup>2</sup> (108,989 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		108,989 m <sup>2</sup> (108,989 m <sup>2</sup> )			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	75 室	80 室	323 室	15 室 (補助職員5人)		8 室 (補助職員7人)			

専任教員研究室		新設学部等の名称				室数				
		地域創生科学研究科				118			室	
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、 大学全体の数		
	地域創生科学研究科	657,388 [150,898] (652,819 [149,999])	14,607 [4,086] (14,321 [4,006])	6,302 [6,246] (6,302 [6,246])	6,283 (6,283)	17,899 (17,899)	0 (0)			
	計	657,388 [150,898] (652,819 [149,999])	14,607 [4,086] (14,321 [4,006])	6,302 [6,246] (6,302 [6,246])	6,283 (6,283)	17,899 (17,899)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数				
		7,890 m <sup>2</sup>		760		633,333				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		3,366 m <sup>2</sup>		武道館 (870 m <sup>2</sup> )		陸上競技場 1面				
				野球場 2面		サッカー・ラグビー場 1面				
				テニスコート 9面		プール (25m用)				
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費(運営費交付金)による	
		教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—		
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—		
		図書購入費	—	—	—	—	—	—		
	設備購入費	—	—	—	—	—	—			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			—							
大学の名称		宇都宮大学								
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学員 定員 年次人	収容定員	学位又は 称号	定員 超過率 倍	開設 年度	所在地	平成31年より学生募集開始
大学院										
地域創生科学研究科(博士前期課程)										
社会デザイン科学専攻		2	77	—	154	修士(学術) 修士(農学) 修士(工学) 修士(国際学)	1.20	平31	栃木県宇都宮市峰町 350	
工農総合科学専攻		2	258	—	516	修士(光工学) 修士(分子農学) 修士(工学) 修士(農学)	1.04		栃木県宇都宮市陽東 7-1-2	
小計		—	335	—	670		1.08			
国際学研究科(博士前期課程)										
国際社会研究専攻		2	—	—	—	修士(国際学)	—	平11	栃木県宇都宮市峰町 350	
国際文化研究専攻		2	—	—	—		—			
国際交流研究専攻		2	—	—	—		—			
小計		—	—	—	—		—			
国際学研究科(博士後期課程)										
国際学研究専攻		3	3	—	9	博士(国際学)	1.08	平19	栃木県宇都宮市峰町 350	
小計		—	3	—	9		1.08			
教育学研究科(修士課程)										
学校教育専攻		2	—	—	—	修士(教育学)	—	昭59	栃木県宇都宮市峰町 350	
小計		—	—	—	—		—			
教育学研究科(専門職学位課程)										
教育実践高度化専攻		2	18	—	36	教職修士(専門職)	0.83	平27	栃木県宇都宮市峰町 350	
小計		—	18	—	36		0.83			

平成31年より学生募集開始

平成31年より学生募集停止

平成31年より学生募集停止

既設大学等の状況

工学研究科（博士前期課程）					修士（工学）		昭48	栃木県宇都宮市陽東	平成31年より学生募集停止
機械知能工学専攻	2	—	—	—		—		7-1-2	
電気電子システム工学専攻	2	—	—	—		—			
物質環境化学専攻	2	—	—	—		—			
地球環境デザイン学専攻	2	—	—	—		—			
情報システム科学専攻	2	—	—	—		—			
先端光工学専攻	2	—	—	—		—			
小計	—	—	—	—		—			
工学研究科（博士後期課程）					博士（工学）		平4	栃木県宇都宮市陽東	
システム創成工学専攻	3	30	—	90		0.54		7-1-2	
小計	—	30	—	90		0.54			
農学研究科（修士課程）					修士（農学）		昭41	栃木県宇都宮市峰町	平成31年より学生募集停止
生物生産科学専攻	2	—	—	—		—		350	
農業環境工学専攻	2	—	—	—		—			
農業経済学専攻	2	—	—	—		—			
森林科学専攻	2	—	—	—		—			
小計	—	—	—	—		—			
合計	—	386	—	805		0.87			
学部									
地域デザイン科学部			3年次				平28	栃木県宇都宮市陽東	
コミュニティデザイン学科	4	50	—	200	学士（コミュニティ学）	1.04		7-1-2	
建築都市デザイン学科	4	50	3	206	学士（工学）	1.03			
社会基盤デザイン学科	4	40	3	166	学士（工学）	1.05			
小計	—	140	6	572		1.03			
国際学部			3年次		学士（国際学）		平6	栃木県宇都宮市峰町	
国際学科	4	90	10	380		1.06		350	平成29年より学生募集停止
国際社会学科	4	—	—	—		—			平成29年より学生募集停止
国際文化学科	4	—	—	—		—			
小計	—	90	10	380		1.06			
教育学部					学士（教育学）		昭24	栃木県宇都宮市峰町	令和2年より学生募集停止
学校教育教員養成課程	4	—	—	—		—		350	
小計	—	—	—	—		—			
共同教育学部					学士（教育学）		昭24	栃木県宇都宮市峰町	令和2年より学生募集開始
学校教育教員養成課程	4	170	—	170		1.06		350	
小計	—	170	—	170		1.06			
工学部			3年次		学士（工学）		昭39	栃木県宇都宮市陽東	
基盤工学科	4	315	26	630		1.03		7-1-2	平成31年より学生募集開始
機械システム工学科	4	—	—	—		—			平成31年より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—		—			平成31年より学生募集停止
応用化学科	4	—	—	—		—			平成31年より学生募集停止
情報工学科	4	—	—	—		—			平成31年より学生募集停止
小計	—	315	26	630		1.03			
農学部					学士（農学）		昭24	栃木県宇都宮市峰町	
生物資源科学科	4	63	3年次	252		1.02		350	
応用生命化学科	4	32		128		1.06			
農業環境工学科	4	32		128		1.06			
農業経済学科	4	36		144		1.08			
森林科学科 （学科共通）	4	32		128		1.06			
小計	—	195	18	816		1.05			
合計	—	910	60	2,568		1.04			

(附属学校)

名称：教育学部附属幼稚園

目的：幼児教育の実証的研究を進めるとともに、遊びや生活を通して幼児の心身の活動力を高めるよう努めている。

所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38

設置年月：昭和41年4月

規模等：土地 48,980㎡（附属小学校及び附属中学校と共有）、建物 932㎡

名称：教育学部附属小学校

目的：先導的・先進的な研究校としての役割と教員養成の使命の上に、子供たちに最良の教育を行うことを目的として、日々の教育研究及び実践を行っている。

所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38

設置年月：昭和41年4月

規模等：土地 48,980㎡（附属幼稚園及び附属中学校と共有）、建物 5,904㎡

名称：教育学部附属中学校

目的：生徒たちが自己の能力と個性を十分に伸ばし、充実した学校生活を送れるよう、教育方法を工夫し実践している。

所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38

設置年月：昭和41年4月

規模等：土地 48,980㎡（附属幼稚園及び附属小学校と共有）、建物 5,550㎡

名称：教育学部附属特別支援学校

目的：特別支援教育の実践研究を進めるとともに、宇都宮大学教育学部及び大学院教育学研究科の研究・研修に協力する。

所在地：栃木県宇都宮市宝木町1-2592

設置年月：昭和50年4月

規模等：土地 17,883㎡、建物 3,944㎡

(学部等の附属施設)

名称：国際学部附属多文化公共圏センター

目的：栃木県内外の自治体・国際交流協会・教育委員会・市民団体（NGO/NPOを含む協賛団体）や海外の交流協定締結大学とネットワークを形成し、情報を交換し合い、グローバル化に関わる諸問題の実践的解決を目指す。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成20年4月

規模等：建物 峰町5号館B棟1,903㎡の一部(101㎡)

名称：工学部附属ものづくり創成工学センター

目的：未来を担う技術者の創造性と独創性を育み、ものづくり感性を涵養することを目的とした授業の実践を中心とし、インターンシップ及び学生によるプロジェクト活動の推進、現役技術者による講義、高度技術者による技能実演など多面的な教育プログラムの研究開発を行う。

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成14年4月

規模等：建物 208㎡

名称：農学部附属農場

目的：農業に関する実習教育を行うとともに、学術研究の発展に資する。

所在地：栃木県真岡市下籠谷443

設置年月：昭和24年5月

規模等：土地 1,016,165㎡、建物5,273㎡

名称：農学部附属演習林

目的：船生演習林と日光演習林があり、森林科学の基礎的・応用的な研究を行うとともに、実験実習を通じて森林科学の総合的体系の理解を深める。

所在地：（船生演習林）栃木県塩谷郡塩谷町船生7556

（日光演習林）日光：栃木県日光市中宮祠3168

太郎山：栃木県日光市大字日光戦場ヶ原2492-2

設置年月：昭和24年5月

規模等：（船生演習林）土地 5,313,094㎡、建物 1,617㎡

（日光演習林）日光：土地 78,251㎡、建物 129㎡

太郎山：土地 2,005,735㎡

（学内共同施設）

名称：雑草と里山の科学教育研究センター

目的：雑草及び里山に関する包括的な教育研究を分野横断的な連携によって推進するとともに、地域の持続的な発展に資することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成26年4月

規模等：建物 2,091㎡

名称：バイオサイエンス教育研究センター

目的：バイオサイエンス分野の教育研究を行うとともに、研究の応用と実用化を目指して新たな領域を開拓し、地域においてバイオサイエンス及びテクノロジーの啓発活動を行い、また、関連分野の教員の共同利用に供することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成20年3月

規模等：建物 3,205㎡

名称：オブティクス教育研究センター

目的：光技術産業の強化及び発展に貢献するため、産業界と連携して、体系的教育の徹底と人材の育成を行い、かつ先端的な研究領域を創成することで、世界水準の教育研究拠点の形成を目指す。

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成19年4月

規模等：建物 1,944㎡

名称：アドミッションセンター

目的：入学者選抜方法の改善及び入学者選抜の円滑な実施並びに入試広報の企画・実施に関し、連絡調整を行うことを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成31年4月

規模等：建物 924㎡

#### 附属施設の概要

名称：留学生・国際交流センター

目的：外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導・助言等を行うとともに、その充実及び国際交流の推進に寄与することを目的とする。

峰地区

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成14年4月

規模等：建物 峰町4号館A棟3,485㎡の一部（111㎡）、

峰町4号館B棟2,651㎡の一部（490㎡）

名称：キャリア教育・就職支援センター

目的：キャリア教育と就職ガイダンスなどの就職支援のための様々なプログラムの一体的な推進を図り、学生が自らの将来の生き方や職業との関わりについて考え、キャリアプランを作成し就職活動を進めることを支援する。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成19年1月

規模等：建物 峰町4号館A棟3,485㎡の一部（368㎡）

名称：教職センター

目的：教職課程の改善，充実及び教員養成機能の強化並びに充実を図るとともに，学内外の教育関連機関等と連携・協働し，教員養成及び現職教員研修の質の向上を図ることを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成26年4月

規模等：建物 峰町7号館740㎡の一部（85㎡）

名称：総合メディア基盤センター

目的：基幹情報ネットワークシステムの設計，構築，運用管理を行い，本学の教育研究のために供するとともに，情報リテラシー教育，情報処理，情報通信技術の研究開発を行い，教育研究の推進及び社会への貢献に資する。

峰地区

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成13年4月

規模等：建物 453㎡

陽東地区

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成13年4月

規模等：建物 404㎡

陽東地区

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成14年4月

規模等：建物 陽東2号館3,056㎡の一部（59㎡）

名称：保健管理センター

目的：保管管理に関する専門的業務を行い，学生及び職員の健康の保持増進をはかることを目的とする。

峰地区

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：昭和51年5月

規模等：建物 385㎡

陽東地区

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：昭和51年5月

規模等：建物 図書館分館1,673㎡の一部（168㎡）

（大学教育推進機構）

名称：基盤教育センター

目的：現代社会に必要なリテラシー，幅広い教養と豊かな人間性，専門教育を学ぶ上で基礎となる素養を身に付けるための基盤教育について，全学的実施の企画・運営を中心に担い，その充実に資する。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成23年4月

規模等：建物 峰町4号館A棟3,485㎡の一部（521㎡）

峰町4号館B棟2,651㎡の一部（517㎡）

（地域創生推進機構）

名称：地域デザインセンター

目的：地域と連携した教育及び研究を支援し，地域の課題解決に貢献する。

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成30年4月

規模等：建物 陽東11号館1,909㎡の一部（47㎡）

名称：宇大アカデミー

目的：社会人の学びを推進する。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成30年4月

規模等：建物 峰町5号館C棟 3,249㎡の一部（446㎡）

	<p>名称：産学イノベーション支援センター</p> <p>目的：研究者及び外部との共同研究・受託研究の活性化を図ることにより，産学官金連携を基盤に地域イノベーションの創出を支援・推進する。</p> <p>所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2</p> <p>設置年月：平成30年4月</p> <p>規模等：建物 5,028㎡</p> <p>(附属図書館)</p> <p>名称：附属図書館</p> <p>目的：学生・教職員が教育・研究目標を達成するために必要とする多様な利用サービス・情報資源を提供する。また，一般市民に対しても利用サービスを拡充し，地域社会に貢献する。</p> <p>所在地：(本館) 栃木県宇都宮市峰町350 (分館) 栃木県宇都宮市陽東7-1-2</p> <p>設置年月：(本館) 昭和30年4月 (分館) 昭和39年4月</p> <p>規模等：建物 (本館) 6,728㎡ (分館) 1,673㎡の一部 (1,162㎡)</p>	
--	--	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。



教育課程等の概要														
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	特別演習	1 前	2				○		56	60				
	特別研究 I	1 後	2					○	56	60				
	特別研究 II	2 前	2					○	56	60				
	特別研究 III	2 後	2					○	56	60				
	特別セミナー	1~2 通	1				○		56	60				
	小計 (5科目)	—	9	0	0		—	56	60	0	0	0		
選択必修科目	副専門研修 I	1・2 通		2			○		56	60				
	副専門研修 II	1・2 通		2			○		56	60				
	臨地研究 I	1・2 通		2			○		56	60				
	臨地研究 II	1・2 通		2			○		56	60				
	小計 (4科目)	—	0	8	0		—	56	60	0	0	0		
専門選択科目	光工学分野特論群	光情報システム特論	1・2 前	1			○		1					
		光波センシング特論	1・2 前	1			○		1					※演習
		光機能材料デバイス特論	1・2 後	1			○		1					※演習
		三次元画像情報光学特論	1・2 前	1			○		1					※演習
		荷電粒子ビーム工学特論	1・2 前	1			○		1					
		光応用工学特論	1・2 後	1			○			1				
		応用光物理学特論	1・2 前	1			○			1				
		分光画像処理特論	1・2 前	1			○			1				
		先端情報数理特論	1・2 後	1			○		1					※演習
		乱流エネルギー特論	1・2 前	1			○			1				
	分子農学分野特論群	細胞生物学特論	1・2 前	1			○			1				
		環境生理学特論	1・2 前	1			○			1				
		生命情報学解析特論	1・2 前	1			○			1				
		微生物遺伝子工学特論	1・2 前	1			○			1				
		生命分子光工学特論	1・2 前	1			○			1				※講義
	物質環境化学分野特論群	生体機能材料特論	1・2 前	1			○			1				
		生体超分子化学特論	1・2 前	1			○			1				
		界面制御化学特論	1・2 後	1			○			1				※演習
		有機合成反応特論	1・2 後	1			○				1			
		分子計測機能特論	1・2 前	1			○			1				
実践機器分析特論		1・2 前	1			○				1				
固体物性化学特論		1・2 前	1			○			1				※演習	
無機固体化学特論		1・2 後	1			○				1				
応用電気化学特論		1・2 後	1			○				1				
機能性流体プロセス特論		1・2 後	1			○			1				※演習	
先端工学システムデザインプログラム	超臨界流体工学特論	1・2 前	1			○			1					
	環境エネルギー触媒特論	1・2 前	1			○			1					
	量子電子工学特論	1・2 前	1			○			1					
	量子光ダイナミクス特論	1・2 後	1			○			1					
	量子光物性工学特論	1・2 後	1			○				1				
	超伝導デバイス工学特論	1・2 後	1			○			1					
	素粒子物理学特論	1・2 前	1			○				1				
	アドバンス制御工学特論	1・2 前	1			○			1					
	先端システム制御工学特論	1・2 前	1			○				1				
	パワーエレクトロニクスシステム特論	1・2 前	1			○			1				※講義	
	電動機制御工学特論	1・2 後	1			○				1			※演習	
	情報伝送工学特論	1・2 前	1			○			1					
	マイクロ波・ミリ波応用工学特論	1・2 前	1			○				1			※演習	
	マンマシンシステム特論	1・2 後	1			○				1				
	音響情報解析特論	1・2 前	1			○			1					
複合感覚情報処理特論	1・2 後	1			○				1					
機能創成工学分野特論群	画像符号化特論	1・2 前	1			○			1					
	医用電子画像システム特論	1・2 後	1			○			1					
	画像情報処理特論	1・2 前	1			○				1			※演習	
	機能集積情報システム特論	1・2 前	1			○			1				※演習	
	計算機工学特論	1・2 後	1			○			1				※演習	
	進化計算特論	1・2 前	1			○				1				
	先端情報通信プロトコル特論	1・2 前	1			○				1				
	材料物理特論	1・2 後	1			○				1				
	物性論特論	1・2 後	1			○			1					
	固体物性特論	1・2 後	1			○				1				
光学薄膜特論	1・2 前	1			○				1			※演習		
生産システム工学分野特論群	数理機械工学特論	1・2 前	1			○			1					
	材料機械設計学特論	1・2 前	1			○				1				
	先端材料評価学特論	1・2 後	1			○				1				
	応用流体力学特論	1・2 前	1			○			1					
	先端トライボシステム特論	1・2 前	1			○			1					
	先端メカトロニクス特論	1・2 後	1			○				1				
	ロボット応用特論	1・2 前	1			○			1					
	知能ロボット工学特論	1・2 前	1			○				1				
	バイオエンジニアリング特論	1・2 前	1			○			1					
	確率力学特論	1・2 前	1			○			1				※演習	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
先 端 工 学 シ ス テ ム デ ザ イ ン プ ロ グ ラ ム	非線形システム解析特論	1・2 前		1		○				1					兼1 ※演習		
	マイクロ応用加工学特論	1・2 前		1		○				1							
	変形加工学特論	1・2 前		1		○											
	工作機械特論	1・2 前		1		○					1						
	心理計測学特論	1・2 前		1		○					1						
	構造材料学特論	1・2 後		1		○				1							
	土木環境材料工学特論	1・2 後		1		○					1						
	陸水環境解析学特論	1・2 前		1		○				1							
	土質工学特論	1・2 前		1		○					1						
	岩盤工学特論	1・2 前		1		○					1						
	建築材料学特論	1・2 後		1		○				1							
	建築物ストック管理学特論	1・2 前		1		○					1						
	木質構造特論	1・2 後		1		○					1						
	耐震システム工学特論	1・2 前		1		○					1						
	地震防災学特論	1・2 前		1		○						1					
	橋梁地震工学特論	1・2 前		1		○						1					
	専 門 選 択 科 目	国 際 学 分 野 特 論 群	環境政治学特論	1・2 後		1		○			1						
			人間の安全保障と国際制度特論	1・2 後		1			○			1					
			対人コミュニケーション研究特論	1・2 後		1		○				1					
			グローバル化と多文化教育特論	1・2 前		1		○				1					
			グローバル教育・開発教育特論	1・2 前		1		○				1					
			グローバル化と中東政治特論	1・2 後		1		○					1				
			東アジア国際関係史特論	1・2 後		1			○				1				
			アメリカ金融制度特論	1・2 後		1		○					1				
			ラテンアメリカ経済特論	1・2 後		1		○					1				
			日台交流史特論	1・2 後		1		○					1				
			ドイツ文化史特論	1・2 前		1		○					1				
			アメリカ文化形成特論	1・2 後		1		○					1				
			タイ都市社会特論	1・2 後		1		○					1				
			社会開発と地域研究（東アフリカ）特論	1・2 前		1		○					1				
			グローバリゼーション下の村落社会研究特論	1・2 後		1		○					1				
			東アジア比較文学特論	1・2 前		1			○			1					
			日本文学比較文化特論	1・2 後		1		○					1				
近代日本語芸術文化特論			1・2 前		1		○					1					
メディア学特論			1・2 後		1		○						1				
イギリス美術特論			1・2 前		1		○						1				
現代語研究法特論			1・2 後		1		○					1					
日本語学特論	1・2 前		1		○						1						
言語教育特論	1・2 後		1		○							1					
地 域 デ ザ イ ン 学 分 野 特 論 群	政策ガバナンス特論	1・2 後		1		○				1							
	公共政策特論	1・2 前		1		○					1						
	コミュニティ政策特論	1・2 前		1		○					1						
	社会福祉学特論	1・2 前		1			○					1					
	福祉社会話分析特論	1・2 後		1		○						1					
	死生学特論	1・2 前		1		○						1					
	遊びとパフォーマンスの心理学特論	1・2 前		1		○				1							
	地域食生活学特論	1・2 前		1		○					1						
	自然共生デザイン特論	1・2 前		1		○						1					
	日本史特論	1・2 前		1		○						1					
	地域解析特論	1・2 後		1		○						1					
	建築環境計画特論	1・2 前		1		○					1						
	人間環境学特論	1・2 後		1		○						1					
	環境都市計画特論	1・2 前		1		○					1						
	サプライチェーン・マネジメント特論	1・2 前		1		○						1					
統合プロジェクトマネジメント特論	1・2 前		1		○						1						
防災教育工学特論	1・2 前		1		○						1						
小計（118科目）		—	0	118	0	—			56	59	0	0	0	兼3			
合計（127科目）		—	9	126	0	—			56	60	0	0	0	兼3			
学位又は称号	博士（光工学），博士（分子農学），博士（工学），博士（国際学），博士（学術）			学位又は学科の分野	文学関係，社会学・社会福祉学関係，工学関係，農学関係												
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
以下の要件を満たし合計15単位以上を修得するとともに，博士論文の審査，最終試験に合格すること。 1) 必修科目から9単位修得すること。 2) 選択必修科目から4単位以上修得すること。ただし，「副専門研修Ⅰ」ならびに「副専門研修Ⅱ」の履修においては，それぞれ博士論文研究課題の専門分野以外の副指導教員による指導を受けること。 3) 所属するプログラムの専門選択科目から2単位以上修得すること。						1 学年の学期区分			2 期								
						1 学期の授業期間			15 週								
						1 時限の授業時間			90 分								

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
必修科目	特別演習	1 前	2					○		56	60							
	特別研究Ⅰ	1 後	2						○	56	60							
	特別研究Ⅱ	2 前	2						○	56	60							
	特別研究Ⅲ	2 後	2						○	56	60							
	特別セミナー	1~2 通	1					○		56	60							
	小計(5科目)	—	9	0	0			—		56	60	0	0	0				
選択必修科目	副専門研修Ⅰ	1・2 通		2				○		56	60							
	副専門研修Ⅱ	1・2 通		2				○		56	60							
	臨地研究Ⅰ	1・2 通		2				○		56	60							
	臨地研究Ⅱ	1・2 通		2				○		56	60							
		小計(4科目)	—		0	8	0		—		56	60	0	0	0			
専門選択科目	分子農学分野特論群	細胞生物学特論	1・2 前		1			○			1							
		環境生理学特論	1・2 前		1			○			1							
		生命情報学解析特論	1・2 前		1			○			1							
	グローバル地域デザインプログラム	国際学分野特論群	環境政治学特論	1・2 後		1			○		1					※演習		
			人間の安全保障と国際制度特論	1・2 後		1				○	1	1					※講義	
			対人コミュニケーション研究特論	1・2 後		1			○		1						※演習	
			グローバル化と多文化教育特論	1・2 前		1			○		1						※演習	
			グローバル教育・開発教育特論	1・2 前		1			○		1						※演習	
			グローバル化と中東政治特論	1・2 後		1			○		1		1				※講義	
			東アジア国際関係史特論	1・2 後		1				○	1		1				※講義	
			アメリカ金融制度特論	1・2 後		1			○		1						※演習	
			ラテンアメリカ経済特論	1・2 後		1			○		1		1				※演習	
			日台交流史特論	1・2 後		1			○		1						※演習	
			ドイツ文化史特論	1・2 前		1			○		1						※演習	
			アメリカ文化形成特論	1・2 後		1			○		1						※演習	
			タイ都市社会特論	1・2 後		1			○		1						※演習	
			社会開発と地域研究(東アフリカ)特論	1・2 前		1			○		1		1				※演習	
			グローバリゼーション下の村落社会研究特論	1・2 後		1			○		1		1				※演習	
			東アジア比較文学特論	1・2 前		1				○	1						※講義	
			日本文学比較文化特論	1・2 後		1			○		1		1				※演習	
			近代日本語芸術文化特論	1・2 前		1			○		1		1				※演習	
			メディア学特論	1・2 後		1			○		1		1				※演習	
			イギリス美術特論	1・2 前		1			○		1		1				※演習	
			現代語研究法特論	1・2 後		1			○		1						※演習	
			日本語史特論	1・2 前		1			○		1		1				兼1	
			言語教育特論	1・2 後		1			○		1						兼1	
			地域デザイン学分野特論群	社会学特論	1・2 前		1				○							兼1
				死生学特論	1・2 前		1				○		1					※演習
				遊びとパフォーマンスの心理学特論	1・2 前		1				○		1					※演習
				日本史特論	1・2 前		1				○		1					※演習
	小計(30科目)	—		0	30	0		—		14	14	0	0	0	兼2			
合計(39科目)			—	9	38	0		—		56	60	0	0	0	兼2			
学位又は称号	博士(光工学), 博士(分子農学), 博士(工学), 博士(国際学), 博士(学術)		学位又は学科の分野			文学関係, 社会学・社会福祉学関係, 工学関係, 農学関係												
卒業要件及び履修方法						授業期間等												
以下の要件を満たし合計15単位以上を修得するとともに, 博士論文の審査, 最終試験に合格すること。 1) 必修科目から9単位修得すること。 2) 選択必修科目から4単位以上修得すること。ただし, 「副専門研修Ⅰ」ならびに「副専門研修Ⅱ」の履修においては, それぞれ博士論文研究課題の専門分野以外の副指導教員による指導を受けること。 3) 所属するプログラムの専門選択科目から2単位以上修得すること。						1 学年の学期区分			2 期									
						1 学期の授業期間			15 週									
						1 時限の授業時間			90 分									

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
必修科目	特別演習	1 前	2					○		56	60								
	特別研究 I	1 後	2							56	60								
	特別研究 II	2 前	2							56	60								
	特別研究 III	2 後	2							56	60								
	特別セミナー	1~2 通	1					○		56	60								
	小計(5科目)	—	9	0	0			—		56	60	0	0	0					
選択必修科目	副専門研修 I	1・2 通		2				○		56	60								
	副専門研修 II	1・2 通		2				○		56	60								
	臨地研究 I	1・2 通		2				○		56	60								
	臨地研究 II	1・2 通		2				○		56	60								
	小計(4科目)	—		0	8	0		—		56	60	0	0	0					
専門選択科目	光工学分野特論群	光情報システム特論	1・2 前		1			○			1						※演習		
		光波センシング特論	1・2 前		1			○			1							※演習	
		光機能材料デバイス特論	1・2 後		1			○			1							※演習	
		三次元画像情報光学特論	1・2 前		1			○			1							※演習	
		荷電粒子ビーム工学特論	1・2 前		1			○			1								
		光応用工学特論	1・2 後		1			○				1							
		応用光物理学特論	1・2 前		1			○				1							
		分光画像処理特論	1・2 前		1			○				1							
		先端情報数理特論	1・2 後		1			○				1							※演習
		乱流エネルギー特論	1・2 前		1			○				1							
	分子農学分野特論群	微生物遺伝子工学特論	1・2 前		1			○				1							
		生命分子光工学特論	1・2 前		1				○			1							※講義
	物質環境化学分野特論群	生体機能材料特論	1・2 前		1			○			1								※演習
		生体超分子化学特論	1・2 前		1			○			1								※演習
		界面制御化学特論	1・2 後		1			○			1								※演習
		有機合成反応特論	1・2 後		1			○				1							※演習
		分子計測機能特論	1・2 前		1			○				1							※演習
		実践機器分析特論	1・2 前		1			○				1							※演習
		固体物性化学特論	1・2 前		1			○				1							※演習
		無機固体化学特論	1・2 後		1			○				1							※演習
応用電気化学特論		1・2 後		1			○				1							※演習	
機能性流体プロセス特論		1・2 後		1			○				1							※演習	
機能創成工学分野特論群	超臨界流体工学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	環境エネルギー触媒特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	量子電子工学特論	1・2 前		1			○				1							※講義	
	量子光ダイナミクス特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	量子光物性工学特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	超伝導デバイス工学特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	素粒子物理学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	アドバンス制御工学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	先端システム制御工学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	パワーエレクトロニクスシステム特論	1・2 前		1			○		○		1							※講義	
先端工学システムデザインプログラム	電動機制御工学特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	情報伝送工学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	マイクロ波・ミリ波応用工学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	マンマシンシステム特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	音響情報解析特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	複合感覚情報処理特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	画像符号化特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	医用電子画像システム特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	画像情報処理特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	機能集積情報システム特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
計算機工学特論	1・2 後		1			○				1							※演習		
進化計算特論	1・2 前		1			○				1							※演習		
先端情報通信プロトコル特論	1・2 前		1			○				1							※演習		
材料物理特論	1・2 後		1			○				1							※演習		
物性論特論	1・2 後		1			○				1							※演習		
固体物性特論	1・2 後		1			○				1							※演習		
光学薄膜特論	1・2 前		1			○				1							※演習		
数値機械工学特論	1・2 前		1			○				1							※演習		
生産システム工学分野特論群	材料機能設計学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	先端材料評価学特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	応用流体力学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	先端トライボシステム特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	先端メカトロニクス特論	1・2 後		1			○				1							※演習	
	ロボット応用特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	知能ロボット工学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	バイオエンジニアリング特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	確率力学特論	1・2 前		1			○				1							※演習	
	非線形システム解析特論	1・2 前		1			○				1							※演習	

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門選択科目	先端工学システムデザインプログラム 生産システム工学分野特論群	マイクロ応用加工学特論	1・2前	1		○				1					兼1 ※演習
		変形加工学特論	1・2前	1		○									
		工作機械特論	1・2前	1		○					1				
		心理計測学特論	1・2前	1		○					1				
		構造材料学特論	1・2後	1		○			1						
		土木環境材料工学特論	1・2後	1		○				1					
		陸水環境解析学特論	1・2前	1		○				1					
		土質工学特論	1・2前	1		○					1				
		岩盤工学特論	1・2前	1		○					1				
		建築材料学特論	1・2後	1		○				1					
	建築物ストック管理学特論	1・2前	1		○					1					
	木質構造特論	1・2後	1		○				1						
	耐震システム工学特論	1・2前	1		○				1						
	地震防災学特論	1・2前	1		○					1					
	橋梁地震工学特論	1・2前	1		○					1					
	グローバル地域デザインプログラム 地域デザイン学分野特論群	政策ガバナンス特論	1・2後	1		○				1					※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習
		公共政策特論	1・2前	1		○					1				
		コミュニティ政策特論	1・2前	1		○					1				
		福祉会話分析特論	1・2後	1		○					1				
		地域食生活学特論	1・2前	1		○				1					
自然共生デザイン特論		1・2前	1		○				1						
地域解析特論		1・2後	1		○					1					
建築環境計画特論		1・2前	1		○				1						
人間環境学特論		1・2後	1		○					1					
環境都市計画特論		1・2前	1		○				1						
サブライチェーン・マネジメント特論	1・2前	1		○					1						
統合プロジェクトマネジメント特論	1・2前	1		○					1						
防災教育工学特論	1・2前	1		○					1						
小計(88科目)		—	0	88	0	—			42	45	0	0	0	兼1	
合計(97科目)		—	9	96	0	—			56	60	0	0	0	兼1	
学位又は称号	博士(光工学), 博士(分子農学), 博士(工学), 博士(国際学), 博士(学術)		学位又は学科の分野		文学関係, 社会学・社会福祉学関係, 工学関係, 農学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
以下の要件を満たし合計15単位以上を修得するとともに, 博士論文の審査, 最終試験に合格すること。 1) 必修科目から9単位修得すること。 2) 選択必修科目から4単位以上修得すること。ただし, 「副専門研修Ⅰ」ならびに「副専門研修Ⅱ」の履修においては, それぞれ博士論文研究課題の専門分野以外の副指導教員による指導を受けること。 3) 所属するプログラムの専門選択科目から2単位以上修得すること。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
地域 創生 リテラシー	地域創生のための社会デザイン&イノベーション	1 前	2			○			1	4					兼4 オムニバス・共同(一部) ※演習	
	現代社会を見通す：生命と感性の科学	1 前	1			○									兼7 オムニバス・共同(一部)・集中 ※演習	
	グローバルな視座を養う	1 後	1			○			6	3					兼1 オムニバス・共同(一部)	
	アカデミックコミュニケーション	2 通	2				○		5	3					兼8 共同	
	学 際 的 思 考 力	実践経営マネジメント概論	1 前		1		○									兼1 ※演習
		農業・農村の組織マネジメント	1 後		1		○			1						※演習
		観光地理学研究	1 後		1			○				1				
		ソーシャルビジネス論	1 前		1		○				1					
		防災と国際協力 I	1 後		1		○						1			※講義
		環境問題とガバナンス I	1 後		1		○			1						※講義
		人間の安全保障と国連 I	1 前		1		○				1					
		国際人権保障と平和構築 I	1 後		1		○						1			※演習
		東アジアの国際政治と歴史 I	1 前		1			○			1					※講義
		ラテンアメリカの経済と社会 I	1 後		1			○				1				※講義
		東アフリカの社会開発と文化 I	1 前		1			○				1				※講義
		感情コミュニケーションと社会的共生 I	1 後		1		○			1						
		グローバル化と国際的な人の移動 I	1 前		1			○			1					
		日本語論述表現法 I	1 前		1		○				1					※演習
		アメリカ文化研究 I	1 後		1		○				1					
		フランス思想・文化研究 I	1 後		1		○									兼1
		西洋史研究 I	1 前		1		○				1					※演習
		東アジア比較文学比較文化研究 I	1 前		1		○				1					
		ジェンダーとアイデンティティ I	1 前		1		○					1				
		多文化教育研究 I	1 後		1		○				1					
	シティズンシップ教育 I	1 後		1		○				1						
	日本文化研究 I	1 後		1		○				1						
	文化人類学研究 I	1 前		1		○				1					※演習	
	英語学研究 I	1 後		1		○				1						
	外国にルーツをもつ子ども・青年と教育 I	1 後		1		○					1					
	西洋近現代哲学研究 I	1 前		1		○					1					
Comparative Study of Contemporary Cultures I	1 前		1		○									兼1		
日本語史と日本語研究 I	1 後		1		○					1				※演習		
技術日本語	1 前		1		○									兼1		
理 系 科 目 群	文系のためのオプト・バイオサイエンス入門	1 後		1		○									兼8 オムニバス・集中	
	社会現象の数理	1 後		1		○				1						
	食品機能科学	1 後		1		○									兼3 オムニバス	
	メカニカル・エンジニアリング	1 後		1		○									兼6 オムニバス	
	情報電気電子システム工学概論	1 前		1		○									兼5 オムニバス・集中	
	博物学史	1 前		1		○									兼2 オムニバス	
文系のためのデータサイエンス	1 後		1		○					1						
実 践 力	実践インターンシップ	1・2 前・後		2				○							兼3 共同	
	実践フィールドワーク	1・2 前・後		2				○		1						
	創成工学プロジェクト演習	1 前		2				○							兼3 オムニバス・共同	
	International Political Economy	1 前		2		○									兼1 集中	
	Global Management	1 前		2		○					1				集中	
	Globalization and Society	1 後		2		○				1					集中 ※演習	
	国際インターンシップ	1・2 前・後		2				○							兼1	
臨地研究	1・2 前・後		2				○		2					共同		
小計 (48科目)	—		6	53	0		—		27	19	1	2	0	兼40		
境 界 ・ 学 際 領 域 科 目	地域社会デザイン学分析展開論：実践を問い、現場に還す	1・2 前		1				○		3	1				オムニバス・共同・集中	
	地域デザイン工学プロジェクト	1・2 前		1				○		1	4		1		共同	
	地域デザイン工学インターンシップ	1・2 前・後		1				○				2			共同	
	Communication Skills for Engineers	1 前		1			○				1					
	グローバル・エリアスタディーズ総合講義	1 前		1			○			3	1				オムニバス	
	共生社会論	1 前		2			○			1						
地域人間発達支援の実態と課題	1 前		1			○			4	3				オムニバス		
小計 (7科目)	—		0	8	0		—		12	10	0	1	0			
コ ミ ュ ニ テ ィ デ ザ ィ ン プ ロ グ ラ ム	基 盤 科 目	政策形成と協働	1 後		1			○		1					※講義	
		コミュニティ政策論	1 前		1		○				1				※演習	
		住環境・まちづくり論	1 前		1		○				1				※演習	
		自然共生デザイン論	1 前		1		○				1				※演習	
		福祉経営論	1 前		1		○								兼1 ※演習	
	社 会 シ ス テ ム デ ザ ィ ン 科	政策分析とガバナンス	1 後		1		○				1					※演習
		まちをつくる経済評価の技法	1 後		1		○					1				※演習
		経済政策論	1 後		1		○				1					※演習
		福祉社会分析	2 前		1		○					1				※演習
		地域スポーツ行政論	2 後		1		○				1					※演習
地域社会教育論	1 後		1		○					1				※演習		
地域住民の意識・行動の調査法	1 後		1			○				1						

教育課程等の概要															
(地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手
		都市と地域の社会学	1 前		1		○							兼1	
コミュニティデザイン学プログラム	地域資源マネジメント	生活文化デザイン論	1 前		1		○			1				※講義	
		地域活動の心理学	2 前		1		○			1	1			※演習	
		デザインと地域	2 前		1			○			1				
		合奏による参加型デザイン	1 後		1			○			1			※講義	
		地域食生活論	2 前		1			○			1			※講義	
		農業・農村の組織マネジメント	1 後		1			○			1			※演習	
		観光地理学研究	1 後		1			○				1			
		コミュニティデザイン学特別演習	1~2 通		4			○			17	13	1	1	
		コミュニティデザイン学特別研究	1~2 通		6			○			17	13	1	1	
		コミュニティデザイン学実践プロジェクト	1~2 通		6			○			9	8	1	1	
小計 (23科目)			—	0	36	0	—		17	13	1	1	0	兼2	
農業・農村経済学プログラム	基礎科目	農業・農村経済学	1 前		1		○			1	1				
		農政学	1 前		1		○			1					
		農業生産組織論	1 前		1		○			1					
		農業・農村史	1 後		1		○			1					
		農村社会学	1 後		1		○				1				
		アグリビジネス論	2 前		1		○			1					
		農村地理学	1 前		1		○			1					
	応用科目	マーケティング論	1 前		1		○								兼1
		ソーシャルビジネス論	1 前		1		○				1				
		統計分析論	1 後		1		○				1				
		環境経済学	2 前		1		○				1				
		フードシステム学	1 後		1		○				1				
		農業・農村経済学特別演習	1~2 通		4			○		8	6	2			
		農業・農村経済学特別研究	1~2 通		6			○		8	6	2			
		農業・農村経済学実践プロジェクト	1~2 通		6			○		5	4	1			
小計 (15科目)			—	0	28	0	—		8	6	2	0	0	兼1	
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築構造学特論A	1 前		1		○			1					
		建築構造学特論B	1 前		1		○			1					
		建築耐震設計特論A	1 前		1		○				1				
		建築耐震設計特論B	1 前		1		○				1				
		建築構造解析特論A	1 後		1		○				1				
		建築構造解析特論B	1 後		1		○				1				
		建築構造材料特論A	1・2 後		1		○			1					
		建築構造材料特論B	1・2 後		1		○			1					
		木造建築特論A	1・2 後		1		○			1					
		木造建築特論B	1・2 後		1		○			1					
		既存建築物分析学特論A	1・2 前		1		○				1				
		既存建築物分析学特論B	1・2 前		1		○				1				
		エコロジカル建築特論A	1・2 後		1		○			1					
		エコロジカル建築特論B	1・2 後		1		○			1					
		環境設備特論A	1・2 前		1		○			1					
		環境設備特論B	1・2 前		1		○			1					
		建築設計特論A	1・2 前		1		○				1				
		建築設計特論B	1・2 前		1		○				1				
		建築計画特論A	1・2 前		1		○				1				
		建築計画特論B	1・2 前		1		○				1				
		都市解析特論A	1・2 前		1		○				1				
		都市解析特論B	1・2 前		1		○				1				
		建築インターンシップ I	1・2 前・後		2				○		2				共同
		建築インターンシップ II	1・2 前・後		2				○		2				共同
		建築インターンシップ III	1・2 前・後		3				○		2				共同
		建築インターンシップ IV	1・2 前・後		2				○		2				共同
		建築インターンシップ V	1・2 前・後		2				○		2				共同
		建築インターンシップ VI	1・2 前・後		2				○		2				共同
		建築設計演習 I	1・2 前・後		2				○		3		1		共同
		建築設計演習 II	1・2 前・後		2				○		3		1		共同
		建築学特別演習 I	1 通		2				○		8	9	4		
		建築学特別演習 II	2 通		2				○		8	9	4		
		建築学特別研究	1~2 通		6				○		8	9	4		
		建築学特別設計	1~2 通		6				○		8	9	4		
小計 (34科目)			—	0	54	0	—		8	9	0	4	0		
土木工学プログラム	プログラム専門科目	橋梁工学特論	1 後		1		○				1				
		耐震工学特論	1 後		1		○				1				
		岩盤力学特論	1 前		1		○				1				
		地盤力学特論	1 前		1		○				1				
		土木材料学特論	1 後		1		○			1					
		エコマテリアル工学特論	1 後		1		○				1				
		河川工学特論	1 前		1		○			1					
海岸工学特論	1 後		1		○					1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
土 工 学 ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	水圏環境工学特論	1 前		1		○			1						共同		
	地圏環境工学特論	1 後		1		○				2							
	都市計画特論	1 前		1		○			1								
	都市交通特論	2 前		1		○			1								
	防災マネジメント特論	1 前		1		○				1							
	海外プロジェクト特論	1 前		1		○			1								
	土木工学特別演習	1~2 通		4			○		10	12			3				
土木工学特別研究	1~2 通		6				○	10	12			3					
小計(16科目)		—	0	24	0	—	—	—	10	12	0	3	0				
農 業 土 木 学 ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	環境数理A	1 前		1		○				1							
	環境数理B	1 前		1		○			1								
	土壌環境物理学A	1 前		1		○				1							
	土壌環境物理学B	1 前		1		○				1							
	農地保全学	1 後		1		○				1							
	農業水利学	1 後		1		○			1								
	応用田園生態工学A	1 後		1		○				1							
	応用田園生態工学B	1 後		1		○				1							
	地域マネジメントA	1 前		1		○				1							
	地域マネジメントB	1 前		1		○				1							
	農業農村開発と技術協力	1 前		1		○				1							
	農業土木学特別演習	1~2 通		4			○		4	11			2				
	農業土木学特別研究	1~2 通		6				○	4	11			2				
小計(13科目)		—	0	21	0	—	—	—	4	11	0	2	0				
グ ロ ー バ ル ・ エ リ ア ス タ デ ィ ー ズ ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	基 盤 科 目	貧困問題と国際協力 I	1 前		1		○			1					※演習		
		防災と国際協力 I	1 後		1		○					1				※講義	
		環境問題とガバナンス I	1 後		1			○		1						※講義	
		情報ネットワークと技術 I	1 後		1		○			1						※演習	
		人間の安全保障と国連 I	1 前		1		○				1					※演習	
		国際人権保障と平和構築 I	1 後		1		○					1				※演習	
		Globalization and Project Management I	1 後		1		○				1					※演習	
		グローバル教育と開発教育 I	1 後		1		○			1						※演習	
		国際NPO起業とその実践 I	1 前		1		○			1						兼2 オムニバス ※演習	
		グ ロ ー バ ル ・ エ リ ア ス タ デ ィ ー ズ ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	グ ロ ー バ ル ・ エ リ ア ス タ デ ィ ー ズ 科 目	貧困問題と国際協力 II	1 前		1		○			1					※演習
	防災と国際協力 II			1 後		1		○					1				※演習
	環境問題とガバナンス II			1 後		1			○		1						※講義
	情報ネットワークと技術 II			1 後		1		○			1						※演習
	人間の安全保障と国連 II			1 前		1		○				1					※演習
	国際人権保障と平和構築 II			1 後		1		○					1				※演習
	Globalization and Project Management II			1 後		1		○				1					※演習
	グローバル教育と開発教育 II			1 後		1		○			1						※演習
	国際NPO起業とその実践 II			1 前		1		○			1						兼1 オムニバス・共同(一部) ※演習
	エ リ ア ス タ デ ィ ー ズ 科 目			エ リ ア ス タ デ ィ ー ズ 科 目	タイの開発と地域社会 I	1 後		1		○			1				
		タイの開発と地域社会 II	1 後			1		○			1					※講義	
		東アジアの国際政治と歴史 I	1 前			1		○				1				※講義	
		東アジアの国際政治と歴史 II	1 前			1		○				1				※講義	
		東アジアの歴史と文化 I	1 前			1		○			1					※演習	
		東アジアの歴史と文化 II	1 前			1		○			1					※演習	
		日本の自然と地域生活 I	1 前			1		○				1				※講義	
		日本の自然と地域生活 II	1 前			1		○				1				※講義	
		アメリカの経済と金融 I	1 後			1		○			1					※演習	
		アメリカの経済と金融 II	1 後			1		○			1					※演習	
	エ リ ア ス タ デ ィ ー ズ 科 目	エ リ ア ス タ デ ィ ー ズ 科 目	ラテンアメリカの経済と社会 I	1 後		1		○				1				※演習	
			ラテンアメリカの経済と社会 II	1 後		1		○				1				※演習	
中東地域の政治と社会 I			1 後		1		○				1				※演習		
中東地域の政治と社会 II			1 後		1		○				1				※演習		
東アフリカの社会開発と文化 I			1 前		1		○				1				※講義		
東アフリカの社会開発と文化 II			1 前		1		○				1				※講義		
特別臨地研究 I			1・2 前・後		2				○	1	1					共同	
特別臨地研究 II			1・2 前・後		2				○	1	1					共同	
グローバル・エリアスタディーズ特別演習			1~2 通		4				○	18	15	2	2			兼3	
グローバル・エリアスタディーズ特別研究			1~2 通		6				○	18	15	2	2			兼3	
グローバル・エリアスタディーズ実践プロジェクト	1~2 通		6				○	7	7		2			兼3			
小計(39科目)		—	0	54	0	—	—	—	18	15	2	2	0				
多 文 化 共 生 学 ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	基 盤 科 目	現代英語研究 I	1 前		1		○			1					※演習		
		感情コミュニケーションと社会的共生 I	1 後		1		○			1							
		日本表象文化研究 I	1 前		1		○				1						
		グローバル化と国際的な人の移動 I	1 前		1		○				1						
		日本語論述表現法 I	1 前		1		○				1						
		多文化教育研究 I	1 後		1		○				1						
		現代英語研究 II	1 後		1		○				1						
応 用	基 盤 科 目	感情コミュニケーションと社会的共生 II	1 後		1		○			1							
			1 後		1		○			1							



教 育 課 程 等 の 概 要

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
フ	ム	用科目	日本表象文化研究Ⅱ	1前		1		○			1										
			グローバル化と国際的な人の移動Ⅱ	1前		1		○			1										
			日本語論述表現Ⅱ	1前		1				○		1							※講義		
多文化共生学プログラム	プログラム	応用科目	多文化教育研究Ⅱ	1後		1		○			1										
			国際交流と日本語教育Ⅰ	1前		1		○			1								※演習		
			国際交流と日本語教育Ⅱ	1前		1				○		1								※講義	
			アメリカ文化研究Ⅰ	1後		1			○			1									
			アメリカ文化研究Ⅱ	1後		1			○			1									
			イギリス文化研究Ⅰ	2前		1			○				1								
			イギリス文化研究Ⅱ	2前		1			○				1								
			フランス思想・文化研究Ⅰ	1後		1			○											兼1	
			フランス思想・文化研究Ⅱ	1後		1			○												兼1
			西洋史研究Ⅰ	1前		1			○				1								※演習
			西洋史研究Ⅱ	1前		1					○		1								※講義
			性と人権論Ⅰ	1前		1				○				1							※講義
			性と人権論Ⅱ	1前		1				○				1							
			東アジア比較文学比較文化研究Ⅰ	1前		1				○				1							
			東アジア比較文学比較文化研究Ⅱ	1前		1				○				1							
			人権と法Ⅰ	1後		1				○					1						
			人権と法Ⅱ	1後		1				○					1						
			ジェンダーとアイデンティティⅠ	1前		1				○					1						
			ジェンダーとアイデンティティⅡ	1後		1				○					1						
			シティズンシップ教育Ⅰ	1後		1				○				1							
			シティズンシップ教育Ⅱ	1後		1				○				1							
			日本文学研究Ⅰ	1前		1				○				1							
			日本文学研究Ⅱ	1前		1				○				1							
			日本文化研究Ⅰ	1後		1				○				1							
			日本文化研究Ⅱ	1後		1				○				1							
			文化人類学研究Ⅰ	1前		1				○				1							※演習
			文化人類学研究Ⅱ	1前		1				○				1							※講義
			言語普遍性と英文法研究Ⅰ	2前		1					○			1							
			言語普遍性と英文法研究Ⅱ	2前		1					○			1							
			英語音声学Ⅰ	1後		1					○			1							
			英語音声学Ⅱ	1後		1					○			1							
			英語学研究Ⅰ	1後		1					○			1							
			英語学研究Ⅱ	1後		1					○			1							
			植民地教育史Ⅰ	1後		1					○				1						
			植民地教育史Ⅱ	1後		1					○				1						
			外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ	1後		1					○				1						
			外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅱ	1後		1					○				1						
			芸術学研究Ⅰ	1後		1					○				1						
			芸術学研究Ⅱ	1後		1					○				1						
			音楽創作文化研究Ⅰ	1後		1						○		1							※講義
			音楽創作文化研究Ⅱ	1後		1						○		1							※講義
			西洋近代哲学研究Ⅰ	1前		1					○				1						
			西洋近代哲学研究Ⅱ	1前		1					○				1						
			日本史研究Ⅰ	1後		1					○				1						※演習
			日本史研究Ⅱ	1後		1					○				1						※演習
			日本語教育学研究Ⅰ	1前		1					○				1						※演習
			日本語教育学研究Ⅱ	1前		1					○				1						※演習
			ヨーロッパ表象文化研究Ⅰ	2前		1						○			1						
			ヨーロッパ表象文化研究Ⅱ	2前		1						○			1						
			Comparative Study of Contemporary CulturesⅠ	1前		1					○										兼1
Comparative Study of Contemporary CulturesⅡ	1前		1					○										兼1			
日本語史と日本語研究Ⅰ	1後		1					○				1						※演習			
日本語史と日本語研究Ⅱ	1後		1						○			1						※講義			
古代日本語文化研究Ⅰ	1後		1					○										兼1			
古代日本語文化研究Ⅱ	1後		1					○										兼1			
グローバル時代の学校教育Ⅰ	2前		1						○				1								
グローバル時代の学校教育Ⅱ	2前		1						○				1								
多文化共生学特別演習	1~2通				4				○		26	22	2	1							
多文化共生学特別研究	1~2通				6				○		16	22	2	1							
多文化共生学実践プロジェクト	1~2通				6				○		26	11	1								
小計(71科目)			—	0	84	0	—	—	—	—	26	22	2	1	0			兼3			
地域人間発達支援学	プログラム	基礎科目	人間発達支援方法論	1前		2		○				1									
			社会的思考支援論	1後		2		○					1								
			生涯発達支援論	1前		2		○												兼1	
			共に生きるかたちの心理学特論	1後		2		○					1							※演習	
			ヘルスプロモーション特論	1後		2		○												兼1	
			生活環境創造支援論	1前		2		○				3	1								
			地域アートマネジメント(美術)	1前		2				○				1							
地域アートマネジメント(音楽)	1後		2				○						1								



教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
<p><b>グローバル・エアスタディーズプログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から2単位以上、「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・「境界・学際領域科目」のグローバル・エアスタディーズ総合講義（1単位）を必ず修得すること。</li> <li>・「プログラム専門科目」の「基盤科目」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・「プログラム専門科目」の「グローバル・スタディーズ科目」から2単位以上、「エアスタディーズ科目」から4単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・「プログラム専門科目」のグローバル・エアスタディーズ特別演習（4単位）及びグローバル・エアスタディーズ特別研究（6単位）又はグローバル・エアスタディーズ実践プロジェクト（6単位）を必ず修得すること。</li> <li>・「プログラム専門科目」のグローバル・エアスタディーズ実践プロジェクト（6単位）を選択する場合は、「プログラム専門科目」の特別臨地研究Ⅰ（2単位）又は特別臨地研究Ⅱ（2単位）から2単位以上を必ず修得すること。</li> </ul> <p><b>多文化共生学プログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から2単位以上、「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・「境界・学際領域科目」の共生社会論（2単位）を必ず修得すること。</li> <li>・「プログラム専門科目」の「基盤科目」から2単位以上、「応用科目」から4単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・「プログラム専門科目」の多文化共生学特別演習（4単位）及び多文化共生学特別研究（6単位）又は多文化共生学実践プロジェクト（6単位）を必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、他のプログラム専門科目から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul> <p><b>地域人間発達支援学プログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から2単位以上、「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・「境界・学際領域科目」の地域人間発達支援の実際と課題（1単位）を必ず修得すること。</li> <li>・「プログラム専門科目」の「基盤科目」から2単位以上、「応用科目」から4単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・「プログラム専門科目」の地域人間発達支援学特別演習（4単位）及び地域人間発達支援学特別研究（6単位）又は地域人間発達支援学実践プロジェクト（6単位）を必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、他のプログラム専門科目から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul>													

教育課程等の概要																	
(地域創生科学研究科 工農総合科学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
地域創生リテラシー	学際的思考力	地域創生のための社会デザイン&イノベーション	1前	2			○			2	1		1		兼5	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		現代社会を見通す:生命と感性の科学	1前	1			○			4	3				兼10	オムニバス・共同(一部)・集中 ※演習	
		グローバルな視座を養う	1後	1			○								兼10	オムニバス・共同(一部)	
		アカデミックコミュニケーション	2通	2				○		8					兼8	共同	
	文系科目群	実践経営マネジメント概論	1前		1			○		1							
		農業・農村の組織マネジメント	1後		1			○								兼1	※演習
		観光地理学研究	1後		1				○							兼1	
		ソーシャルビジネス論	1前		1			○								兼1	
		防災と国際協力I	1後		1			○								兼1	
		環境問題とガバナンスI	1後		1				○							兼1	※講義
		人間の安全保障と国連I	1前		1			○								兼1	
		国際人権保障と平和構築I	1後		1			○								兼1	※演習
		東アジアの国際政治と歴史I	1前		1				○							兼1	※講義
		ラテンアメリカの経済と社会I	1後		1				○							兼1	
		東アフリカの社会開発と文化I	1前		1				○							兼1	※講義
		感情コミュニケーションと社会的共生I	1後		1			○								兼1	
		グローバル化と国際的な人の移動I	1前		1				○							兼1	
		日本語論述表現法I	1前		1				○							兼1	※演習
		アメリカ文化研究I	1後		1				○							兼1	
		フランス思想・文化研究I	1後		1				○							兼1	
		西洋史研究I	1前		1				○							兼1	※演習
		東アジア比較文学比較文化研究I	1前		1				○							兼1	
		ジェンダーとアイデンティティI	1前		1				○							兼1	
		多文化教育研究I	1後		1				○							兼1	
		シティズンシップ教育I	1後		1				○							兼1	
		日本文化研究I	1後		1				○							兼1	
		文化人類学研究I	1前		1				○							兼1	※演習
		英語学研究I	1後		1				○							兼1	
		外国にルーツをもつ子ども・青年と教育I	1後		1				○							兼1	
		西洋近現代哲学研究I	1前		1				○							兼1	
		Comparative Study of Contemporary Cultures I	1前		1				○							兼1	
		日本語史と日本語研究I	1後		1				○							兼1	※演習
技術日本語	1前		1				○				1						
実践力	実践インターンシップ	1・2前・後		2				○	1	1		1			兼1	共同	
	実践フィールドワーク	1・2前・後		2				○									
	創成工学プロジェクト演習	1前		2				○	1	1		1			兼1	オムニバス・共同	
	International Political Economy	1前		2			○								兼1	集中	
	Global Management	1前		2			○								兼1	集中	
	Globalization and Society	1後		2			○								兼1	集中 ※演習	
	国際インターンシップ	1・2前・後		2				○	1								
臨地研究	1・2前・後		2				○							兼2	共同		
小計(41科目)			—	6	45	0	—	—	10	4	1	2	0	兼50			
境界・学際領域科目	基礎光学	1前		1			○					1			兼4	オムニバス	
	光学基盤技術	1後		1			○										
	遺伝子情報解析技術論	1前		1			○		1								
	細胞解析技術論	1前		1			○			1							
	質量分析装置解析技術論	1後		1			○			1							
	バイオデザイン・プロセス学	1後		1			○		1	1					兼1	オムニバス	
	環境分析化学	1後		1			○		2						兼1	オムニバス	
	化学システム工学	1後		1			○			1							
	物質プロセス工学	2前		1			○		1								
	分子生理化学	2前		1			○			2						兼1	オムニバス
	界面化学	2前		1			○		1								
	食品機能科学	1後		1			○		2		1				兼1	オムニバス	
	材料組織評価学	1前		2			○			1							
	生体機械工学	1前		2			○		1								
	マイクロ・ナノ工学	1後		2			○		1								
	メカトロニクス制御	1後		2			○		2								
	基礎/発展 電磁気学	1前		2			○					1					
	量子エレクトロニクス	1後		2			○			1							
	エンジニアリング	1前		2			○			1					兼1	オムニバス・共同(一部)・集中	
	情報電気電子システム工学特別講義	1・2後		1			○			1							
	スマート農林業	1後		1			○		6	1						兼1	オムニバス
	政策課題演習	1後		1			○		6	1						兼1	オムニバス・共同(一部)
小計(22科目)			—	0	28	0	—	—	18	9	1	2	0	兼5			
光工学プログラ	プログラム専門	Scientific Writing	2前		1			○	1								
		波動光学	1・2前		2			○	1								
		光計測	1・2後		2			○	1								
		光導波路デバイス	1・2後		2			○	1								
		情報光学	1・2後		2			○	1								
		レーザープラズマ工学	1・2前		2			○	1								

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生科学研究科 工農総合科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ム	科目	光学設計	1 後	2											兼1	
		数理光物理学	1・2 前	2						1						
光工学プログラム	プログラム専門科目	感性情報処理	1・2 前	2			○			1					兼2 オムニバス 兼1 集中	
		先端フォトニクス	1・2 前	2			○			1	1					
		オプトメカトロニクス	1・2 前	2			○									
		光学システム科学	1・2 後	2			○					1				
		可視化情報工学	1・2 後	2			○				1					
		画像工学	1 後	2			○									
		ディスプレイ工学	1・2 後	2			○			1						
		パワーレーザー工学	1・2 前	2			○									
		光工学特別演習	1~2 通	4				○		11	13	1	3			
		光工学特別研究	1~2 通	6					○	11	13	1	3			
小計(18科目)		—	0	41	0	—	—	—	11	13	1	3	0	兼4		
分子農学プログラム	プログラム専門科目	植物分子保護学	1・2 後	2			○			1		1			オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
		植物分子遺伝育種学	1・2 後	2			○			2	1					
		分子植物生理学	1・2 前	2			○			3						
		分子進化生態学	1・2 後	2			○			1						
		動物分子生理学	1・2 前	2			○			1						
		動物生殖遺伝学	1・2 後	2			○			2						
		分子農学特別演習	1~2 通	4				○		13	16	1	5			
		分子農学特別研究	1~2 通	6					○	13	16	1	5			
小計(8科目)		—	0	22	0	—	—	—	13	16	1	5	0			
物質環境化学プログラム	プログラム専門科目	物理化学要論	1 前	2			○			2	1				オムニバス ※演習 オムニバス ※演習 オムニバス ※講義 オムニバス ※演習	
		分子構造化学	1 前	2			○			7	8					
		分子機能化学	1 後	2				○		2	2					
		物質・環境工学	1 後	2			○			1	3					
		物質環境化学特別演習	1~2 通	4				○		16	14	2	6			
		物質環境化学特別研究	1~2 通	6					○	16	14	2	6			
小計(6科目)		—	0	18	0	—	—	—	16	14	2	6	0			
農芸化学プログラム	プログラム専門科目	フロンティア農芸化学	1 前	2			○			4					オムニバス・共同(一部) ※演習 オムニバス オムニバス オムニバス・共同(一部) ※演習	
		生理活性物質化学	1 前	2			○			2	2					
		栄養生理化学	2 前	2			○			2	1					
		植物機能化学	1 後	2			○			2	1					
		科学技術と私たちの暮らし	1 前	2			○			1						
		農芸化学特別演習	1~2 通	4				○		18	15	2	6			
		農芸化学特別研究	1~2 通	6					○	18	15	2	6			
小計(7科目)		—	0	20	0	—	—	—	18	15	2	6	0			
機械知能工学プログラム	プログラム専門科目	実験流体力学	1 後	2			○			1						
		材料・接合工学	1 前	2			○			1						
		生産技術工学	1 前	2			○				1					
		先端精密加工学	1 後	2			○				1					
		成形プロセス工学	1 前	2			○				1					
		力学系理論	1 前	2			○				1					
		確率システム理論	1 後	2			○			1						
		ロボット技術	1 後	2			○			1						
		知能ロボット	1 後	2			○				1					
		幾何数理機械工学	1 前	2			○				1					
		非線形現象の幾何学 I	1 前	2			○			1						
		非線形現象の幾何学 II	1 後	2			○			1						
		機械知能工学特別演習	1~2 通	4				○		10	12	1	5			
		機械知能工学特別研究	1~2 通	6					○	10	12	1	5			
小計(14科目)		—	0	34	0	—	—	—	10	12	1	5	0			
情報電気電子システム工学プログラム	基礎科目	数理科学特論	1 前	2			○			1						
		数理解析特論	1 後	2			○				1					
		非線形解析特論	1 前	2			○				1					
		応用数学特論	1 後	2			○				1					
	プログラム専門科目	基礎要素技術科目	信号処理特論	1 後	2			○			1					
			ソフトウェア概論	1 前	2			○				1				
			データ工学	1 後	2			○				1				
			デジタル画像工学	1 後	2			○				1				
			音響情報工学	1 後	2			○				1				
			情報量統計学	1 前	2			○				1				
			超伝導エレクトロニクス	1 前	2			○				1				
			スピントロニクス	1 後	2			○				1				
			光制御回路工学	1 前	2			○				1				
			マイクロ波・ミリ波回路工学	1 前	2			○				1				
			エネルギー科学	1 前	1			○				1				
レーザー工学	1 前	2			○				1							
電気自動車	1 前	2			○				1							
アドバンストパワーエレクトロニクス	1 前	2			○				1							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域創生科学研究科 工農総合科学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	ロボスト制御理論	1 前		2		○			1						
	材料物性の量子論	1 前		2		○			1						
	ソリッドステートの物理	1 後		2		○				1					
情報電気電子システム工学プログラム	システム応用技術科目 プログラム専門科目	応用情報システム特論	1 後	2		○			1						
		情報ネットワーク特論	1 前	2		○			1						
		計算機アーキテクチャ特論	1 前	2		○			1						
		スマートシティーテクノロジー	1 後	1		○			1						
		大規模システム最適化	1 前	2		○				1					
		システムバイオロジー	1 後	2		○				1					
		画像復元処理特論	1 後	2		○			1						
		感性情報処理システム	1 後	2		○			1						
		コンピュータグラフィック特論	1 後	2		○				1					
		ネットワークコンピューティング特論	1 後	2		○			1						
		情報電気電子システム工学特別演習	1~2 通	4				○		18	21		9		
		情報電気電子システム工学特別研究	1~2 通	6					○	18	21		9		
小計 (33科目)			—	0	70	0	—	18	21	0	9	0			
農業生産環境保全学プログラム	プログラム専門科目	地球環境史特論	1 前	1		○			1						
		作物生理生態学	1 前	1		○			1						
		植物栄養・肥料学	1 前	1		○			1						
		地域土壌園科学	1 前	1		○			1						
		園芸作物生理学	1 前	1		○			1						
		植物細菌学	1 後	1		○				1					
		作物生産技術の現状と課題, 展望	1 後	1		○				1					
		園芸フィールド生理学	1 前	1		○					1				
		作物品種改良学	1 後	1		○			1						
		防除分子生態学	1 後	1		○			1						
		生物とウイルスの関係学	1 後	1		○				1					
		動物行動管理学	1 後	1		○				1					
		動物形態学	1 前	1		○					1				
		ヒトと動物の関係学	1 後	1		○			1						
		雑草管理学	1 前	1		○			1						
		植生管理学	1 前	1		○				1					
		野生動物管理学	1 前	1		○				1					
		生物生産環境情報工学	1 前	1		○			1						
		生物環境調節学	1 後	1		○			1						
		生物生産機械学	1 後	1		○			1						
		生物環境システム工学	1 後	1		○				1					
		食品流通工学	1 前	1		○					1				
		生産流通システム工学	1 後	1		○				1					
植物生産環境学	1 後	1		○					1						
Scientific English	1 前	1				○			1						
農業生産環境保全学特別講義I	1 通	1			○			1					兼4 オムニバス 取演習		
農業生産環境保全学特別講義II	1 通	1			○			1					兼4 オムニバス 取演習		
農業生産環境保全学特別講義III	1 通	1			○			3	2		1		兼4 オムニバス 取演習		
農業生産環境保全学特別演習	1~2 通	4				○		27	24	1	11				
農業生産環境保全学特別研究	1~2 通	6					○	27	24	1	11				
小計 (30科目)			—	0	38	0	—	27	24	1	11	0	兼8		
森林生産保全学プログラム	基礎科目	森林生産育林学	1 前	1		○			1	1				オムニバス・共同(一部)	
		森林管理政策学	1 前	1		○			1	1		1		オムニバス	
		森林工学	1 前	1		○			1	1				オムニバス	
		森林生産利用学	1 前	1		○			1	1				オムニバス	
	応用科目	森林生態育林学	1 前	1		○			1						
		治山砂防学	1 前	1		○			1						
		森林政策学	1 前	1		○			1						
		森林管理計画学	1 前	1		○				1					
		森林作業学	1 前	1		○				1					
		森林植物学	1 後	1		○				1					
		森林経済学	1 前	1		○						1			
		樹木木質学	1 前	1		○			1						
		森林資源管理学	1 後	1		○				1					
		森林生産保全学特別講義	1 通	1		○			4	4			1		オムニバス・共同(一部) 取演習
		森林生産保全学特別演習	1~2 通	4				○		25	13		6		
		森林生産保全学特別研究	1~2 通	6					○	25	13		6		
小計 (16科目)			—	0	24	0	—	25	13	0	6	0			
合計 (195科目)			—	6	340	0	—	66	59	5	27	0	兼67		
学位又は称号		修士(光工学), 修士(分子農学), 修士(工学), 修士(農学)			学位又は学科の分野			工学関係, 農学関係							

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域創生科学研究科 工農総合科学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
修了要件は、地域創生リテラシー科目から10単位以上、境界・学際領域科目及びプログラム専門科目（「特別演習」「特別研究」を含む）から20単位以上の計30単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。 なお、地域創生リテラシー科目は、「文系科目群」から2単位以上、「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					
光工学プログラム ・「境界・学際領域科目」の基礎光学（1単位）、光学基盤技術（1単位）、遺伝子情報解析技術論（1単位）、細胞解析技術論（1単位）又は質量分析装置解析技術論（1単位）から1単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の光工学特別演習（4単位）及び光工学特別研究（6単位）を含み16単位以上を必ず修得すること。														
分子農学プログラム ・「境界・学際領域科目」の基礎光学（1単位）、光学基盤技術（1単位）、遺伝子情報解析技術論（1単位）、細胞解析技術論（1単位）又は質量分析装置解析技術論（1単位）から1単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の分子農学特別演習（4単位）及び分子農学特別研究（6単位）を含み16単位以上を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、他のプログラム専門科目から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。														
物質環境化学プログラム ・「境界・学際領域科目」のバイオデザイン・プロセス学（1単位）、環境分析化学（1単位）、化学システム工学（1単位）、物質プロセス工学（1単位）、分子生理化学（1単位）、界面化学（1単位）又は食品機能科学（1単位）から2単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の物質環境化学特別演習（4単位）及び物質環境化学特別研究（6単位）を含み14単位以上を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、他のプログラム専門科目から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。														
農芸化学プログラム ・「境界・学際領域科目」のバイオデザイン・プロセス学（1単位）、環境分析化学（1単位）、化学システム工学（1単位）、物質プロセス工学（1単位）、分子生理化学（1単位）、界面化学（1単位）又は食品機能科学（1単位）から2単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の農芸化学特別演習（4単位）及び農芸化学特別研究（6単位）を含み14単位以上を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、他のプログラム専門科目から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。														
機械知能工学プログラム ・「境界・学際領域科目」の材料組織評価学（2単位）、生体機械工学（2単位）、マイクロ・ナノ工学（2単位）又はメカトロニクス制御（2単位）から2単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の機械知能工学特別演習（4単位）及び機械知能工学特別研究（6単位）を含み14単位以上を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、他のプログラム専門科目から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。														
情報電気電子システム工学プログラム ・「境界・学際領域科目」の基礎/発展 電磁気学（2単位）、量子エレクトロニクス（2単位）、エンジニアリング（1単位）又は情報電気電子システム工学特別講義（1単位）から2単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の「基盤科目」から2単位以上、「基盤要素技術科目」から2単位以上、「システム応用技術科目」から2単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の情報電気電子システム工学特別演習（4単位）及び情報電気電子システム工学特別研究（6単位）を必ず修得すること。														
農業生産環境保全学プログラム ・「境界・学際領域科目」のスマート農林業（1単位）及び政策課題演習（1単位）を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」から農業生産環境保全学特別演習（4単位）及び農業生産環境保全学特別研究（6単位）を含み15単位以上を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、他のプログラム専門科目から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。														
森林生産保全学プログラム ・「境界・学際領域科目」のスマート農林業（1単位）及び政策課題演習（1単位）を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の「基盤科目」4単位、「応用科目」から4単位を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の森林生産保全学特別演習（4単位）及び森林生産保全学特別研究（6単位）を必ず修得すること。														

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別演習	<p>博士論文の構想を具体化させ、論文題目、内容、構成、必要資料、学会発表、論文投稿等の基礎条件を備えた研究計画書の作成指導を行い、学期末に提出させる。本科目は主指導教員、副指導教員（研究）の指導の下で実施されるが、研究計画書の発表・討論には副指導教員（融合教育）も参加することにより、幅広い基礎知識、多様な観点や分析方法の修得など、学際的教育研究環境を保障する。</p> <p>(1) 単 躍進 ) 機能性無機材料に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(2) 湯上 登 ) レーザー生成プラズマに関する論文を調査し課題解決方法を学び、学生と教員などとの討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題解決能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(3) 杉原 興浩 ) 光通信材料・デバイス・システムに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(4) 上原 伸夫 ) 計測化学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(5) 大谷 幸利 ) 光工学、特に、偏光工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。</p> <p>(6) 加藤 紀弘 ) バイオマテリアルに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(7) 早崎 芳夫 ) 光工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(8) 佐藤 正秀 ) プロセス・化学工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(9) 大庭 亨 ) 生体分子及び生体超分子に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(10) 飯村 兼一 ) 界面化学に関する論文を調査し、高度な知識を身に着け、課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(11) 山本 裕紹 ) 情報フォトニクスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(12) 佐藤 美恵 ) ヒューマンインタフェース・インタラクション、感性情報学、知覚情報処理に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(13) 高山 善匡 ) マテリアル工学、接合工学、エコマテリアル、環境負荷低減に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(14) 藤原 浩巳 ) コンクリート工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(15) 横田 隆史 ) 先端計算機システム技術に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(16) 池田 裕一 ) 流域デザインに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(17) 矢嶋 徹 ) 非線形波動をはじめとする数理物理学の分野で論文の調査や数値解析を行って課題を解決する手法を学ぶとともに、研究室内外の学生や教員等々の討論を通じて実践的なコミュニケーション能力、課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(18) 横田 和隆 ) メカトロニクス、ロボティクスに関する先行研究について調査し、教員との討論を通じてコミュニケーション能力、課題発見・課題解決能力を身につけ、学位論文完成までの研究計画を立案する。</p> <p>(19) 中島 史郎 ) 木質構造をはじめとする木造建築に関する論文を調査・分析し、関連する研究分野の最新研究動向を把握し、研究計画・研究方法・研究内容について学生と教員が討議を行う。また、研究の進捗や課題についての討議を行う。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別演習	<p>(20) 増田 浩志 ) 耐震設計に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(21) 長谷川 裕晃 ) 流体力学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(22) 伊藤 聡志 ) 医用画像処理、MRIやX線CTなどの画像再構成に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(23) 入江 晃吾 ) 超伝導デバイスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(24) 船渡 寛人 ) パワーエレクトロニクスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(25) 杉山 央 ) 建築材料に関する研究論文を調査して課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(26) 石田 邦夫 ) 光物性に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(27) 古神 義則 ) 高周波回路工学、電磁波応用工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(28) 長谷川 光司 ) 知覚情報処理及び感性情報処理に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(29) 尾崎 功一 ) ロボット工学、ロボット技術・ロボット応用に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(30) 吉田 勝俊 ) ランダム現象に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(31) 馬淵 豊 ) マイクロ・ナノ工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(32) 嶋脇 聡 ) 生体計測、福祉工学、バイオメカニクスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(33) 平田 光男 ) システム制御工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(34) 大津 金光 ) 高性能計算システムに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(35) 長谷川 まどか ) 画像符号化および画像処理に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(36) 東口 武史 ) レーザー工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(37) 山岡 暁 ) プロジェクトマネジメントに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(38) 磯谷 玲 ) アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(39) 下田 淳 ) 歴史学・西洋史に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別演習	<p>（40）湯本 浩之） グローバル教育や開発教育などに関する論文を調査し、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・問題解決能力を修得する。</p> <p>（41）丁 貴連） 東アジア比較文学比較文化に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（42）戚 傑） 多文化教育に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（43）Malee Kaewmanotham） タイ都市社会に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（44）吉田 一彦） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（45）中村 祐司） 政策研究やガバナンスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（46）鈴木 啓子） 日本近代文学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（47）中村 真） 対人コミュニケーションに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（48）石川 由美子） 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する文献をクリティカルに読み合うことで、地域活動を通じた研究の手法を学ぶ。学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。</p> <p>（49）松井 貴子） 日本文学比較文化論に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（50）高橋 俊守） 地域生態学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（51）松金 公正） 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。</p> <p>（52）米山 正文） アメリカ文学・文化に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（53）横尾 昇剛） 建築都市環境に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（54）大森 玲子） 食生活と健康に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（55）大森 宣暁） 都市計画および都市交通に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（56）高橋 若菜） 環境政治に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（57）吉原 佐知雄） 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（58）二宮 尚） 熱工学や可視化情報学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別演習	<p>(59) 刈込 道德 ) 有機合成化学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(60) 松本 太輝 ) 無機物質・材料に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(61) 手塚 慶太郎 ) 無機材料に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(62) 佐藤 剛史 ) 反応工学および分離工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(63) 古澤 毅 ) 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(64) 諸星 知広 ) 微生物の遺伝子工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(65) 藤村 隆史 ) 光情報記録、太陽光発電、エナジーハーベスティングなど、光応用工学に関連した研究分野を調査する。その分野における問題点を明らかにして、これまでになされてきた取り組みが何を解決し、現時点でどのような課題が残されているかをまとめる。</p> <p>(66) 茨田 大輔 ) マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。</p> <p>(67) 玉田 洋介 ) バイオイメージング、光細胞操作、およびそれらの基盤となる光工学研究と、それらによって初めて明らかにされる新しい生命現象の研究、光と生物の相互作用に関する研究に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(68) 児玉 豊 ) 分子農学関連の細胞生物学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(69) 鈴木 智大 ) 生化学・分子生物学・天然物化学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(70) 宮川 一志 ) 環境と生物の相互作用に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(71) 篠田 一馬 ) 光イメージングに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(72) 寄川 弘玄 ) 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(73) 郷 艶華 ) 磁気力を援用した加工法に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(74) 柏倉 隆之 ) X線分光分析に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(75) 清水 隆文 ) 岩盤工学や地下空間設計学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(76) 白寄 篤 ) 変形加工に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(77) 丸岡 正知 ) セメント・コンクリート・建設材料に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別演習	<p>（78）渡邊 信一） 心理計測に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（79）佐藤 隆之介） 切削加工，研削加工，研磨加工，ナノマシニングに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（80）森 大毅） 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（81）東 剛人） 先端システム制御工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（82）依田 秀彦） 光ファイバ通信，光デバイス，光学材料など光エレクトロニクスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（83）藤倉 修一） 橋梁耐震工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（84）石川 智治） 感性情報学，認知科学，心理物理学などに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（85）小池 正史） 理論物理学，素粒子物理学，数理論理学，数理学などに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（86）外山 史） ソフトコンピューティングに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（87）山本 篤史郎） 材料組織学に関する論文を調査し課題を選定の上，その課題解決方法を学ぶ。また，教員ならびに学生との討論を通して，機械材料の研究開発に必要な能力を修得する。</p> <p>（88）中野 達也） 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（89）佐久間 洋志） スピントロニクスや結晶構造解析に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（90）藤井 雅弘） 無線通信システム，高度交通システム，位置情報システムなどに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（91）清水 隆志） マイクロ波・ミリ波に関する計測技術，回路設計技術，応用利用等に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（92）関川 宗久） 非線形現象に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（93）海野 寿康） 土質力学，地盤工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（94）藤本 郷史） 建築材料・構工法に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（95）星野 智史） 知能ロボットシステムに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（96）森 博志） ビジュアル情報処理に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（97）後藤 博樹） 電動機に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別演習	<p>（ 98 ） 谷島 尚宏 ） 応用力学，数理学，幾何学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 99 ） Sueyoshi Ana ） 特にフテンアメリカ政治経済に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 100 ） 古賀 誉章 ） 建築計画学および建築環境工学等に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 101 ） 古村 学 ） 村落社会に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 102 ） 阪本 公美子 ） 社会開発や地域研究に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 103 ） 松尾 昌樹 ） 中東地域の政治・経済現象に関する分析を行うとともに，その成果を発表し，議論を通じて課題解決能力を養う。</p> <p>（ 104 ） 石井 大一朗 ） コミュニティ政策に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 105 ） 高山 道代 ） 日本語史領域の基礎的な知識に基づき，学生各人のテーマに沿って文献調査およびテキスト調査をおこなう。また，学生や教員との討論を通じてコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を養う。</p> <p>（ 106 ） 山田 有希子 ） 哲学・倫理学に関する論文を理解し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 107 ） 三田 妃路佳 ） 公共政策や政治過程に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 108 ） 高山 慶子 ） 日本史に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 109 ） 清水 奈名子 ） 国際機構論に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 110 ） 佐藤 栄治 ） 建築計画や都市計画，その他に医療・福祉に関する都市課題に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 111 ） 大野 斉子 ） ロシア，ヨーロッパ地域文学・文化論に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 112 ） 中川 敦 ） 福祉会話分析の研究を進める上で必要な関連文献を講読し，自らのデータを用いて分析を進め，その分析を深化させるための議論を行うことで，福祉現象を社会的に解明し，課題を解決する能力を修得する。</p> <p>（ 113 ） 近藤 伸也 ） 防災マネジメントに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 114 ） 出羽 尚 ） 美術史に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 115 ） 松村 史紀 ） 東アジア国際関係史に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>（ 116 ） 長田 哲平 ） 都市および交通に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究 I	<p>「特別研究I」, 「特別研究II」, 「特別研究III」は, 主指導教員と副指導教員（研究）の継続的な指導の下で博士論文研究を遂行し, その過程の各段階を総合的に評価して単位を認定するものである。授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定されるが, 基本的に「特別演習」によって立案した研究計画（PLAN）に立脚して博士論文研究を進める（DO）ことが前提である。研究の進行状況に応じて成果は随時とりまとめ, 主としてセミナー形式で指導教員に報告する。</p> <p>博士論文の作成にあたっては, 「特別演習」で身に付けた研究者として必要な倫理観へのとり, 最前線の研究動向に対して理解を深めると共に, 自らの研究を発表し, 討論を通して改善することが求められる。</p> <p>1年次の末には「特別セミナー」において取り組んでいる研究課題について中間発表を行う（CHECK）ので, それを見据えて, 研究課題の遂行, 投稿論文, 口頭発表などの対外的な成果発表を行う。</p> <p>なお上記内容には, 境界領域・学際領域の観点から他分野に関するディスカッション等も含む。</p> <p>（1）単 躍進） 新規機能性無機材料の創製に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（2）湯上 登） レーザー生成プラズマからの電磁波, 特にテラヘルツ領域の電磁波の放射に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（3）杉原 興浩） 光通信材料・デバイス・システムに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（4）上原 伸夫） 計測化学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（5）大谷 幸利） 光工学, 特に, 偏光工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（6）加藤 紀弘） 機能性材料をバイオテクノロジー分野で利用する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（7）早崎 芳夫） 光工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（8）佐藤 正秀） プロセス・化学工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（9）大庭 亨） 生体分子及び生体超分子に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（10）飯村 兼一） 界面化学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（11）山本 裕紹） 情報フォトニクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（12）佐藤 美恵） ヒューマンインタフェース・インタラクション, 感性情報学, 知覚情報処理に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（13）高山 善匡） マテリアル工学, 接合工学, エコマテリアル, 環境負荷低減に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（14）藤原 浩巳） コンクリート工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（15）横田 隆史） 先端計算機システム技術に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（16）池田 裕一） 流域デザインに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（17）矢嶋 徹） 非線形波動をはじめとする数理物理学で数値計算を利用した研究活動を行い, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文を作成する。</p> <p>（18）横田 和隆） メカトロニクス, ロボティクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（19）中島 史郎） 木質構造をはじめとする木造建築に関する実験と解析を中心とする研究を行う。</p> <p>（20）増田 浩志） 建築構造分野に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>（21）長谷川 裕晃） 流体工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究 I	<p>（22）伊藤 聡志） 医用画像処理、MR I や X 線 C T などの画像再構成に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（23）入江 晃亘） 超伝導デバイスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（24）船渡 寛人） パワーエレクトロニクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（25）杉山 央） セメントやコンクリートをはじめとする建築材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（26）石田 邦夫） 光物性に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（27）古神 義則） 高周波回路工学、電磁波応用工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（28）長谷川 光司） 知覚情報処理及び感性情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（29）尾崎 功一） ロボティクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（30）吉田 勝俊） ランダム現象に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（31）馬淵 豊） マイクロ・ナノ工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（32）嶋脇 聡） 生体計測、福祉工学、バイオメカニクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（33）平田 光男） システム制御工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（34）大津 金光） 高性能計算システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（35）長谷川 まどか） 画像符号化および画像処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（36）東口 武史） レーザー工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（37）山岡 暁） プロジェクトマネジメントに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（38）磯谷 玲） アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（39）下田 淳） 歴史学・西洋史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（40）湯本 浩之） グローバル教育や開発教育などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（41）丁 貴連） 東アジア比較文学比較文化に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（42）戚 傑） 多文化教育に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（43）Malee Kaewmanotham） タイ都市社会に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（44）吉田 一彦） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（45）中村 祐司） 政策やガバナンスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（46）鈴木 啓子） 日本近代文学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（47）中村 真） 対人コミュニケーションに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅰ	<p>(48) 石川 由美子 ) 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(49) 松井 貴子 ) 日本文学比較文化論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(50) 高橋 俊守 ) 地域生態学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(51) 松金 公正 ) 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(52) 米山 正文 ) アメリカ文学・文化に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(53) 横尾 昇剛 ) 建築都市環境に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(54) 大森 玲子 ) 食生活と健康に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(55) 大森 宣暁 ) 都市計画および都市交通に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(56) 高橋 若菜 ) 環境政治に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(57) 吉原 佐知雄 ) 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(58) 二宮 尚 ) 熱工学や可視化情報学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(59) 刈込 道徳 ) 有機合成化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(60) 松本 太輝 ) 無機物質・材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(61) 手塚 慶太郎 ) 無機材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(62) 佐藤 剛史 ) 反応工学および分離工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(63) 古澤 毅 ) 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(64) 諸星 知広 ) 微生物の遺伝子工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(65) 藤村 隆史 ) ホログラフィックデバイス、ナノフォトニクスに関連した研究活動を遂行し、研究成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(66) 茨田 大輔 ) マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(67) 玉田 洋介 ) バイオイメージング、光細胞操作、およびそれらの基盤となる光工学技術と、それらによって明らかにされる新しい生命現象、光と生物の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(68) 児玉 豊 ) 分子農学に資する細胞生物学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(69) 鈴木 智大 ) 生物分子情報学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(70) 宮川 一志 ) 環境と生物の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(71) 篠田 一馬 ) 光イメージングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(72) 寄川 弘玄 ) 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅰ	<p>（73） 鄒 艶華 ） 磁気力を援用した加工法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（74） 柏倉 隆之 ） X線分光分析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（75） 清木 隆文 ） 岩盤工学や地下空間設計学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（76） 白寄 篤 ） 変形加工に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（77） 丸岡 正知 ） セメント・コンクリート・建設材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（78） 渡邊 信一 ） 心理計測に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（79） 佐藤 隆之介 ） 切削加工、研削加工、研磨加工、ナノマシニングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（80） 森 大毅 ） 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（81） 東 剛人 ） 先端システム制御工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（82） 依田 秀彦 ） 光ファイバ通信デバイスの原理・設計・解析・作製・評価に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（83） 藤倉 修一 ） 橋梁耐震工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（84） 石川 智治 ） 感性情報学、認知科学、心理物理学などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（85） 小池 正史 ） 理論物理学、素粒子物理学、数理論理学、数理学などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（86） 外山 史 ） ソフトコンピューティングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（87） 山本 篤史郎 ） 材料組織学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（88） 中野 達也 ） 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（89） 佐久間 洋志 ） スピントロニクスや結晶構造解析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（90） 藤井 雅弘 ） 無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムなどに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（91） 清水 隆志 ） マイクロ波・ミリ波帯における材料評価技術、回路設計技術等に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（92） 関川 宗久 ） 非線形現象に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（93） 海野 寿康 ） 土質力学、地盤工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（94） 藤本 郷史 ） 建築材料・構工法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（95） 星野 智史 ） 知能ロボットシステムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（96） 森 博志 ） ビジュアル情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（97） 後藤 博樹 ） 電動機に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（98） 谷島 尚宏 ） 応用力学、数理学、幾何学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究 I	<p>( 99 ) Sueyoshi Ana ) 特にフアンアメリカ政治経済に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 100 ) 古賀 蒼章 ) 建築計画学および建築環境工学等に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 101 ) 古村 学 ) 村落社会に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 102 ) 阪本 公美子 ) 社会開発や地域研究に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 103 ) 松尾 昌樹 ) 中東地域の政治・経済現象の分析を進め、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文を作成する。</p> <p>( 104 ) 石井 大一郎 ) コミュニティ政策に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 105 ) 高山 道代 ) 日本語史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 106 ) 山田 有希子 ) 哲学・倫理学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 107 ) 三田 紀路佳 ) 公共政策や政治過程に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 108 ) 高山 慶子 ) 日本史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 109 ) 清水 奈名子 ) 国際機構論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 110 ) 佐藤 栄治 ) 建築計画や都市計画、その他に医療・福祉に関する都市課題に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 111 ) 大野 斉子 ) ロシア、ヨーロッパ地域文学・文化論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 112 ) 中川 敦 ) 福祉会話分析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文とする。</p> <p>( 113 ) 近藤 伸也 ) 防災マネジメントに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 114 ) 出羽 尚 ) 美術史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 115 ) 松村 史紀 ) 東アジア国際関係史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 116 ) 長田 哲平 ) 都市および交通に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	
	特別研究 II	<p>「特別研究I」、「特別研究II」、「特別研究III」は、主指導教員と副指導教員（研究）の継続的な指導の下で博士論文研究を遂行し、その過程の各段階を総合的に評価して単位を認定するものである。授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定されるが、基本的に「特別演習」によって立案した研究計画に立脚し、「特別研究I」における研究経過を踏まえて博士論文研究を進めることが前提である。研究の進行状況に応じて成果は随時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。</p> <p>博士論文の作成にあたっては、「特別演習」で身に付けた研究者として必要な倫理観にのっとり、最前線の研究動向に対して理解を深めると共に、自らの研究を発表し、討論を通して改善・発展させることが求められる。</p> <p>1年次末に実施した中間発表（「特別セミナー」）での討論に基づいて、今後の研究の展開への課題整理を行い（ACTION）、研究の方向性と計画について再検討（PLAN）を行ったのち、研究課題の継続的な遂行（DO）と、投稿論文・口頭発表などの対外的な成果発表を行う。</p> <p>なお上記内容には、境界領域・学際領域の観点から他分野に関するディスカッション等も含む。</p> <p>( 1 ) 単 躍進 ) 新規機能性無機材料の創製に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 2 ) 湯上 登 ) レーザー生成プラズマからの電磁波、特にテラヘルツ領域の電磁波の放射に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>( 3 ) 杉原 興浩 ) 光通信材料・デバイス・システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅱ	<p>（4）上原 伸夫） 計測化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（5）大谷 幸利） 光工学、特に、偏光工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（6）加藤 紀弘） 機能性材料をバイオテクノロジー分野で利用する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（7）早崎 芳夫） 光工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（8）佐藤 正秀） プロセス・化学工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（9）大庭 亨） 生体分子及び生体超分子に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（10）飯村 兼一） 界面化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（11）山本 裕紹） 情報フォトニクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（12）佐藤 美恵） ヒューマンインタフェース・インタラクション、感性情報学、知覚情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（13）高山 善匡） マテリアル工学、接合工学、エコマテリアル、環境負荷低減に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（14）藤原 浩巳） コンクリート工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（15）横田 隆史） 先端計算機システム技術に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（16）池田 裕一） 流域デザインに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（17）矢嶋 徹） 非線形波動をはじめとする数理物理学で数値計算を利用した研究活動を行い、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文を作成する。</p> <p>（18）横田 和隆） メカトロニクス、ロボティクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（19）中島 史郎） 木質構造をはじめとする木造建築に関する実験と解析を中心とする研究を行う。</p> <p>（20）増田 浩志） 建築構造分野に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（21）長谷川 裕晃） 流体力学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（22）伊藤 聡志） 医用画像処理、MRIやX線CTなどの画像再構成に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（23）入江 晃亘） 超伝導デバイスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（24）船渡 寛人） パワーエレクトロニクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（25）杉山 央） セメントやコンクリートをはじめとする建築材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（26）石田 邦夫） 光物性に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（27）古神 義則） 高周波回路工学、電磁波応用工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（28）長谷川 光司） 知覚情報処理及び感性情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（29）尾崎 功一） ロボティクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅱ	<p>(30) 吉田 勝俊 ) ランダム現象に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(31) 馬淵 豊 ) マイクロ・ナノ工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(32) 嶋脇 聡 ) 生体計測、福祉工学、バイオメカニクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(33) 平田 光男 ) システム制御工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(34) 大津 金光 ) 高性能計算システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(35) 長谷川 まどか ) 画像符号化および画像処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(36) 東口 武史 ) レーザー工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(37) 山岡 暁 ) プロジェクトマネジメントに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(38) 磯谷 玲 ) アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(39) 下田 淳 ) 歴史学・西洋史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(40) 湯本 浩之 ) グローバル教育や開発教育などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(41) 丁 貴連 ) 東アジア比較文学比較文化に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(42) 戚 傑 ) 多文化教育に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(43) Malee Kaewmanotham ) タイ都市社会に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(44) 吉田 一彦 ) 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(45) 中村 祐司 ) 政策やガバナンスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(46) 鈴木 啓子 ) 日本近代文学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(47) 中村 真 ) 対人コミュニケーションに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(48) 石川 由美子 ) 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(49) 松井 貴子 ) 日本文学比較文化論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(50) 高橋 俊守 ) 地域生態学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(51) 松金 公正 ) 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(52) 米山 正文 ) アメリカ文学・文化に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(53) 横尾 昇剛 ) 建築都市環境に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(54) 大森 玲子 ) 食生活と健康に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(55) 大森 宣暁 ) 都市計画および都市交通に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅱ	<p>(56) 高橋 若菜 ) 環境政治に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(57) 吉原 佐知雄 ) 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(58) 二宮 尚 ) 熱工学や可視化情報学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(59) 刈込 道徳 ) 有機合成化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(60) 松本 太輝 ) 無機物質・材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(61) 手塚 慶太郎 ) 無機材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(62) 佐藤 剛史 ) 反応工学および分離工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(63) 古澤 毅 ) 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(64) 諸星 知広 ) 微生物の遺伝子工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(65) 藤村 隆史 ) ホログラフィックデバイス、ナノフォトニクスに関連した研究活動を遂行し、研究成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(66) 茨田 大輔 ) マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(67) 玉田 洋介 ) バイオイメーjing、光細胞操作、およびそれらの基盤となる光工学技術と、それらによって明らかにされる新しい生命現象、光と生物の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(68) 児玉 豊 ) 分子農学に資する細胞生物学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(69) 鈴木 智大 ) 生物分子情報学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(70) 宮川 一志 ) 環境と生物の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(71) 篠田 一馬 ) 光イメージングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(72) 寄川 弘玄 ) 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(73) 鄒 艶華 ) 磁気力を援用した加工法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(74) 柏倉 隆之 ) X線分光分析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(75) 清水 隆文 ) 岩盤工学や地下空間設計学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(76) 白寄 篤 ) 変形加工に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(77) 丸岡 正知 ) セメント・コンクリート・建設材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(78) 渡邊 信一 ) 心理計測に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(79) 佐藤 隆之介 ) 切削加工、研削加工、研磨加工、ナノマシニングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(80) 森 大毅 ) 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅱ	<p>（81）東 剛人） 先端システム制御工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（82）依田 秀彦） 光ファイバ通信デバイスの原理・設計・解析・作製・評価に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（83）藤倉 修一） 橋梁耐震工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（84）石川 智治） 感性情報学、認知科学、心理物理学などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（85）小池 正史） 理論物理学、素粒子物理学、数理論理学、数理学などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（86）外山 史） ソフトコンピューティングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（87）山本 篤史郎） 材料組織学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（88）中野 達也） 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（89）佐久間 洋志） スピントロニクスや結晶構造解析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（90）藤井 雅弘） 無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムなどに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（91）清水 隆志） マイクロ波・ミリ波帯における材料評価技術、回路設計技術等に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（92）関川 宗久） 非線形現象に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（93）海野 寿康） 土質力学、地盤工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（94）藤本 郷史） 建築材料・構法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（95）星野 智史） 知能ロボットシステムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（96）森 博志） ビジュアル情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（97）後藤 博樹） 電動機に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（98）谷島 尚宏） 応用力学、数理学、幾何学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（99）Sueyoshi Ana） 特にフテンアメリカ政治経済に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（100）古賀 蒼章） 建築計画学および建築環境工学等に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（101）古村 学） 村落社会に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（102）阪本 公美子） 社会開発や地域研究に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（103）松尾 昌樹） 中東地域の政治・経済現象の分析を進め、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文を作成する。</p> <p>（104）石井 大一郎） コミュニティ政策に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（105）高山 道代） 日本語史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（106）山田 有希子） 哲学・倫理学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究Ⅱ	<p>(107) 三田 妃路佳 ) 公共政策や政治過程に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(108) 高山 慶子 ) 日本史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(109) 清水 奈名子 ) 国際機構論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(110) 佐藤 栄治 ) 建築計画や都市計画、その他に医療・福祉に関する都市課題に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(111) 大野 斉子 ) ロシア、ヨーロッパ地域文学・文化論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(112) 中川 敦 ) 福祉会話分析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文とする。</p> <p>(113) 近藤 伸也 ) 防災マネジメントに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(114) 出羽 尚 ) 美術史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(115) 松村 史紀 ) 東アジア国際関係史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(116) 長田 哲平 ) 都市および交通に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	
必修科目	特別研究Ⅲ	<p>「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」、「特別研究Ⅲ」は、主指導教員と副指導教員（研究）の継続的な指導の下で博士論文研究を遂行し、その過程の各段階を総合的に評価して単位を認定するものである。授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定されるが、基本的に「特別演習」によって立案した研究計画に立脚し、「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」における研究経過を踏まえて博士論文研究を進めることが前提である。研究の進行状況に応じて成果は随時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。博士論文の作成にあたっては、「特別演習」で身に付けた研究者として必要な倫理観へのつと、最前線の研究動向に対して理解を深めると共に、自らの研究を発表し、討論を通して改善・発展させることが求められる。</p> <p>2年次の末には「特別セミナー」において取り組んでいる研究課題について中間発表（CHECK）を行うので、それを見据えて、研究課題の継続的な遂行と発展（DO），投稿論文・口頭発表などの対外的な成果発表を行う。</p> <p>なお上記内容には、境界領域・学際領域の観点から他分野に関するディスカッション等も含む。</p> <p>(1) 単 躍進 ) 新規機能性無機材料の創製に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(2) 湯上 登 ) レーザー生成プラズマからの電磁波、特にテラヘルツ領域の電磁波の放射に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(3) 杉原 興浩 ) 光通信材料・デバイス・システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(4) 上原 伸夫 ) 計測化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(5) 大谷 幸利 ) 光工学、特に、偏光工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(6) 加藤 紀弘 ) 機能性材料をバイオテクノロジー分野で利用する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(7) 早崎 芳夫 ) 光工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(8) 佐藤 正秀 ) プロセス・化学工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(9) 大庭 亨 ) 生体分子及び生体超分子に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(10) 飯村 兼一 ) 界面化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(11) 山本 裕紹 ) 情報フォトニクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅲ	<p>(12) 佐藤 美恵 ) ヒューマンインタフェース・インタラクション, 感性情報学, 知覚情報処理に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(13) 高山 善匡 ) マテリアル工学, 接合工学, エコマテリアル, 環境負荷低減に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(14) 藤原 浩巳 ) コンクリート工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(15) 横田 隆史 ) 先端計算機システム技術に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(16) 池田 裕一 ) 流域デザインに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(17) 矢嶋 徹 ) 非線形波動をはじめとする数値物理学で数値計算を利用した研究活動を行い, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文を作成する。</p> <p>(18) 横田 和隆 ) メカトロニクス, ロボティクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ学位論文にまとめる。</p> <p>(19) 中島 史郎 ) 木質構造をはじめとする木造建築に関する実験と解析を中心とする研究を行う。</p> <p>(20) 増田 浩志 ) 建築構造分野に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(21) 長谷川 裕晃 ) 流体力学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(22) 伊藤 聡志 ) 医用画像処理, MRI や X線CT などの画像再構成に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(23) 入江 晃亘 ) 超伝導デバイスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(24) 船渡 寛人 ) パワーエレクトロニクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(25) 杉山 央 ) セメントやコンクリートをはじめとする建築材料に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(26) 石田 邦夫 ) 光物性に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(27) 古神 義則 ) 高周波回路工学, 電磁波応用工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(28) 長谷川 光司 ) 知覚情報処理及び感性情報処理に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(29) 尾崎 功一 ) ロボティクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(30) 吉田 勝俊 ) ランダム現象に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(31) 馬淵 豊 ) マイクロ・ナノ工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(32) 嶋脇 聡 ) 生体計測, 福祉工学, バイオメカニクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(33) 平田 光男 ) システム制御工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(34) 大津 金光 ) 高性能計算システムに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(35) 長谷川 まどか ) 画像符号化および画像処理に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(36) 東口 武史 ) レーザー工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅲ	<p>（37）山岡 暁） プロジェクトマネジメントに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（38）磯谷 玲） アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（39）下田 淳） 歴史学・西洋史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（40）湯本 浩之） グローバル教育や開発教育などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（41）丁 貴連） 東アジア比較文学比較文化に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（42）戚 傑） 多文化教育に関する研究活動遂行し、教員指導のもとで成果をまとめ、学位論文をまとめる。</p> <p>（43）Malee Kaewmanotham） タイ都市社会研究に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（44）吉田 一彦） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（45）中村 祐司） 政策やガバナンスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（46）鈴木 啓子） 日本近代文学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（47）中村 真） 対人コミュニケーションに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（48）石川 由美子） 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（49）松井 貴子） 日本文学比較文化論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（50）高橋 俊守） 地域生態学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（51）松金 公正） 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（52）米山 正文） アメリカ文学・文化に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（53）横尾 昇剛） 建築都市環境に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（54）大森 玲子） 食生活と健康に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（55）大森 宣暁） 都市計画および都市交通に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（56）高橋 若菜） 環境政治に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（57）吉原 佐知雄） 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（58）二宮 尚） 熱工学や可視化情報学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（59）刈込 道德） 有機合成化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（60）松本 大輝） 無機物質・材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（61）手塚 慶太郎） 無機材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅲ	<p>(62) 佐藤 剛史 ) 反応工学および分離工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(63) 古澤 毅 ) 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(64) 諸星 知広 ) 微生物の遺伝子工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(65) 藤村 隆史 ) ホログラフィックデバイス、ナノフォトニクスに関連した研究活動を遂行し、研究成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(66) 茨田 大輔 ) マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(67) 玉田 洋介 ) バイオイメージング、光細胞操作、およびそれらの基盤となる光工学技術と、それらによって明らかにされる新しい生命現象、光と生物の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(68) 児玉 豊 ) 分子農学に資する細胞生物学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(69) 鈴木 智大 ) 生物分子情報学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(70) 宮川 一志 ) 環境と生物の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(71) 篠田 一馬 ) 光イメージングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(72) 寄川 弘玄 ) 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(73) 鄒 艶華 ) 磁気力を援用した加工法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(74) 柏倉 隆之 ) X線分光分析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(75) 清木 隆文 ) 岩盤工学や地下空間設計学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(76) 白寄 篤 ) 変形加工に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(77) 丸岡 正知 ) セメント・コンクリート・建設材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(78) 渡邊 信一 ) 心理計測に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(79) 佐藤 隆之介 ) 切削加工、研削加工、研磨加工、ナノマシニングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(80) 森 大毅 ) 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(81) 東 剛人 ) 先端システム制御工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(82) 依田 秀彦 ) 光ファイバ通信用デバイスの原理・設計・解析・作製・評価に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(83) 藤倉 修一 ) 橋梁耐震工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(84) 石川 智治 ) 感性情報学、認知科学、心理物理学などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(85) 小池 正史 ) 理論物理学、素粒子物理学、数理論理学、数理学などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(86) 外山 史 ) ソフトコンピューティングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(87) 山本 篤史郎 ) 材料組織学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅲ	<p>（88）中野 達也） 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（89）佐久間 洋志） スピントロニクスや結晶構造解析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（90）藤井 雅弘） 無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムなどに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（91）清水 隆志） マイクロ波・ミリ波帯における材料評価技術、回路設計技術等に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（92）関川 宗久） 非線形現象に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（93）海野 寿康） 土質力学、地盤工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（94）藤本 郷史） 建築材料・構工法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（95）星野 智史） 知能ロボットシステムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（96）森 博志） ビジュアル情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（97）後藤 博樹） 電動機に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（98）谷島 尚宏） 応用力学、数理学、幾何学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（99）Sueyoshi Ana） 特にフエンアメリカ政治経済に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（100）古賀 蒼章） 建築計画学および建築環境工学等に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（101）古村 学） 村落社会に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（102）阪本 公美子） 社会開発や地域研究に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（103）松尾 昌樹） 中東地域の政治・経済現象の分析を進め、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文を作成する。</p> <p>（104）石井 大一朗） コミュニティ政策に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（105）高山 道代） 日本語史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（106）山田 有希子） 哲学・倫理学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（107）三田 妃路佳） 公共政策や政治過程に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（108）高山 慶子） 日本史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（109）清水 奈名子） 国際機構論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（110）佐藤 栄治） 建築計画や都市計画、その他に医療・福祉に関する都市課題に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（111）大野 斉子） ロシア、ヨーロッパ地域文学・文化論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>（112）中川 敦） 福祉会話分析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文とする。</p> <p>（113）近藤 伸也） 防災マネジメントに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別研究Ⅲ	<p>(114) 出羽 尚 ) 美術史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(115) 松村 史紀 ) 東アジア国際関係史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(116) 長田 哲平 ) 都市および交通に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	
	特別セミナー	<p>「特別演習」で立案した研究計画 (PLAN) に基づいて、「特別研究I, II, III」で遂行した (D0) 博士論文研究について、2回の中間発表を行う (原則として1年次末および2年次末)。研究の進捗状況や成果、学会発表および論文投稿状況についてレジュメを作成し、専攻内の複数のプログラムの教員と学生が参加する発表会で口頭発表を行ったのち、様々な分野からの発表会参加者全員で学際的な視点から研究課題について討論を行う (CHECK)。中間発表までの準備は、主指導教員1名、副指導教員 (研究) 2名から指導を受ける。発表時には副指導教員 (融合教育) を含む異分野の教員、学生との討論を通して、自らの研究成果をわかりやすく解説し発信する能力を養う。</p> <p>(1) 単 躍進 ) 機能性無機材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(2) 湯上 登 ) レーザー生成プラズマに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(3) 杉原 興浩 ) 光通信材料・デバイス・システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(4) 上原 伸夫 ) 計測化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(5) 大谷 幸利 ) 光工学、特に、偏光工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(6) 加藤 紀弘 ) バイオマテリアルに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(7) 早崎 芳夫 ) 光工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(8) 佐藤 正秀 ) プロセス・化学工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(9) 大庭 亨 ) 生体分子及び生体超分子に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(10) 飯村 兼一 ) 界面化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(11) 山本 裕紹 ) 情報フォトニクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(12) 佐藤 美恵 ) ヒューマンインタフェース・インタラクション、感性情報学、知覚情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(13) 高山 善匡 ) マテリアル工学、接合工学、エコマテリアル、環境負荷低減に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(14) 藤原 浩巳 ) コンクリート工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(15) 横田 隆史 ) 先端計算機システム技術に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(16) 池田 裕一 ) 流域デザインに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(17) 矢嶋 徹 ) 非線形波動をはじめとする数理物理学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(18) 横田 和隆 ) メカトロニクス、ロボティクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(19) 中島 史郎 ) 木質構造をはじめとする木造建築に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(20) 増田 浩志 ) 耐震設計に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(21) 長谷川 裕晃 ) 流体力学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修 科目	特別セミナー	<p>(22) 伊藤 聡志 ) 医用画像処理, MR I や X線CT などの画像再構成に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(23) 入江 晃亘 ) 超伝導デバイスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(24) 船渡 寛人 ) パワーエレクトロニクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(25) 杉山 央 ) 建築材料に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(26) 石田 邦夫 ) 光物性に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(27) 古神 義則 ) 高周波回路工学, 電磁波応用工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(28) 長谷川 光司 ) 知覚情報処理及び感性情報処理に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(29) 尾崎 功一 ) ロボット工学, ロボット技術・ロボット応用に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(30) 吉田 勝俊 ) ランダム現象に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(31) 馬淵 豊 ) マイクロ・ナノ工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(32) 嶋脇 聡 ) 生体計測, 福祉工学, バイオメカニクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(33) 平田 光男 ) システム制御工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(34) 大津 金光 ) 高性能計算システムに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(35) 長谷川 まどか ) 画像符号化および画像処理に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(36) 東口 武史 ) レーザー工学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(37) 山岡 暁 ) プロジェクトマネジメントに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(38) 磯谷 玲 ) アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(39) 下田 淳 ) 歴史学・西洋史に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(40) 湯本 浩之 ) グローバル教育や開発教育などに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(41) 丁 貴連 ) 東アジア比較文学比較文化に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(42) 戚 傑 ) 多文化教育に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(43) Malee Kaewmanotham ) タイ都市社会に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(44) 吉田 一彦 ) 言語を対象とした科学全般, および, 外国語教育学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(45) 中村 祐司 ) 政策研究やガバナンスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(46) 鈴木 啓子 ) 日本近代文学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(47) 中村 真 ) 対人コミュニケーションに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(48) 石川 由美子 ) 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(49) 松井 貴子 ) 日本文学比較文化論に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果を発表する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別セミナー	<p>（50）高橋 俊守） 地域生態学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（51）松金 公正） 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（52）米山 正文） アメリカ文学・文化に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（53）横尾 昇剛） 建築都市環境に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（54）大森 玲子） 食生活と健康に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（55）大森 宣暁） 都市計画および都市交通に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（56）高橋 若菜） 環境政治に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（57）吉原 佐知雄） 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（58）二宮 尚） 熱工学や可視化情報学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（59）刈込 道徳） 有機合成化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（60）松本 太輝） 無機物質・材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（61）手塚 慶太郎） 無機材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（62）佐藤 剛史） 反応工学および分離工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（63）古澤 毅） 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（64）諸星 知広） 微生物の遺伝子工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（65）藤村 隆史） 光情報記録、太陽光発電、エナジーハーベスティングなど、光応用工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（66）茨田 大輔） マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（67）玉田 洋介） バイオイメージング、光細胞操作、およびそれらの基盤となる光工学研究と、それらによって初めて明らかにされる新しい生命現象の研究、光と生物の相互作用に関する研究に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（68）児玉 豊） 分子農学関連の細胞生物学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（69）鈴木 智大） 生化学・分子生物学・天然物化学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（70）宮川 一志） 環境と生物の相互作用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（71）篠田 一馬） 光イメージングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（72）寄川 弘玄） 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（73）鄒 艶華） 磁気力を援用した加工法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（74）柏倉 隆之） X線分光分析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（75）清水 隆文） 岩盤工学や地下空間設計学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（76）白寄 篤） 変形加工に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（77）丸岡 正知） セメント・コンクリート・建設材料に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別セミナー	<p>(78) 渡邊 信一 ) 心理計測に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(79) 佐藤 隆之介 ) 切削加工、研削加工、研磨加工、ナノマシニングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(80) 森 大毅 ) 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(81) 東 剛人 ) 先端システム制御工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(82) 依田 秀彦 ) 光ファイバ通信、光デバイス、光学材料など光エレクトロニクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(83) 藤倉 修一 ) 橋梁耐震工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(84) 石川 智治 ) 感性情報学、認知科学、心理物理学などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(85) 小池 正史 ) 理論物理学、素粒子物理学、数理論理学、数理学などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(86) 外山 史 ) ソフトコンピューティングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(87) 山本 篤史郎 ) 材料組織学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(88) 中野 達也 ) 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(89) 佐久間 洋志 ) スピントロニクスや結晶構造解析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(90) 藤井 雅弘 ) 無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムなどに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(91) 清水 隆志 ) マイクロ波・ミリ波に関する計測技術、回路設計技術、応用利用等に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(92) 関川 宗久 ) 非線形現象に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(93) 海野 寿康 ) 土質力学、地盤工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(94) 藤本 郷史 ) 建築材料・構工法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(95) 星野 智史 ) 知能ロボットシステムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(96) 森 博志 ) ビジュアル情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(97) 後藤 博樹 ) 電動機に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(98) 谷島 尚宏 ) 応用力学、数理学、幾何学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(99) Sueyoshi Ana ) 特にブテンアメリカ政治経済に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(100) 古賀 蒼章 ) 建築計画学および建築環境工学等に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(101) 古村 学 ) 村落社会に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(102) 阪本 公美子 ) 社会開発や地域研究に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(103) 松尾 昌樹 ) 中東地域の政治・経済現象に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(104) 石井 大一郎 ) コミュニティ政策に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(105) 高山 道代 ) 日本語史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>(106) 山田 有希子 ) 哲学・倫理学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	特別セミナー	<p>（107）三田 妃路佳） 公共政策や政治過程に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（108）高山 慶子） 日本史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（109）清水 奈名子） 国際機構論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（110）佐藤 栄治） 建築計画や都市計画、その他に医療・福祉に関する都市課題に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（111）大野 斉子） ロシア、ヨーロッパ地域文学・文化論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（112）中川 敦） 福祉会話分析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（113）近藤 伸也） 防災マネジメントに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（114）出羽 尚） 美術史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（115）松村 史紀） 東アジア国際関係史に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p> <p>（116）長田 哲平） 都市および交通に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を発表する。</p>	
選択必修科目	副専門研修Ⅰ	<p>本科目では、分野融合の観点から、異分野教員の指導を通して幅広い視野と多面的な視点の獲得と実践力の向上を図る。学生の博士論文研究課題の専門分野以外の教員である副指導教員（融合教育）による指導のもとで、異分野の専門知識と研究手法の修得とそれらを具体的に実践する実習・演習、異分野教員との議論を通して、幅広い視野と多面的な視点を身につけることで、自らの研究課題の意義と位置づけについて振り返り、新たな視点で見つめ直し、自らの研究の広がりや深化を多様化する機会とする。さらに、修得した異分野の手法の、論文研究課題の手法への応用や、新たな展開・発展への端緒とできるかを副指導教員（融合教育）と議論し考察して、研究課題遂行の実践力の幅を広げ、その向上につなげる。</p> <p>（1）単 躍進） 機能性無機材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（2）湯上 登） レーザー生成プラズマに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（3）杉原 興浩） 光通信材料・デバイス・システムに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（4）上原 伸夫） 計測化学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（5）大谷 幸利） 光工学、特に、偏光工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（6）加藤 紀弘） バイオマテリアルに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（7）早崎 芳夫） 光工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（8）佐藤 正秀） プロセス・化学工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（9）大庭 亨） 生体分子及び生体超分子に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（10）飯村 兼一） 界面化学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（11）山本 裕紹） 情報フォトニクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（12）佐藤 美恵） ヒューマンインタフェース・インタラクション、感性情報学、知覚情報処理に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（13）高山 善匡） マテリアル工学、接合工学、エコマテリアル、環境負荷低減に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（14）藤原 浩巳） コンクリート工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	副専門研修Ⅰ	<p>（15）横田 隆史） 先端計算機システム技術に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（16）池田 裕一） 流域デザインに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（17）矢嶋 徹） 非線形波動をはじめとする数理物理学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（18）横田 和隆） メカトロニクス、ロボティクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（19）中島 史郎） 木質構造をはじめとする木造建築に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（20）増田 浩志） 耐震設計に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（21）長谷川 裕晃） 流体力学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（22）伊藤 聡志） 医用画像処理、MRIやX線CTなどの画像再構成に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（23）入江 晃亘） 超伝導デバイスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（24）船渡 寛人） パワーエレクトロニクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（25）杉山 央） 建築材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（26）石田 邦夫） 光物性に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（27）古神 義則） 高周波回路工学、電磁波応用工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（28）長谷川 光司） 知覚情報処理及び感性情報処理に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（29）尾崎 功一） ロボット工学、ロボット技術・ロボット応用に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（30）吉田 勝俊） ランダム現象に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（31）馬淵 豊） マイクロ・ナノ工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（32）嶋脇 聡） 生体計測、福祉工学、バイオメカニクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（33）平田 光男） システム制御工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（34）大津 金光） 高性能計算システムに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（35）長谷川 まどか） 画像符号化および画像処理に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（36）東口 武史） レーザー工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（37）山岡 暁） プロジェクトマネジメントに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（38）磯谷 玲） アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（39）下田 淳） 歴史学・西洋史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（40）湯本 浩之） グローバル教育や開発教育などに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	副専門研修 I	<p>（41）丁 貴連） 東アジア比較文学比較文化に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（42）戚 傑） 多文化教育に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（43）Malee Kaewmanotham） タイ都市社会研究に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（44）吉田 一彦） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（45）中村 祐司） 政策研究やガバナンス研究に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（46）鈴木 啓子） 日本近代文学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（47）中村 真） 対人コミュニケーションに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（48）石川 由美子） 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（49）松井 貴子） 日本文学比較文化論に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（50）高橋 俊守） 地域生態学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（51）松金 公正） 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（52）米山 正文） アメリカ文学・文化に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（53）横尾 昇剛） 建築都市環境に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（54）大森 玲子） 食生活と健康に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（55）大森 宣暁） 都市計画および都市交通に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（56）高橋 若菜） 環境政治に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（57）吉原 佐知雄） 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（58）二宮 尚） 熱工学や可視化情報学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（59）刈込 道徳） 有機合成化学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（60）松本 太輝） 無機物質・材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（61）手塚 慶太郎） 無機材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（62）佐藤 剛史） 反応工学および分離工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（63）古澤 毅） 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（64）諸星 知広） 微生物の遺伝子工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（65）藤村 隆史） 光情報記録、太陽光発電、エナジーハーベスティングなど、光応用工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	副専門研修Ⅰ	<p>(66) 茨田 大輔 ) マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(67) 玉田 洋介 ) バイオイメージング、光細胞操作、およびそれらの基盤となる光工学研究と、それらによって初めて明らかにされる新しい生命現象の研究、光と生物の相互作用に関する研究に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(68) 児玉 豊 ) 分子農学関連の細胞生物学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(69) 鈴木 智大 ) 生化学・分子生物学・天然物化学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(70) 宮川 一志 ) 環境と生物の相互作用に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(71) 篠田 一馬 ) 光イメージングに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(72) 寄川 弘玄 ) 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(73) 郷 艶華 ) 磁気力を援用した加工法に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(74) 柏倉 隆之 ) X線分光分析に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(75) 清水 隆文 ) 岩盤工学や地下空間設計学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(76) 白寄 篤 ) 変形加工に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(77) 丸岡 正知 ) セメント・コンクリート・建設材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(78) 渡邊 信一 ) 心理計測に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(79) 佐藤 隆之介 ) 切削加工、研削加工、研磨加工、ナノマシニングに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(80) 森 大毅 ) 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(81) 東 剛人 ) 先端システム制御工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(82) 依田 秀彦 ) 光ファイバ通信、光デバイス、光学材料など光エレクトロニクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(83) 藤倉 修一 ) 橋梁耐震工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(84) 石川 智治 ) 感性情報学、認知科学、心理物理学などに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(85) 小池 正史 ) 理論物理学、素粒子物理学、数理論理学、数理学などに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(86) 外山 史 ) ソフトコンピューティングに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(87) 山本 篤史郎 ) 材料組織学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(88) 中野 達也 ) 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(89) 佐久間 洋志 ) スピントロニクスや結晶構造解析に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(90) 藤井 雅弘 ) 無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムなどに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	副専門研修Ⅰ	<p>（91）清水 隆志） マイクロ波・ミリ波に関する計測技術、回路設計技術、応用利用等に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（92）関川 宗久） 非線形現象に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（93）海野 寿康） 土質力学、地盤工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（94）藤本 郷史） 建築材料・構工法に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（95）星野 智史） 知能ロボットシステムに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（96）森 博志） ビジュアル情報処理に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（97）後藤 博樹） 電動機に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（98）谷島 尚宏） 応用力学、数理科学、幾何学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（99）Sueyoshi Ana） 特にフテンアメリカ政治経済に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（100）古賀 蒼章） 建築計画学および建築環境工学等に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（101）古村 学） 村落社会に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（102）阪本 公美子） 社会開発や地域研究に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（103）松尾 昌樹） 中東地域の政治・経済現象に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（104）石井 大一郎） コミュニティ政策に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（105）高山 道代） 日本語史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（106）山田 有希子） 哲学・倫理学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（107）三田 妃路佳） 公共政策や政治過程に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（108）高山 慶子） 日本史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（109）清水 奈名子） 国際機構論に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（110）佐藤 栄治） 建築計画や都市計画、その他に医療・福祉に関する都市課題に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（111）大野 斉子） ロシア、ヨーロッパ地域文学・文化論に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（112）中川 敦） 福祉会話分析に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（113）近藤 伸也） 防災マネジメントに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（114）出羽 尚） 美術史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（115）松村 史紀） 東アジア国際関係史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（116）長田 哲平） 都市および交通に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	副専門研修Ⅱ	<p>本科目では、分野融合の観点から、異分野教員の指導を通して幅広い視野と多面的な視点の獲得と実践力の向上を図る。学生の博士論文研究課題の専門分野及び「副専門研修Ⅰ」で修得した専門分野以外の副指導教員（融合教育）による指導のもとで、異分野の専門知識と研究手法の修得とそれらを具体的に実践する実習・演習、異分野教員との議論を通して、幅広い視野と多面的な視点を身につけることで、自らの研究課題の意義と位置づけについて振り返り、新たな視点で見つめ直して、自らの研究の広がりや深化を多様化する機会とする。さらに、修得した異分野の手法の、論文研究課題の手法への応用や、新たな展開・発展への端緒とできるかを副指導教員（融合教育）と議論し考察して、研究課題遂行の実践力の幅を広げ、その向上につなげる。</p> <p>（① 単 躍進） 機能性無機材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（② 湯上 登） レーザー生成プラズマに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（③ 杉原 興浩） 光通信材料・デバイス・システムに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（④ 上原 伸夫） 計測化学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑤ 大谷 幸利） 光工学、特に、偏光工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑥ 加藤 紀弘） バイオマテリアルに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑦ 早崎 芳夫） 光工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑧ 佐藤 正秀） プロセス・化学工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑨ 大庭 亨） 生体分子及び生体超分子に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑩ 飯村 兼一） 界面化学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑪ 山本 裕紹） 情報フォトニクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑫ 佐藤 美恵） ヒューマンインタフェース・インタラクション、感性情報学、知覚情報処理に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑬ 高山 善匡） マテリアル工学、接合工学、エコマテリアル、環境負荷低減に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑭ 藤原 浩巳） コンクリート工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑮ 横田 隆史） 先端計算機システム技術に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑯ 池田 裕一） 流域デザインに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑰ 矢嶋 徹） 非線形波動をはじめとする数理物理学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑱ 横田 和隆） メカトロニクス、ロボティクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑲ 中島 史郎） 木質構造をはじめとする木造建築に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（⑳ 増田 浩志） 耐震設計に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（㉑ 長谷川 裕晃） 流体力学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（㉒ 伊藤 聡志） 医用画像処理、MRIやX線CTなどの画像再構成に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	副専門研修Ⅱ	<p>（23）入江 晃吾） 超伝導デバイスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（24）船渡 寛人） パワーエレクトロニクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（25）杉山 央） 建築材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（26）石田 邦夫） 光物性に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（27）古神 義則） 高周波回路工学、電磁波応用工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（28）長谷川 光司） 知覚情報処理及び感性情報処理に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（29）尾崎 功一） ロボット工学、ロボット技術・ロボット応用に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（30）吉田 勝俊） ランダム現象に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（31）馬淵 豊） マイクロ・ナノ工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（32）嶋脇 聡） 生体計測、福祉工学、バイオメカニクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（33）平田 光男） システム制御工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（34）大津 金光） 高性能計算システムに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（35）長谷川 まどか） 画像符号化および画像処理に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（36）東口 武史） レーザー工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（37）山岡 暁） プロジェクトマネジメントに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（38）磯谷 玲） アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（39）下田 淳） 歴史学・西洋史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（40）湯本 浩之） グローバル教育や開発教育などに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（41）丁 貴連） 東アジア比較文学比較文化に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（42）戚 傑） 多文化教育に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（43）Malee Kaewmanotham） タイ都市社会研究に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（44）吉田 一彦） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（45）中村 祐司） 政策研究やガバナンスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（46）鈴木 啓子） 日本近代文学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（47）中村 真） 対人コミュニケーションに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（48）石川 由美子） 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	副専門研修Ⅱ	<p>(49) 松井 貴子 ) 日本文学比較文化論に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(50) 高橋 俊守 ) 地域生態学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(51) 松金 公正 ) 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(52) 米山 正文 ) アメリカ文学・文化に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(53) 横尾 昇剛 ) 建築都市環境に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(54) 大森 玲子 ) 食生活と健康に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(55) 大森 宣暁 ) 都市計画および都市交通に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(56) 高橋 若菜 ) 環境政治に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(57) 吉原 佐知雄 ) 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(58) 二宮 尚 ) 熱工学や可視化情報学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(59) 刈込 道德 ) 有機合成化学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(60) 松本 太輝 ) 無機物質・材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(61) 手塚 慶太郎 ) 無機材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(62) 佐藤 剛史 ) 反応工学および分離工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(63) 古澤 毅 ) 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(64) 諸星 知広 ) 微生物の遺伝子工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(65) 藤村 隆史 ) 光情報記録、太陽光発電、エナジーハーベスティングなど、光応用工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(66) 茨田 大輔 ) マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(67) 玉田 洋介 ) バイオイメージング、光細胞操作、およびそれらの基盤となる光工学研究と、それらによって初めて明らかになる新しい生命現象の研究、光と生物の相互作用に関する研究に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(68) 児玉 豊 ) 分子農学関連の細胞生物学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(69) 鈴木 智大 ) 生化学・分子生物学・天然物化学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(70) 宮川 一志 ) 環境と生物の相互作用に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(71) 篠田 一馬 ) 光イメージングに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>(72) 寄川 弘玄 ) 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	副専門研修Ⅱ	<p>（73） 鄒 艶華 ） 磁気力を援用した加工法に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（74） 柏倉 隆之 ） X線分光分析に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（75） 清木 隆文 ） 岩盤工学や地下空間設計学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（76） 白寄 篤 ） 変形加工に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（77） 丸岡 正知 ） セメント・コンクリート・建設材料に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（78） 渡邊 信一 ） 心理計測に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（79） 佐藤 隆之介 ） 切削加工、研削加工、研磨加工、ナノマシニングに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（80） 森 大毅 ） 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（81） 東 剛人 ） 先端システム制御工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（82） 依田 秀彦 ） 光ファイバ通信、光デバイス、光学材料など光エレクトロニクスに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（83） 藤倉 修一 ） 橋梁耐震工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（84） 石川 智治 ） 感性情報学、認知科学、心理物理学などに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（85） 小池 正史 ） 理論物理学、素粒子物理学、数理論理学、数理学などに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（86） 外山 史 ） ソフトコンピューティングに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（87） 山本 篤史郎 ） 材料組織学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（88） 中野 達也 ） 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（89） 佐久間 洋志 ） スピントロニクスや結晶構造解析に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（90） 藤井 雅弘 ） 無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムなどに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（91） 清水 隆志 ） マイクロ波・ミリ波に関する計測技術、回路設計技術、応用利用等に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（92） 関川 宗久 ） 非線形現象に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（93） 海野 寿康 ） 土質力学、地盤工学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（94） 藤本 郷史 ） 建築材料・構法に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（95） 星野 智史 ） 知能ロボットシステムに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（96） 森 博志 ） ビジュアル情報処理に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（97） 後藤 博樹 ） 電動機に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>（98） 谷島 尚宏 ） 応用力学、数理学、幾何学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	副専門研修Ⅱ	<p>( 99 ) Sueyoshi Ana ) 特にフアンアメリカ政治経済に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 100 ) 古賀 蒼章 ) 建築計画学および建築環境工学等に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 101 ) 古村 学 ) 村落社会に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 102 ) 阪本 公美子 ) 社会開発や地域研究に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 103 ) 松尾 昌樹 ) 中東地域の政治・経済現象に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 104 ) 石井 大一郎 ) コミュニティ政策に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 105 ) 高山 道代 ) 日本語史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 106 ) 山田 有希子 ) 哲学・倫理学に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 107 ) 三田 紀路佳 ) 公共政策や政治過程に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 108 ) 高山 慶子 ) 日本史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 109 ) 清水 奈名子 ) 国際機構論に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 110 ) 佐藤 栄治 ) 建築計画や都市計画、その他に医療・福祉に関する都市課題に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 111 ) 大野 斉子 ) ロシア、ヨーロッパ地域文学・文化論に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 112 ) 中川 敦 ) 福祉会話分析に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 113 ) 近藤 伸也 ) 防災マネジメントに関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 114 ) 出羽 尚 ) 美術史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 115 ) 松村 史紀 ) 東アジア国際関係史に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p> <p>( 116 ) 長田 哲平 ) 都市および交通に関する専門知識と研究手法を学び、異なる専門分野から課題を捉え直す能力を修得する。</p>	
	臨地研究Ⅰ	<p>本科目では、分野融合の観点から、学生の博士論文研究課題の専門分野以外の副指導教員（融合教育）を担当教員とし、研究領域を異にする主指導教員、副指導教員（研究）と協働して指導にあたることにより、学生に異分野の専門知識と研究手法、幅広い視野と多面的な視点を身につけさせ、フィールドワークやインターンシップ等で適応させる。専門知識が適応される社会における実践活動を通じて、自らの研究課題の意義や専門性、社会における位置づけについて振り返り、それを異分野の視点から見つめなおす機会とし、多面的な情報収集に基づく研究課題の解析を可能とする実践的な力を身につけさせるとともに、課題解決に適した学際的な調査手法や研究方法論を生み出す力を養成し、分野融合・学際的視点に関する研究基盤を形成させる。事前指導において、副指導教員（融合教育）を中心とした主指導教員、副指導教員（研究）を含む複数の教員と学生との協働によって実施計画を策定した後、国内外の諸機関等で60時間以上のフィールドワーク、インターンシップ等を実施する。終了後は、副指導教員（融合教育）が異分野の手法が適応されているか否かについて学生と議論し確認した上で、ワーキングペーパーを提出させ、主指導教員、副指導教員（研究）とともに、博士論文作成に向けて必要な多面的情報収集、及び研究基盤の形成がなされているかについて検討、評価し、それをフィードバックすることにより学生の研究遂行実践力の向上につなげる。また、他者に対し異分野の専門知識等を伝える能力を涵養するために、受け入れ先において自らの専門知識を説明、伝達し、共有化を図る。</p> <p>( 1 ) 単 躍進 ) 機能性無機材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>( 2 ) 湯上 登 ) レーザー生成プラズマに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>( 3 ) 杉原 興浩 ) 光通信材料・デバイス・システムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>( 4 ) 上原 伸夫 ) 計測化学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>( 5 ) 大谷 幸利 ) 光工学、特に、偏光工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	臨地研究 I	<p>（6）加藤 紀弘） バイオマテリアルに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（7）早崎 芳夫） 光工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（8）佐藤 正秀） プロセス・化学工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（9）大庭 亨） 生体分子及び生体超分子に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（10）飯村 兼一） 界面化学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（11）山本 裕紹） 情報フォトンクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（12）佐藤 美恵） ヒューマンインタフェース・インタラクション、感性情報学、知覚情報処理に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（13）高山 善匡） マテリアル工学、接合工学、エコマテリアル、環境負荷低減に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（14）藤原 浩巳） コンクリート工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（15）横田 隆史） 先端計算機システムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（16）池田 裕一） 流域デザインに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（17）矢嶋 徹） 非線形波動をはじめとする数理物理学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（18）横田 和隆） メカトロニクス、ロボティクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（19）中島 史郎） 木質構造をはじめとする木造建築に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（20）増田 浩志） 耐震設計に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（21）長谷川 裕晃） 流体力学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（22）伊藤 聡志） 医用画像処理、MRIやX線CTなどの画像再構成に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（23）入江 晃亘） 超伝導デバイスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（24）船渡 寛人） パワーエレクトロニクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（25）杉山 央） 建築材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（26）石田 邦夫） 光物性に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（27）古神 義則） 高周波回路工学、電磁波応用工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（28）長谷川 光司） 知覚情報処理及び感性情報処理に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（29）尾崎 功一） ロボット工学、ロボット技術・ロボット応用に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（30）吉田 勝俊） ランダム現象に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（31）馬淵 豊） マイクロ・ナノ工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（32）嶋脇 聡） 生体計測、福祉工学、バイオメカニクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（33）平田 光男） システム制御工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（34）大津 金光） 高性能計算システムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（35）長谷川 まどか） 画像符号化および画像処理に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（36）東口 武史） レーザー工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（37）山岡 暁） プロジェクトマネジメントに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（38）磯谷 玲） アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（39）下田 淳） 歴史学・西洋史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（40）湯本 浩之） グローバル教育や開発教育などに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（41）丁 貴連） 東アジア比較文学比較文化に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	臨地研究 I	<p>（42） 戚 傑 ） 多文化教育に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（43） Malee Kaewmanotham ） タイ都市社会研究に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（44） 吉田 一彦 ） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（45） 中村 祐司 ） 政策研究やガバナンス研究に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（46） 鈴木 啓子 ） 日本近代文学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（47） 中村 真 ） 対人コミュニケーションに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（48） 石川 由美子 ） 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（49） 松井 貴子 ） 日本文学比較文化論に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（50） 高橋 俊守 ） 地域生態学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（51） 松金 公正 ） 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（52） 米山 正文 ） アメリカ文学・文化に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（53） 横尾 昇剛 ） 建築都市環境に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（54） 大森 玲子 ） 食生活と健康に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（55） 大森 宣暁 ） 都市計画および都市交通に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（56） 高橋 若菜 ） 環境政治に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（57） 吉原 佐知雄 ） 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（58） 二宮 尚 ） 熱工学や可視化情報学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（59） 刈込 道徳 ） 有機合成化学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（60） 松本 大輝 ） 無機物質・材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（61） 手塚 慶太郎 ） 無機材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（62） 佐藤 剛史 ） 反応工学および分離工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（63） 古澤 毅 ） 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（64） 諸星 知広 ） 微生物の遺伝子工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（65） 藤村 隆史 ） 光情報記録、太陽光発電、エナジーハーベスティングなど、光応用工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（66） 茨田 大輔 ） マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（67） 玉田 洋介 ） バイオイメージング、光細胞操作、およびそれらの基盤となる光工学研究と、それらによって初めて明らかになる新しい生命現象の研究、光と生物の相互作用に関する研究に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（68） 児玉 豊 ） 分子農学関連の細胞生物学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（69） 鈴木 智大 ） 生化学・分子生物学・天然物化学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（70） 宮川 一志 ） 環境と生物の相互作用に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（71） 篠田 一馬 ） 光イメージングに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（72） 寄川 弘玄 ） 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（73） 鄒 艶華 ） 磁気力を援用した加工法に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（74） 柏倉 隆之 ） X線分光分析に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	臨地研究Ⅰ	<p>（75）清木 隆文） 岩盤工学や地下空間設計学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（76）白寄 篤） 変形加工に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（77）丸岡 正知） セメント・コンクリート・建設材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（78）渡邊 信一） 心理計測に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（79）佐藤 隆之介） 切削加工，研削加工，研磨加工，ナノマシニングに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（80）森 大毅） 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（81）東 剛人） 先端システム制御工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（82）依田 秀彦） 光ファイバ通信，光デバイス，光学材料など光エレクトロニクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（83）藤倉 修一） 橋梁耐震工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（84）石川 智治） 感性情報学，認知科学，心理物理学などに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（85）小池 正史） 理論物理学，素粒子物理学，数理論理学，数理学などに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（86）外山 史） ソフトコンピューティングに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（87）山本 篤史郎） 材料組織学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（88）中野 達也） 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（89）佐久間 洋志） スピントロニクスや結晶構造解析に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（90）藤井 雅弘） 無線通信システム，高度交通システム，位置情報システムなどに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（91）清水 隆志） マイクロ波・ミリ波に関する計測技術，回路設計技術，応用利用等に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（92）関川 宗久） 非線形現象に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（93）海野 寿康） 土質力学，地盤工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（94）藤本 郷史） 建築材料・構工法に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（95）星野 智史） 知能ロボットシステムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（96）森 博志） ビジュアル情報処理に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（97）後藤 博樹） 電動機に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（98）谷島 尚宏） 応用力学，数理学，幾何学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（99）Sueyoshi Ana） 特にフテンアメリカ政治経済に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（100）古賀 誉章） 建築計画学および建築環境工学等に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（101）古村 学） 村落社会に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（102）阪本 公美子） 社会開発や地域研究に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（103）松尾 昌樹） 中東地域の政治・経済現象に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（104）石井 大一郎） コミュニティ政策に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（105）高山 道代） 日本語史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（106）山田 有希子） 哲学・倫理学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（107）三田 妃路佳） 公共政策や政治過程に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（108）高山 慶子） 日本史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（109）清水 奈名子） 国際機構論に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（110）佐藤 栄治） 建築計画や都市計画，その他に医療・福祉に関する都市課題に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	臨地研究Ⅰ	<p>（111）大野 斉子） ロシア，ヨーロッパ地域文学・文化論に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（112）中川 敦） 福祉会話分析に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（113）近藤 伸也） 防災マネジメントに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（114）出羽 尚） 美術史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（115）松村 史紀） 東アジア国際関係史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（116）長田 哲平） 都市および交通に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	
	臨地研究Ⅱ	<p>本科目では、分野融合の観点から、学生の博士論文研究課題及び「臨地研究Ⅰ」で修得した専門分野以外の副指導教員（融合教育）を主担当教員とし、研究領域を異にする主指導教員、副指導教員（研究）と協働して指導にあたることにより、学生に異分野の専門知識と研究手法、幅広い視野と多面的な視点を身につけさせ、フィールドワークやインターンシップ等で適応させる。専門知識が適応される社会における実践活動を通じて、自らの研究課題の意義や専門性、社会における位置づけについて振り返り、それを異分野の視点から見つめなおす機会とし、多面的な情報収集に基づく研究課題の解析を可能とする実践的な力を身につけさせるとともに、研究課題解決に適した学際的な調査手法や研究方法論を生み出す力を養成し、分野融合・学際的視点に関する研究基盤を形成させる。事前指導において、副指導教員（融合教育）を中心とした主指導教員、副指導教員（研究）を含む複数の教員と学生との協働によって実施計画を策定した後、国内外の諸機関等で60時間以上のフィールドワーク、インターンシップ等を実施する。終了後は、副指導教員（融合教育）が異分野の手法が適応されているか否かについて学生と議論し確認した上で、ワーキングペーパーを提出させ、主指導教員、副指導教員（研究）とともに、博士論文作成に向けて必要な多面的情報収集、及び研究基盤の形成がなされているかについて検討、評価し、それをフィードバックすることにより学生の研究遂行実践力の向上につなげる。また、他者に対し異分野の専門知識等を伝える能力を涵養するために、受け入れ先において自らの専門知識を説明、伝達し、共有化を図る。</p> <p>（1）単 躍進） 機能性無機材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（2）湯上 登） レーザー生成プラズマに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（3）杉原 興浩） 光通信材料・デバイス・システムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（4）上原 伸夫） 計測化学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（5）大谷 幸利） 光工学、特に、偏光工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（6）加藤 紀弘） バイオマテリアルに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（7）早崎 芳夫） 光工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（8）佐藤 正秀） プロセス・化学工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（9）大庭 亨） 生体分子及び生体超分子に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（10）飯村 兼一） 界面化学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（11）山本 裕紹） 情報フォトニクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（12）佐藤 美恵） ヒューマンインタフェース・インタラクション、感性情報学、知覚情報処理に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（13）高山 善匡） マテリアル工学、接合工学、エコマテリアル、環境負荷低減に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（14）藤原 浩巳） コンクリート工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（15）横田 隆史） 先端計算機システム技術に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（16）池田 裕一） 流域デザインに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（17）矢嶋 徹） 非線形波動をはじめとする数理物理学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（18）横田 和隆） メカトロニクス、ロボティクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（19）中島 史郎） 木質構造をはじめとする木造建築に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（20）増田 浩志） 耐震設計に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（21）長谷川 裕晃） 流体力学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（22）伊藤 聡志） 医用画像処理、MR I や X線 CT などの画像再構成に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	臨地研究Ⅱ	<p>(23) 入江 晃亅 超伝導デバイスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(24) 船渡 寛人 パワーエレクトロニクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(25) 杉山 央 建築材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(26) 石田 邦夫 光物性に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(27) 古神 義則 高周波回路工学、電磁波応用工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(28) 長谷川 光司 知覚情報処理及び感性情報処理に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(29) 尾崎 功一 ロボット工学、ロボット技術・ロボット応用に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(30) 吉田 勝俊 ランダム現象に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(31) 馬淵 豊 マイクロ・ナノ工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(32) 嶋脇 聡 生体計測、福祉工学、バイオメカニクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(33) 平田 光男 システム制御工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(34) 大津 金光 高性能計算システムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(35) 長谷川 まどか 画像符号化および画像処理に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(36) 東口 武史 レーザー工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(37) 山岡 暁 プロジェクトマネジメントに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(38) 磯谷 玲 アメリカにおける金融・証券市場の制度に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(39) 下田 淳 歴史学・西洋史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(40) 湯本 浩之 グローバル教育や開発教育などに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(41) 丁 貴連 東アジア比較文学比較文化に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(42) 威 傑 多文化教育に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(43) Malee Kaewmanotham タイ都市社会研究に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(44) 吉田 一彦 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(45) 中村 祐司 政策研究やガバナンス研究に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(46) 鈴木 啓子 日本近代文学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(47) 中村 真 対人コミュニケーションに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(48) 石川 由美子 活動心理学およびパフォーマンス心理学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(49) 松井 貴子 日本文学比較文化論に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(50) 高橋 俊守 地域生態学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(51) 松金 公正 日本と台湾の間の文化の接触・交渉・受容の歴史的過程に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(52) 米山 正文 アメリカ文学・文化に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(53) 横尾 昇剛 建築都市環境に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(54) 大森 玲子 食生活と健康に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(55) 大森 宣暁 都市計画および都市交通に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(56) 高橋 若菜 環境政治に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(57) 吉原 佐知雄 電気化学的手法を用いたマイクロ・ナノレベルの表面制御及び新機能性物質の開発に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>(58) 二宮 尚 熱工学や可視化情報学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	臨地研究Ⅱ	<p>（59）刈込 道徳） 有機合成化学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（60）松本 太輝） 無機物質・材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（61）手塚 慶太郎） 無機材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（62）佐藤 剛史） 反応工学および分離工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（63）古澤 毅） 触媒あるいは高機能材料を用いた環境・エネルギー問題に係る化学反応に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（64）諸星 知広） 微生物の遺伝子工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（65）藤村 隆史） 光情報記録，太陽光発電，エナジーハーベスティングなど，光応用工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（66）茨田 大輔） マルチスケールな光伝播解析や光と物質の相互作用に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（67）玉田 洋介） バイオイメージング，光細胞操作，およびそれらの基盤となる光工学研究と，それらによって初めて明らかにされる新しい生命現象の研究，光と生物の相互作用に関する研究に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（68）児玉 豊） 分子農学関連の細胞生物学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（69）鈴木 智大） 生化学・分子生物学・天然物化学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（70）宮川 一志） 環境と生物の相互作用に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（71）篠田 一馬） 光イメージングに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（72）寄川 弘玄） 結晶のバンド計算・ナノクラスターの分子軌道計算など固体の電子構造等を対象とした数値計算シミュレーションに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（73）郷 艶華） 磁気力を援用した加工法に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（74）柏倉 隆之） X線分光分析に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（75）清水 隆文） 岩盤工学や地下空間設計学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（76）白寄 篤） 変形加工に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（77）丸岡 正知） セメント・コンクリート・建設材料に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（78）渡邊 信一） 心理計測に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（79）佐藤 隆之介） 切削加工，研削加工，研磨加工，ナノマシニングに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（80）森 大毅） 音声・音声言語情報処理・音声対話システムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（81）東 剛人） 先端システム制御工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（82）依田 秀彦） 光ファイバ通信，光デバイス，光学材料など光エレクトロニクスに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（83）藤倉 修一） 橋梁耐震工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（84）石川 智治） 感性情報学，認知科学，心理物理学などに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（85）小池 正史） 理論物理学，素粒子物理学，数理論理学，数理学などに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（86）外山 史） ソフトコンピューティングに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（87）山本 篤史郎） 材料組織学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（88）中野 達也） 鋼構造建築物の耐震性能評価に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（89）佐久間 洋志） スピントロニクスや結晶構造解析に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（90）藤井 雅弘） 無線通信システム，高度交通システム，位置情報システムなどに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（91）清水 隆志） マイクロ波・ミリ波に関する計測技術，回路設計技術，応用利用等に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	臨地研究Ⅱ	<p>（ 92 ） 関川 宗久 非線形現象に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 93 ） 海野 寿康 土質力学、地盤工学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 94 ） 藤本 郷史 建築材料・構工法に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 95 ） 星野 智史 知能ロボットシステムに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 96 ） 森 博志 ビジュアル情報処理に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 97 ） 後藤 博樹 電動機に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 98 ） 谷島 尚宏 応用力学、数理学、幾何学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 99 ） Sueyoshi Ana 特にアテンアメリカ政治経済に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 100 ） 古賀 蒼章 建築計画学および建築環境工学等に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 101 ） 古村 学 村落社会に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 102 ） 阪本 公美子 社会開発や地域研究に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 103 ） 松尾 昌樹 中東地域の政治・経済現象に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 104 ） 石井 大一朗 コミュニティ政策に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 105 ） 高山 道代 日本語史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 106 ） 山田 有希子 哲学・倫理学に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 107 ） 三田 紀路佳 公共政策や政治過程に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 108 ） 高山 慶子 日本史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 109 ） 清水 奈名子 国際機構論に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 110 ） 佐藤 栄治 建築計画や都市計画、その他に医療・福祉に関する都市課題に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 111 ） 大野 斉子 ロシア、ヨーロッパ地域文学・文化論に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 112 ） 中川 敦 福祉会話分析に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 113 ） 近藤 伸也 防災マネジメントに関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 114 ） 出羽 尚 美術史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 115 ） 松村 史紀 東アジア国際関係史に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p> <p>（ 116 ） 長田 哲平 都市および交通に関する実践的な課題解決能力を修得する。</p>	
		<p>光情報システム特論</p> <p>光波センシング特論</p> <p>光機能材料デバイス特論</p> <p>三次元画像情報光学特論</p> <p>荷電粒子ビーム工学特論</p>	<p>本講義では、光技術と情報技術を融合したシステムについて学ぶことを目的としている。光技術の基礎を踏まえた上で、光による情報の表現、取得、表示を議論し、新しいシステム設計を行うための知見を蓄積する。</p> <p>光学技術の中で光応用計測や光波センシング技術は、非接触・非破壊の計測が可能なことから広く産業で利用されている。本講義では、レーザー光の干渉・回折・偏光・散乱などを利用した精密計測技術や2次元および3次元形状計測技術、各種物質や材料の光学特性の評価技術、顕微鏡や光コヒーレンストモグラフィ（OCT）を始めとする生体計測技術といった、偏光工学、干渉計技術および3次元工学を取り上げ最新の技術取り上げることによって、これらの技術を修得することを到達目標とする。</p> <p>光通信システムには、光ファイバーや光導波路のみならず、受発光素子のような様々な光デバイスが使用されてシステムを構築している。各々の光学デバイスは光波の波長・強度・位相を制御する部品であり、光機能性材料を加工しアセンブリすることで作製されている。本講義では、光通信に焦点を当て、光通信デバイスの動作原理、使用材料、その光通信適用と応用事例を、最新の研究開発動向を紹介しながら学ぶ。</p> <p>三次元情報の獲得と表示は、今後の映像情報メディアとしての意義だけでなく、ロボット手術のような医療分野や自動車のユーザーインターフェースにおいても重要である。この講義では、二次元網膜像から外界の三次元構造を再構築する奥行き知覚のメカニズムを解説した後、三次元画像情報の獲得ならびに三次元映像の表示に関する光学手法について講義する。</p> <p>中性原子や分子から電子がはぎ取られイオンと電子がバラバラになった状態をプラズマと呼びます。これらは時として粒子として運動しますが、時には流体として集団運動もします。外部からの電磁場によってプラズマ中の軽い電子はすぐさま応答し、電磁場を修正したりします。プラズマは物理的にも工学的にも興味ある対象です。この面白いプラズマの振る舞いを講義します。</p>
専門選択科目	光工学分野特論群 オプティクスバイオデザインプログラム		



授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
光工学分野特論群	光応用工学特論	本講義では現在研究されている様々な光記録方式について学ぶことを目的としている。具体的には、それぞれの記録方式における原理や基礎物理の解説を行い、その記録方式のメリットや性能などについて説明する。また関連した最新の研究報告についても紹介する。	
	応用光物理学特論	マクスウェル方程式を復習し、マクスウェルの波動方程式の解を求める。その解を用いてスカラー回折理論、ベクトル回折理論等を展開する。また、回折理論の実用的な使用方法について講義する。また、等方的な媒質だけでなく、異方性媒質や分散性媒質における光伝播について取り扱う。さらには、一様な媒質ではなく、非一様な媒質における光伝播解析についても触れる。一例として、屈折率分布をもつ厚いホログラム中における光伝播解析をとりあげ、厚いホログラムの原理と性質を説明する。	
	分光画像処理特論	分光画像とは、光の特定の波長帯や複数の波長帯の情報を持つ画像のことで、人間では感知できない物体や事象を観測できることから、産業において必要不可欠な技術となっている。本講義では、分光の基本的な仕組みから、分光画像の撮影・処理・応用手法、さらに最新の研究事例について学ぶ。	
	先端情報数理特論	データ解析の基本的な方法、アンケートなどによる主観評価実験の組み立て方法、主成分分析、因子分析などの主観評価結果の分析方法を、実例を挙げながら学びます。最後に、実際に、課題を決めて、主観評価実験を実施して、その結果を報告してもらいます。	講義10時間 演習5時間
	乱流エネルギー特論	乱流は熱流体による輸送現象において欠くことのできない重要な現象である。この講義では、乱流の基本的な性質から始めて、各種の乱流スケールの相互関係、自由乱流及び壁乱流での近似値の導出、更にそれらを用いた乱流の解析手法について講義する。	
分子農学特論群	細胞生物学特論	全ての生物は、細胞を基本単位としている。そこで分子農学にとって必要不可欠である生物の分子情報(核酸やタンパク質、代謝産物など)の理解および制御に関して、細胞を単位とした視点から講義を行う。特に、分子情報の理解に関しては蛍光タンパク質やバイオイメージング、分子情報の制御に関しては遺伝子組換え技術やゲノム編集についての最新研究を取り上げる。	
	環境生理学特論	自然界における生物の振る舞いは、私たち人間の活動の影響も含む様々な環境刺激との相互作用によって決まる。本講義ではこのように環境によって生物の発生や行動・生活史が変化する際に働く分子機構について、最新の解析技術とともに学ぶ。	
	生命情報学解析特論	近年の遺伝子解析技術の目まぐるしい進歩により、生命科学を研究する上で網羅的な遺伝子情報(ビッグデータ)を取得し、解析することは、もはや「基盤となる」技術と言える。本講義ではこれら遺伝子配列等のビッグデータを用いて、生命情報学的(バイオインフォマティクス)手法を利用した解析手法について学ぶ。 具体的には①次世代シーケンサーから得られる遺伝子配列(断片配列)の扱い方、②それらの断片配列から元の遺伝子配列の再構築方法、③遺伝子注釈(アノテーション)方法、④発現差解析・系統解析・比較ゲノム解析等の手法などを学ぶ。	
	微生物遺伝子工学特論	遺伝子解析技術の進歩とともに、膨大な遺伝子・タンパク質配列データが国際データベースに蓄積されている。本講義では、微生物を対象としたゲノムデータの取得及び解析法を学ぶとともに、遺伝子組み換え技術の原理についても紹介する。	
	生命分子光工学特論	生命科学の発展に、光工学は必要不可欠な役割を果たしてきた。本講義では、生命科学にブレイクスルーをもたらしてきた光工学技術を、顕微鏡を中心に紹介し議論する。また、特定の生体分子・構造の動態観察を可能にした蛍光・発光分子や、光細胞操作を可能にした光応答性分子について、最近の研究例とともに講義し、議論する。さらに、生命科学を革新しうる新しい光工学技術について議論する。	講義5時間 演習10時間
	生体機能材料特論	本授業では、機能性高分子、生体材料の分子認識の基礎を学習しその利用技術について理解を深めることを目的とする。生体分子の優れた分子認識能の発現機構、バイオフィニティの評価方法を理解し、さらに生体模倣材料、環境応答性高分子材料の設計とその利用技術について学ぶ。	
	生体超分子化学特論	生物には階層性があり、生物の様相はどの階層に着目するかによって異なる。一般には(マクロな視点から見れば)、ヒトはロボットやコンピューターとのアナロジー(機械論的生命観)で見られることが多く、サイボーグを目指す研究や社会動向はその現れであろう。しかし、ミクロな視点をとれば、ヒトを構成するのも、ヒトを動かすエネルギーも、体内の情報伝達を担うのも、すべて分子および超分子である。したがって、蛋白質やDNAのような超分子の確率的で多義的なふるまいや、腸内細菌のような共生生物の排出する分子によるクロストークが病気の原因になり得るし、環境はエピジェネティクスを変化させることを通しても生体に影響を与えることができる。さらに、分子レベル・超分子レベルがマクロレベルと最も大きく異なる点は動的平衡であり、定常開放系である生体は環境と一体化していると考えられる。 本授業では、こうした分子レベル・超分子レベルから生物を理解する視点を身につけ、それを機能性材料や医薬品、治療法の開発などに応用させる力を身につけることを目的とする。また、こうした分子レベル・超分子レベルでの生体機能解析の方法論としてのバイオイメージング、とりわけ蛍光の利用法を学ぶ。	
界面制御化学特論	界面の基本的な性質やそれを発現させている原子・分子レベルでの界面構造、ならびにそれらを理解するために有用な測定・解析法や界面修飾法について概説します。また、先端技術分野における界面の役割や界面制御による機能発現について学びます。	講義13時間 演習2時間	
有機合成反応特論	本講義は各自の研究内容に使用される、試薬、反応基質、溶媒等のなかで有機合成化学的に重要なものを選びそれらについての、背景、合成法、合成例、取扱上の注意事項等について調査、報告、討論を行う。また、同様の目的に用いられる類似の化学物質についても文献調査し、性質や用途の違い、使い分け等を理解する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
物質環境化学特論群	分子計測機能特論	本授業は、分子の本来持っている機能のうち、計測に関するものを引き出すステラデジーを包括的に理解することを目的としている。そして、本授業を受講することにより、分析化学的な切り口から分子の機能開発についての理解をはかる素養を身に付けることを目指す。具体的には、各種機能性分子を網羅的に取り上げ、その機能発現のメカニズム、どのような発想で実際に分析にりようされるのか、その方法論等を議論する。受講者自身の研究テーマを「分子」と「機能開発」といった切り口から批判的に議論する。	
	実践機器分析特論	本講義では物質・材料の物性評価に汎用的に用いられる種々の分析機器に関して、原理、機能、特徴などを横断的に解説する。また、大学保有の共通分析機器を活用した分析実習を行い、実際の試料を測定することにより、機器分析の実践的な知識を身につける。	
	固体物性化学特論	固体無機物質の構造は化学結合・電子構造と密接な関係があり、これらの関係を理解することは機能性新材料の開発に欠かせない基礎である。本講義では、固体無機物質の合成と特性解析に力点を置き、“構造”、“合成”、“キャラクタリゼーション”、“物性”を通して、物質の化学的な構造と固有な物理的性質との関連を紹介する。	講義10時間 演習5時間
	無機固体化学特論	固体の無機化合物は、半導体、磁性体、蛍光体、光触媒、誘電体、イオン伝導体などの様々な材料として利用されている。現在も、より高性能で、安価・安定な無機材料の開発が続けられている。本講義では、材料としての無機化合物の合成、結晶構造、物性について固体化学の観点から学ぶ。	
	応用電気化学特論	前半では、電気化学に関連した最新の研究のトレンドを紹介する。光触媒技術の最新の研究動向及び応用について概説し、エレクトロニクス実装技術の動向である信頼性、特に電気的信頼性の評価及びその向上に関する最新の研究事例について解説し、さらに新材料であるダイヤモンド特にボロンドープダイヤモンドの電気化学的応用技術に関して詳細に解説する。後半では慣用的な電気化学測定法の原理および応用例などについて学ぶ。電流電位曲線の測定とその解析について、具体例を挙げて解説するとともに、電気化学系の診断として用いられるサイクリックボルタモグラムの見方を紹介し、電気化学系の界面解析として多用されている交流インピーダンス法についてその基礎から応用事例について詳しく解説する。基本的に電気化学や表面技術、エレクトロニクス実装技術をベースとする博士論文研究に資する内容で構成する。	
	機能性流体プロセス特論	電場、温度場、化学濃度場などの外部刺激に応答し、物性値の変化などを通じて優れた機能を発揮する機能性流体について、本講義では磁性流体などの実例の紹介や機能性流体調製法、応用例などについての最近の研究などを紹介する。	講義13時間 演習2時間
	超臨界流体工学特論	超臨界流体を反応・分離溶媒とすると、温度や圧力の操作により溶媒物性を変化させ、反応場の相、反応平衡、反応速度を制御することで、高効率な反応・分離場の構築が可能となる。本講義では、溶媒を超臨界あるいは亜臨界状態とした場合の反応、分離制御の考え方を解説し、実際の研究開発例を紹介することで、超臨界流体を用いた反応や分離の特長や可能性を考える。課題に関するディスカッションを行い、プレゼンテーションとしてまとめる。	
専門選択科目	環境エネルギー触媒特論	多くの化学反応に触媒が用いられているが、熱力学的平衡・反応速度論・触媒物性を正しく理解していることが新たな触媒を設計・開発する上で鍵となる。本講義では、工業化学プロセスへ適用された触媒の実例を説明し、エネルギー問題や環境問題を解決すべく新たに研究が進行中の触媒化学プロセスの最新動向を紹介しながら、反応工学および触媒化学の見地から新規触媒を開発する手法を学ぶ。	
	量子電子工学特論	レーザー工学は電気磁気学、量子力学、光学などに立脚し、量子エレクトロニクスという言葉が生まれるに至った20世紀後半に大きく展開された学問である。本講義では、高強度レーザー光を発生するファイバーレーザー発振器や、レーザー増幅器に関わるレーザーの物理と技術、それにより発生する極端紫外 (extreme ultraviolet: EUV) から軟X線に関する発生技術、X線結核光学に至る分野を網羅しながら、レーザーの基礎理論ならびにレーザーの応用に関して理解してもらうことを目標とする。	
	量子光ダイナミクス特論	物質と電磁場の相互作用から半古典近似による光吸収・放出の理論を学ぶ。さらに電場（光強度）が強い場合に起こる非線形光学現象の基礎について紹介し、固体・分子中の波束ダイナミクス理論について紹介する。さらに電磁場の量子化と電子遷移の非断熱性がダイナミクスに与える影響についても述べる	
	量子光物性工学特論	発光素子や受光素子などの光デバイスが示す特徴的な動作の根底には、それらを構成する物質の光物性がある。光物性の応用においてはもう1つの柱があり、それは材料分析の主要なツールとなっている種々の分光分析法である。光物性を基盤とするどちらの応用分野に進むにせよ、“原子・分子の光学過程”をある程度理解しておくことは必須である。本授業ではこれに関連する専門的な事項について解説する。	
	超伝導デバイス工学特論	超伝導の基本現象、マクロ理論、ミクロ理論と超伝導発現機構、超伝導体の特性、高温超伝導体の特徴、トンネル効果、ジョセフソン効果、及びエレクトロニクスを中心としたデバイス応用などについて講義する。	
	素粒子物理学特論	自然界の基本的な構成要素である素粒子と、素粒子間に働く相互作用の性質について概要を講義する。素粒子は相互作用により特徴づけられ、相互作用はゲージ対称性に貫かれていることを学ぶ。量子電磁力学を通じてゲージ理論の骨子を理解し、その他の相互作用への拡張を展望する。	
	アドバンスト制御工学特論	制御対象には不確かさや外乱が存在するが、制御系はそれらに対して頑健、つまり、ロバストになるように設計しなければならない。そのための制御法であるロバスト制御は近年急速に発展した。本講義では、ロバスト制御について、最新の研究動向を交えながら、基礎から応用まで詳しく解説する。	
先端システム制御工学特論	システム制御工学は様々な分野への適用が期待される。本講義では、ライフサイエンス分野への適用としてシステムバイオロジーを考え、エネルギー分野への適用として電力ネットワークを考え、これらの研究分野におけるシステム制御工学の役割について考察する。		
機能創成工学分野特論群	量子電子工学特論	レーザー工学は電気磁気学、量子力学、光学などに立脚し、量子エレクトロニクスという言葉が生まれるに至った20世紀後半に大きく展開された学問である。本講義では、高強度レーザー光を発生するファイバーレーザー発振器や、レーザー増幅器に関わるレーザーの物理と技術、それにより発生する極端紫外 (extreme ultraviolet: EUV) から軟X線に関する発生技術、X線結核光学に至る分野を網羅しながら、レーザーの基礎理論ならびにレーザーの応用に関して理解してもらうことを目標とする。	
	量子光ダイナミクス特論	物質と電磁場の相互作用から半古典近似による光吸収・放出の理論を学ぶ。さらに電場（光強度）が強い場合に起こる非線形光学現象の基礎について紹介し、固体・分子中の波束ダイナミクス理論について紹介する。さらに電磁場の量子化と電子遷移の非断熱性がダイナミクスに与える影響についても述べる	
	量子光物性工学特論	発光素子や受光素子などの光デバイスが示す特徴的な動作の根底には、それらを構成する物質の光物性がある。光物性の応用においてはもう1つの柱があり、それは材料分析の主要なツールとなっている種々の分光分析法である。光物性を基盤とするどちらの応用分野に進むにせよ、“原子・分子の光学過程”をある程度理解しておくことは必須である。本授業ではこれに関連する専門的な事項について解説する。	
	超伝導デバイス工学特論	超伝導の基本現象、マクロ理論、ミクロ理論と超伝導発現機構、超伝導体の特性、高温超伝導体の特徴、トンネル効果、ジョセフソン効果、及びエレクトロニクスを中心としたデバイス応用などについて講義する。	
	素粒子物理学特論	自然界の基本的な構成要素である素粒子と、素粒子間に働く相互作用の性質について概要を講義する。素粒子は相互作用により特徴づけられ、相互作用はゲージ対称性に貫かれていることを学ぶ。量子電磁力学を通じてゲージ理論の骨子を理解し、その他の相互作用への拡張を展望する。	
	アドバンスト制御工学特論	制御対象には不確かさや外乱が存在するが、制御系はそれらに対して頑健、つまり、ロバストになるように設計しなければならない。そのための制御法であるロバスト制御は近年急速に発展した。本講義では、ロバスト制御について、最新の研究動向を交えながら、基礎から応用まで詳しく解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端工学システムデザインプログラム 機能創成工学分野特論群 専門選択科目	パワーエレクトロニクスシステム特論	電気エネルギーの形態を変換して、最適なエネルギーに変換制御する電力変換回路を核とするパワーエレクトロニクスは、エネルギーの有効利用には欠かせない存在である。本講義では特にエネルギーシステムにおけるパワーエレクトロニクスの役割について、最新の研究事例を通して考えと共に、研究方法と動向について学ぶ。	講義5時間 演習10時間
	電動機制御工学特論	電動機はその発明以来、運動エネルギーと電気エネルギーを相互に高効率に変換できる手段として、現代社会の礎を築いてきたが、近年の電動機は制御と一体となっている。本講義では電動機の特性、役割について考えと共に、特にその制御に関する研究方法と原理について紹介する。	講義13時間 演習2時間
	情報伝送工学特論	有線・無線による情報伝送のための基礎理論、伝送方式、伝送線路の伝送特性計算のための電磁界解析、情報伝送に関連する電子機器・装置の構造及び原理を解説する。さらに、各自の研究課題に対する情報伝送技術の応用・適用について教員とともに議論を進め、具体的方策について模索する。	
	マイクロ波・ミリ波応用工学特論	マイクロ波・ミリ波を取り扱う超高周波回路の設計・開発には、回路製作に使用する高周波回路基板の材料定数は必須である。本特論では、高周波回路技術、各種高周波材料の種類やその取扱いを学ぶとともに、高周波用誘電体材料の材料特性評価法の基本となる集中定数回路法、伝送線路法、共振器法のそれぞれの評価原理やそれらの使い分け、さらには計測結果の理解に必要な不可欠なGUMに基づいた測定不確かさに関して、講義およびディスカッションを通じて基礎技術を理解し、適切な材料評価法の選択から測定、不確かさ評価まで一貫して実施できる実践力を習得する。	講義12時間 演習3時間
	マンマシンシステム特論	情報技術(IT)の爆発的な進展は、生活の中で否応なく機械と付き合っていくを得ない社会をもたらした。ヒューマンインタフェースの研究は、人々を取り巻くシステムが、安全で人に優しく、生活の質の向上や文化の形成に資することを目標とした学際的な学術分野である。この講義では、優れたヒューマンインタフェースとは何かを理解するための基礎について、工学的な観点にとどまらず、生理・認知・心理の側面をいかに取り扱うかについても解説する。	
	音響情報解析特論	本講義では、音響信号の測定法および解析法について学ぶことを目的としている。まず、音響信号の測定法および解析法についての基礎的な事項の解説を行う。次に、応用例として、最近の音場測定技術および音場解析手法について学ぶ。	
	複合感覚情報処理特論	本講義では、人間の視覚・聴覚・触覚の仕組みや機能および関連する物理量などを理解し、それらの単一および複合感覚などの情報処理過程について学ぶことを目的としている。視覚・聴覚・触覚などの仕組みや機能および関連する物理量などの基礎的な事項の解説や、それらの単一及び複合感覚による最近の心理物理学実験や研究などの調査から、人間の情報処理過程について学ぶ。	
	画像符号化特論	本講義では、画像信号処理および画像符号化について学ぶことを目的としている。まず、画像信号処理および情報理論についての基礎的な事項の解説を行う。次に、応用例として、各種の画像符号化法と国際標準方式について学ぶ。	
	医用電子画像システム特論	本講義では、医療施設で使用されている各種医用画像診断装置の原理と応用について学ぶことを目的としている。まず、それぞれの方法について基本となる物理現象を理解し、次いで各撮像法の基本原理と最近の進展について学ぶ。	
	画像情報処理特論	本講義では、コンピュータグラフィックス技術とその教理について学ぶことを目的としている。まずコンピュータグラフィックスを基本とした周辺技術について基礎的な事項を理解し、次いで近年の研究の調査とその内容を理解し、実装することで知識を確実にする。	講義10時間 演習5時間
	機能集積情報システム特論	1片のVLSIチップ上に必要な機能のほとんどを搭載する高集積情報システムは SoC (System on a Chip) と呼ばれ、最先端組込みシステムでの中心的な技術である。本講義ではSoC開発に関わる技術のうち特に上流工程のアーキテクチャ設計を中心にした技術を扱う。	講義13時間 演習2時間
	計算機工学特論	講義と演習の2部構成により行います。講義によりマルチコアプロセッサやGPUなどの先進的な並列処理アーキテクチャについて理解し、演習により実際の並列処理をC/C++言語を使って並列処理プログラムを開発することで知識を確実にします。	講義11時間 演習4時間
	進化計算特論	最適化問題は、単に計算機科学の分野だけではなく、システム工学や経営学、経済学など、非常に広範囲な分野において現れる問題です。進化計算は、最適化問題を解くための手法であり、大域的な探索が可能であることから、様々な分野の最適化問題に用いられています。本講義では、NP困難な最適化問題に対する進化計算（遺伝的アルゴリズム、Ant Colony Optimization, Particle Swarm Optimizationなど）について学びます。まず、最適化問題の概要について学びます。次に最適化問題に対するアルゴリズムとして、進化計算の一つである、遺伝的アルゴリズムとその応用について学びます。更に、Ant Colony Optimization(ACO), Particle Swarm Optimization(PSO)など、様々な進化計算のアルゴリズムについて学びます。	
	先端情報通信プロトコル特論	本講義では、情報通信プロトコルを学びます。通信ネットワーク技術の基礎となる変復調、伝搬、符号化技術について学び、現在利用されているシステムの仕組みを理解する。さらに、最新の研究について調査し、発展的な情報通信プロトコルの知識を獲得する。	
材料物理特論	固体の電子物性について様々な観点から考えていきます。もともとなる原子や分子の性質、周期性（1次元、2次元、3次元）を含めた構造による特徴、また形状（表面など）による性質の変化など、物質に対するいくつかのモデルを紹介し、基本的な知識や考え方について解説します。物質の特徴を物理として理解するためには、適切なモデルの選択あるいは構築が重要になります。具体的には、まずバルクの性質について、注目する物質の第1原理によるバンド計算の結果を強結合近似法で再現する手法を解説し、さらに実験スペクトルの既存の解釈による再現性や限界などについて考えます。クラスター（量子ドットなど）については、特に原子軌道のつながりに着目し、表面の問題、形状による性質などを調べます。特に、周期性を持つ物質の場合には、周期の次元性による特徴、バルクとクラスターの関係などについても考察します。		

授 業 科 目 の 概 要				
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門選択科目 先端工学システムデザインプログラム 生産システム工学分野特論群	機能創成工学分野特論群	物性論特論	非線形波動、可積分系、統計力学等、物性基礎理論に分類される理論物理学の内容は、互いに密接に関連して体系をなしている。さらに、この分野で得られた手法は工学分野の問題解決に利用され、大いに注目を集めている。本授業では上記に関連する分野の基礎を解説した上で、先端科学における応用を学ぶ。	
	機能創成工学分野特論群	固体物性特論	固体物性、特に金属、半導体、酸化物の電氣的・磁氣的特性やそれらの相互作用を利用するスピントロニクスについて学ぶ。まず、従来の電気伝導や磁性に関する研究の歴史と、最近注目されているスピントロニクスに関する物理現象について概観する。続いて、量子力学に基づく原子の磁性、多数の原子を取り扱う分子磁界理論について学ぶ。物質の結晶構造はその電気・磁気特性に大きな影響を持つことが多いため、結晶構造とその評価方法について概観した後、電気・磁気特性との関係について学ぶ。後半は、物質の電子状態と電気・磁気特性との関係、さらには電気と磁気の融合であるスピントロニクス現象について学ぶ。	
	機能創成工学分野特論群	光学薄膜特論	光学薄膜は、カメラやプロジェクトなどの映像機器用フィルタ、レンズや光部品に対する反射防止コート、光通信部品用フィルタなど、光製品に欠かせない技術要素である。光学薄膜素子の設計法、成膜技術、光学特性の測定法などを紹介する。	講義10時間 演習5時間
	機能創成工学分野特論群	数理機械工学特論	幾何学的な観点による工学の研究手法と具体例について解説する。曲線曲面論、フィンスラー幾何学及びリーマン幾何学を説明した後、弾性体や流体、粘弾性体などの連続体や非線形力学系のダイナミクスと幾何学量の関係性を紹介する。	
	先端工学システムデザインプログラム	材料機能設計学特論	今世紀は「環境」の世紀と言われており、地球温暖化を背景に持続可能な社会を構築するための産業と技術革新の基盤をつくることが求められている。工学系分野では環境負荷低減に関わる知識体系の確立と先端技術の開発が課題とされている。本授業では、先端材料工学・接合工学を環境負荷低減の視点から整理して講義する。具体的には、21世紀の材料工学の役割を前提として、地球環境と環境負荷低減、環境調和型材料、マルチマテリアル化、先端材料プロセス技術、先端組織制御、先端材料・プロセス解析を取り上げて講義するとともに、受講生の調査研究内容に基づいて議論し理解を深める。	
	先端工学システムデザインプログラム	先端材料評価学特論	X線、電子線、中性子線をはじめとする量子線を利用した材料評価方法を用いて、最新の構造・機能材料研究における実践例を紹介する。シンクロトン放射光やJ-PARCを利用した構造解析ならびに分光法についても触れる。	
	先端工学システムデザインプログラム	応用流体力学特論	水や空気を主な対象とし、その流動や輸送現象を支配する粘性流体力学の基礎および応用を修得させることを目的とする。特に実際の流れでは、非定常的・複合的流れとなるため、非定常流、気液二相流、渦と二次流れを取り上げ、その現象の基礎的知識と解析手法について学ぶ。	
	先端工学システムデザインプログラム	先端トライボシステム特論	地球温暖化に関する環境問題に限らず、ロボットやナノマシン等の機械部品においても、摩擦・摩耗・焼き付きの課題解決はますます重要となっている。本講義では、トライボロジーにおける最新の研究課題、分析・解析手法について学ぶ。	
	先端工学システムデザインプログラム	先端メカトロニクス特論	今日、高付加価値を持つ工業製品の設計には、センシング、制御、知的ソフトウェアの設計、実装といった、メカトロニクスの考え方は必須である。本講義では、ロボットを始めとする高度なメカトロニクス機器の先端技術について修得する。	
	先端工学システムデザインプログラム	ロボット応用特論	ロボットの応用分野は、従来までの産業分野から、人と協働して働くようなサービス分野へ広がろうとしている。本講義では、ロボットの基盤技術や先端研究を修学するとともに、ロボット技術の理解及びロボットの応用について考察する。講義では、ロボットの基盤・先端技術を調べることから始め、必要に応じて技術書や論文を読み解きながら、ロボットの技術の現状を知ってもらう。さらに、受講者が想定する応用について考察を深めていく。	
	先端工学システムデザインプログラム	知能ロボット工学特論	ロボットは、センシング技術、制御技術、メカトロニクス技術、そして知能化技術から構成される。本講義では、最先端AIを学ぶとともに、ロボットの知能化技術の理解を深める。AIに関しては、機械学習に焦点をあてる。そして、ニューラルネットワークから深層学習、さらには強化学習に関する論文調査および発表、そして、発表内容に関するディスカッションを通じて、知能ロボットシステム実現に向けた知識及び技術の習得を目指す。	
	先端工学システムデザインプログラム	バイオエンジニアリング特論	初回に受講者と面談を行い、自分の専門について説明をしてもらう。その専門に沿って、バイオエンジニアリングに関連するテーマを話し合いで決定する。例えば、受講者の専門が制御工学やロボット工学であった場合、電動義手の制御がテーマとなる。このテーマについて、各自で文献調査を行い、最新の研究文献を検索する。最終的に、その文献を熟読、理解して、それに関するプレゼンテーションを30分間程度行ってもらおう。その後、いくつかの質問について返答してもらおう。	
	先端工学システムデザインプログラム	確率力学特論	確率論の学修は、一般的な工学分野のカリキュラムにおいては、初等的な確率・統計レベルに留まることが多い。その結果、確率論に深く根差した解析ツールを実用しておりながら、その背後にある基本的概念を取り違えている方も少なくない。そこで、この授業においては、現代確率論の基本を駆け足で習得し、ヒルベルト空間上の最小分散推定理論を理解する。これらをカルマンフィルタの導出に応用しながら、確率論的な洞察力の定着を図り、これをランダム現象のモデリングと制御に応用する。	講義10時間 演習5時間
先端工学システムデザインプログラム	非線形システム解析特論	非線形常微分方程式や非線形差分方程式で記述されるシステムとその解析手法を学ぶ。具体的には、まず、連続時間力学系における平衡点の安定性とその局所分岐について学ぶ。次に、離散時間力学系における固定点の安定性とその局所分岐について学ぶ。そして、アトラクタの大域的性質について学び、カオスを概観する。最後に、非線形システムの解析法を学ぶ。		
先端工学システムデザインプログラム	マイクロ応用加工学特論	携帯電話、自動車など私たちの身の回りにある製品を製造するには、数多くのマイクロ加工技術が使われている。本講義では、マイクロ加工の果たす役割を理解し、各種のマイクロ加工法について、加工の原理と応用事例について学ぶ。また、マイクロ応用加工に関する特定課題を設定し、関連する文献を調査する。	講義8時間 演習7時間	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端工学システムデザインプログラム 生産システム工学分野特論群	変形加工学特論	変形加工ではコンピューターシミュレーションによる解析が行われることが一般的になっています。解析のための入力データには、素材の変形特性モデル、金型のモデル、素材と金型との接触に関する設定、素材に加える力や熱の設定などが必要です。モデル化や設定の妥当性は、解こうとしている問題に応じて解析する人間が判断するものであり、その判断には予備知識としての種々の事例を知る必要があります。本授業では、受講生とともに塑性加工の事例を中心に、深く理解していきたいと考えています。	
	工作機械特論	日本の工業製品の優秀さは優れた工作機械に支えられている部分が大い。この講義では、nmのオーダの精度を達成する超精密微細加工の基本的なメカニズムや用いられる加工機械の原理、加工特性等について学ぶとともに、最先端の研究事例について調査する。	
	心理計測学特論	人間の感覚ような「あいまい」なものを定量的に評価・計測するために、感性評価や心理学的計測と呼ばれる手法がある。本講ではこれらの計測手法や統計学や多変量解析を使ったデータ分析方法についても学習する。これらの手法はマーケティング調査などの異分野にも応用でき、汎用性が高い手法である。	
	構造材料学特論	セメントメーカーにおける研究所勤務17年の実務経験のに基づき、実践に役立つ授業を行い、構造物に用いられる最新の建設材料について学ぶ。具体的には実務に役立つ最新の材料技術、配合技術、施工技術やコンクリート構造物の劣化診断技術や耐久性向上技術などについて講義を行うと共に、受講者のフィールドに応じた調査課題を課し、レポート等で報告を受け、それに対して現状の最新技術との比較などの指導を行い、技術力の向上を図る。	
	土木環境材料工学特論	社会基盤整備を主目的とする建設事業においても多種多様な材料が用いられるが、その種類および量は膨大なものとなる。今後、持続可能な社会の形成に対し、ライフサイクルコストの低減を前提とし、各種産業から排出される産業副産物や社会活動による廃棄物を有効活用するためのリサイクル技術の活用、環境調和型の建設材料の積極的な利用が求められる。本講義では、種々の材料について、様々な手法により環境に配慮し、使用されている現状について解説する。また、社会基盤構築と材料選定に関するディスカッションを行い、問題解決に対して考慮が必要な点について検討する。	
	陸水環境解析学特論	地球温暖化に伴う気候変動により陸水環境は多大な影響を受ける。特に河川災害の激甚化及び地域水循環システムの変質は、持続可能な地域社会の形成に重要な課題となる。本講義では、まず河川の流れ及び土砂動態の支配方程式及びその数値解析手法について解説し、実河川を対象とした数値解析の課題を与える。つぎに河川を含む地域水循環の基礎方程式及びその数値解析手法について解説するとともに、気候変動の予測結果であるd4PDFシステムを紹介し、それらを用いて実際の地域を対象とした気候変動下における洪水氾濫解析の課題を与える。課題の実施内容は英語でプレゼンテーションする。	
	土質工学特論	土質力学を基にした土質工学、あるいは地盤工学は、社会インフラ整備や災害対策、地球環境問題の分野で重要な学問と位置付けられる。本授業では、地盤を構成する土と地下水に関する工学的性質および力学挙動についての最新技術や先端研究について学び、受講者個々の研究テーマに対して土質力学の最新の研究や技術開発について応用することを授業を通して検討する。	講義10時間 演習5時間
	岩盤工学特論	地盤は、柔らかい土質・地盤と岩盤から構成されている。本講義では、その中の岩盤を対象とする。岩盤は岩石と不連続面から構成されているので、これらを個別に扱い、工学的に扱う基本事項について習得する。また岩盤工学とトンネル、ダム、大規模地下空洞などの岩盤構造物の設計、建設から維持管理、さらに自然災害発生との関わりからその対策などについて関連づけて考察を深める。これに加えて、岩盤力学に対する最新の知見を紹介し、その工学的な応用可能性などについて議論する。	
	建築材料学特論	本講義では、セメントの水和反応、コンクリートの硬化、劣化など建築材料の物性変化の機構について学ぶことを目的としている。まず、セメントやコンクリートをはじめとする建築材料の物性変化についての基礎的な事項の解説を行う。次に、建築材料の物性変化をふまえた上で、建築材料を高機能化・高耐久化するための技術について学ぶ。	
	建築物ストック管理学特論	建築物ストックとよばれる既存建築物は膨大であり、これらの建築物を適正に維持管理・更新することが重要である。この講義では、既存建築物の経年変化を監視・管理するための材料・工法等の技術を紹介するとともに、その分析・評価・意思決定のあり方について議論する。	
	木質構造特論	持続的な生産が可能な材料の一つである木材をその構造材とする木造建築物について、特に近年その普及が目覚ましい中大規模木造建築物の構造設計法について、材料、部材、接合部、構面、架構を対象として講義を行う。	
	耐震システム工学特論	建築物の耐震設計は弾性設計・塑性設計を経て地震応答解析、エネルギー法が現在採用されている。これらの設計法について計算手法・構造設計手法について講義し、また、自ら実務における設計手法を調査して、建物を想定した骨組モデルを用いて実際に種々の応力解析や保有耐力の設計を行う。塑性設計特有の考え方を基に地震応答解析とエネルギー法の関連を検討し、構造設計における安全性の考え方を理解する。鋼構造建築物を対象として、実務における地震応答解析・エネルギー法の実践と応用について体得することを目的とする。	講義10時間 演習5時間

授 業 科 目 の 概 要				
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
先端工学システムデザインプログラム	生産システム工学分野特論群	地震防災学特論	日本は世界有数の地震大国であるが故に、建築物について世界トップレベルの耐震技術を有している。大地震時でも人命と財産を守るために、建築物の倒壊を防ぐことが要求される。これは超高層建築物や高度機能建築物に限ったことではなく、一般的な建築物も例外ではない。本講義では、中小規模の外乱を想定した一次設計と大地震を想定した二次設計から成る日本の構造計算法の学術的背景と考え方を理解する。また、柱に冷間成形角形鋼管を用いる鋼構造ラーメン骨組を対象として、骨組、部材、接合部の設計・施工法の学術的背景と考え方を学ぶ。さらに、最新の研究成果に基づき、多方向入力を受ける柱梁接合部の力学的性能、柱端接合部の溶接施工合理化、ブレース端接合部の剛性評価と設計法、既存不適格鋼構造骨組の補強設計法などに関する技術的知見を学ぶ。	講義10時間 演習5時間
	橋梁地震工学特論	過去の大地震においては、橋梁構造物の被害により、交通ネットワークが機能しなくなり、大きな経済損失が生じている。本講義では、橋梁の地震工学について修得することを目的とし、まずは、地震動の特性を解説し、地震時における橋梁構造物の応答特性について紹介する。さらに、橋梁構造物を巨大地震から守るための対策として、現在行われている最新の耐震設計および免震設計について講義する。		
専門選択科目	国際学分野特論群	環境政治学特論	グローバル化が進行する今日、気候変動、プラスチックごみ海洋汚染はじめ、世界全体として環境悪化は進んでいる。一方、ごみ等の再生可能エネルギー利用による地域活性化など、社会・経済・環境を統合した形で、持続可能な画期的な取組に成功しつつある国や地域も存在する。国や地域で、取組が異なる要因は、問題解決への道筋が、単なる技術的問題ではなく、社会や政治のありようと深く関わっていることによる。そこで、授業では、環境面を中心として、持続可能な発展に向けた世界・国・地域の取組を、環境政治学の諸分析概念を用いながら、理論的・実証的に考察する。具体的には、環境政治の営みを、アクター、制度、政治プロセスの相互作用として捉え、アクターが持つ政治的機会構造、科学や政策等への認識枠組、人権やジェンダーへの意識、政治文化など多面的に考察し、持続可能な発展にむけたガバナンスの在り方について考察する。	講義10時間 演習5時間
		人間の安全保障と国際制度特論	本講義では、人間の安全保障 (human security) 概念が武力紛争下の文民の保護といった安全保障分野に加えて、原発事故や大規模災害時の人権保障や、ジェンダー格差に関わる社会的課題に対応する際にも重視されるようになった歴史的な経緯と、実際の適用事例について、国際機構論、平和研究の手法を用いて検討する。方法としては、関連する国際機構論、国際関係論、国際法学、平和研究等の分野において刊行されてきた先行研究に加えて、関連する国際人権法ならびに国際人道法、国連安全保障理事会、国際原子力機関、国連人権理事会等の資料、支援活動を行うNGO関係者や被害者へのアンケート及び聞き取り調査結果等を用いつつ、武力紛争並びに災害時における人間の安全保障を実現するうえで、国連体制がいかなる機能を果たしているのかについて分析を行う。	講義5時間 演習10時間
		対人コミュニケーション研究特論	対人コミュニケーション研究の分野で、特に表情を介した感情のコミュニケーションに焦点を当てる。感情の基礎理論から最新の展開までを確認したうえで、対人コミュニケーションにおいて感情が果たす役割について検討する。さらに、対人コミュニケーションに関係する重要な今日の問題として、世界のさまざまな地域で多文化共生を妨げる問題として生じている社会的排斥を取り上げ、その背景の一つとしての心理学的メカニズムについて検討する。そのメカニズム特徴に関する知見を探ることによって、排斥行動に対して、社会実装が可能な予防策と対応策について議論する。	講義10時間 演習5時間
		グローバル化と多文化教育特論	経済のグローバル化・ボーダレス化が進むにつれ、民族・文化等がより強く意識されるようになってきている。本講義では、異なる民族や文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と、その実現を確固たるものにするための教育の有り方について探求し、更に多文化主義、多文化教育の理論や方法論、日米欧における多文化教育の共通点・相違点が生まれた社会的・歴史的背景についても人文科学・社会科学の学際的視点から考察を加える。	
		グローバル教育・開発教育特論	今や75億人を越える人々が暮らす地球社会は、開発や環境、平和や人権、文化や福祉、資源やエネルギーなどに関わる地球的規模の諸問題に直面しており、こうした諸問題を早急に解決していくことが人類共通の地球的課題とされています。この授業では、こうした地球的課題の理解や達成に向けた教育実践の試みとして、グローバル教育や開発教育を取り上げ、特に、国連や欧州の関連政策と日本の教育政策との比較を通じて、これからのグローバル社会におけるグローバル教育や開発教育の役割や今後の課題を検討します。	
		グローバル化と中東政治特論	今日の多様な世界を構成する一地域として中東地域を取り上げ、グローバル化を念頭に置きつつ、主に政治と経済の側面から、この地域が有する特徴を理解する。特に、石油資源と国際労働移民は中東地域のグローバル化を推進する上で中心的な役割を果たしていると同時に、国際的な取り組みが必要とされている問題でもある。このような重要な問題に対して、中東地域の国家や社会、非国家主体をアクターに位置づけ、国内・中東地域・グローバル社会の3層におけるこれらのアクターの活動を政治経済の観点から分析する枠組みを、具体的な事例に即して理解するとともに、分析に必要なアカデミックな技術を修得する。	
		東アジア国際関係史特論	現代東アジア地域の国際関係の基本構造は、二つの大きな戦争によって形作られている。一つは第二次世界大戦、もう一つは冷戦である。この二つの経験が結び合って、地域秩序の基礎は構成されている。そこで、「第二次大戦」と「冷戦」という二つの経験がいかに結節したのかを史的考察することによって、東アジア国際関係の成り立ちを捉え直す。具体的な考察対象は旧敵国である日本をめぐる国際関係史(米中ソ「ロ」による日本の軍事大国化抑制等)や米中間の構造(米中冷戦および冷戦後の米中間)、中ソ関係(同盟と対立の諸関係)などである。分析方法は、主に三つである。(1) アジア冷戦史研究の批判的検討。(2) マルチ・アーカイヴァルな史的分析(特に、米国、中国、旧ソ連の公文書を利用)。(3) 事例研究(特に、第二次大戦と冷戦が結節している事例を選び、その成立過程を史的に分析する)。	講義3時間 演習12時間

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル地域デザインプログラム 国際学分野特論群 専門選択科目	アメリカ金融制度特論	グローバル化が進展する下で、多文化共生や地域の直面する社会的課題を理解し、参画していく上で経済過程に対する理解は重要な位置を占める。金融は経済資源配分の主たる手段のひとつであり、多文化共生や社会課題解決において重要な意味を持つ経済資源の配分方法やその課題に関する深い理解を獲得することが本講義の目標である。本講義では、地域的にはアメリカを対象として、時期的には主に1980年代以降を中心として、金融・資本市場の構造や実体経済との関係を取りあげ、考察する。本講義では、まず、アメリカの金融・証券市場の構造についての特徴をみ、1980年以降の金融制度改革についてその動因を審議経過の検証を中心として考察する。また併せて、実体経済に対して持った意味を、経済成長と経済危機という2つの側面から考察する。	
	ラテンアメリカ経済特論	Latin America and the Caribbean Region (LAC) has been a sort of real laboratory for the widest variety of economic experiments that range from the application of the purest neo-classical theory to the highest level of government intervention in almost of spheres of the economy. This class provides a panoramic view of the post-war economic evolution of Latin American countries and how the prevailing paradigm has swayed from one theoretical extreme to the other.  【和訳】ラテンアメリカ・カリブ海沿岸諸国では、ラボのように純粹新自由主義から最高レベルの政府介入まで、幅広く様々な経済政策が取られてきた。本科目では、戦後ラテンアメリカ経済諸国の展開を検討し、優勢なパラダイムが極めて大きく揺れてきた原因を分析する。	
	日台交流史特論	日本と台湾の交流の歴史について、文化的側面から考察する。とくに日本による台湾植民地支配に起因する日台仏教間の接触・交渉の歴史について、主に異文化接触によって生じた文化変容の動態を捉えるケーススタディという観点から考察を加える。「仏教」は、日台双方に共通して存在する宗教のひとつであるが、双方の仏教は、名称こそ同一であるものの、それぞれの地域の文化的影響を深く受けており、僧侶の生活習慣から仏教の社会的位置づけに至るまで様々な差異が存在する。本講義では、このような日台仏教の差異が、いかなる歴史的経緯や社会的背景の差異より生じたものかを探ることを主眼とする。	講義10時間 演習5時間
	ドイツ文化史特論	ドイツ近世（16～18世紀）から近現代（19・20世紀）にかけての「死の文化史」を考察する。「死の文化史」とは、死に関するあらゆる歴史的現象を扱う学問の総称である。具体的には、近世から近現代にかけての墓地と葬送の歴史的変容過程を論じる。19世紀以前の墓地は教会堂に隣接しており（教会墓地）、死、通夜、葬列、葬式ミサ、埋葬、その後の法要の過程で行われた多くの葬送儀礼は地縁共同体内で完結していた。19世紀になると、衛生上の理由で、墓地が居住空間から離れた郊外に新設された。この郊外墓地の所有・管理は、教会から世俗の役所の管轄となった（市民墓地）。郊外の市民墓地設立を契機に、19～20世紀の過程で、葬送がいかに変容していったのかを探ることを目的とする。	講義10時間 演習5時間
	アメリカ文化形成特論	アメリカ合衆国が独立から南北戦争の間、いわゆる建国期にどのような文化・文学を形成したのか、歴史的な視野とグローバルな視野から考察する。アメリカ合衆国の各州、北東部、中部、南部といった地域の特質との関わりも考察する。具体的には独立革命の経緯とその後の英米戦争の意味、ジャクソン政権時代のポピュリズム、第二次宗教大覚醒、奴隷制をめぐる南北の対立などの歴史的・文化的背景を第一次資料を踏まえ俯瞰する。さらに、そうした背景との関連で合衆国の文学がどのように発展したのかを1820年代から1860年代までを対象に分析していく。	講義8時間 演習7時間
	タイ都市社会特論	急激な工業化・都市化が進行し、深刻な都市問題を抱えているバンコクをおもな対象に、地域社会の変容とそこでの住民の主体的な対応について論じる。具体的には、カナカマカーン・チュムチョン（地域委員会）と呼ばれる住民組織に注目し、地域社会開発政策などの政策動向もふまえながら、スラム地域、市街地、新興住宅地、郊外住宅地、公団住宅地域という地域類型ごとにその実態を明らかにする。従来、タイ都市社会についてはタイ人の個人主義的傾向のみが強調され、地域をベースにする住民組織の存在は看過されてきたが、この授業では、そうしたステレオタイプな見方への反証を試みるとともに、地域類型（階層構造）ごとにタイ都市社会にみいだされる新たな「共同性」の在り方を考えていきたい。	
	社会開発と地域研究（東アフリカ）特論	今日、従来の経済開発の反省から社会開発が重視されるようになり、国際社会においてもSDGsが目標として掲げられている。他方、国際的な目標の達成方法については、各地域の実情を踏まえないことによって失敗してきた例は多数ある。本授業では、社会開発の視座を踏まえながら、地域研究のあり方やその重要性について学ぶ。具体的には、以下の通り、社会開発・開発の概念、地域の歴史的・文化的背景の理解、社会開発のアクターについて東アフリカのタンザニアを事例に学習する。 ・「社会開発」、「開発」の歴史や概念について理解を深める。 ・地域の歴史的背景と文化を理解する。 ・社会開発・貧困データ・健康データ資料の収集・分析方法について指導を行い、東アフリカでの社会開発についてその変容や地域間格差等を分析する。 ・東アフリカでの社会開発に携わる国際機関・政府・NGO等の活動について現地資料を用い、その動向を把握する。 但し、授業内容の重点については、受講生の関心に合わせて調整する。	
	グローバリゼーション下の村落社会研究特論	村落社会学や人類学、思想史、民俗学などの学問分野において、日本や途上国の村落社会を研究するためには、多様かつ複雑な社会を理解していかなければならない。そのためには、積み上げられてきた学問的成果に対する見識は不可欠である。これらの学問成果を理解しなければ、地域社会を見る目は平板なものとなり、批判的な視点から見ることはできないからである。そこで、本講義では、村落社会学・人類学・思想史・民俗学などの重要文献を読むことにより、既存の学問成果を理解する。その理解をもとにしたうえで、グローバル化が進む中で、その影響を強く受けつつある村落社会に関する議論を通して、現代社会を批判的に読み解く力を養成することを目的としている。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生科学研究科 先端融合科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル地域デザインプログラム 国際学分野特論群 専門選択科目	東アジア比較文学特論	東アジアは植民地支配や戦争の時期を挟みながら、実に多様で豊かな人的かつ知的交流が行われてきた。例えば、19世紀末から20世紀初頭では、魯迅や李光洙といった中国と韓国の若き知識人たちが日本に留学して日本文学や日本語に訳された西欧文学を手掛かりとして「近代文学」のあるべき姿を獲得するなど多くの知的な文学交流が行なわれている。反日政策下で政府同士の公式的な交流が絶たれた戦後においても、個人レベルでの知的な文化交流が盛んに行なわれている。グローバル化が進む21世紀に入ると、韓国や中国、台湾などでは日本の大衆文化、特に村上春樹の小説が各国でベストセラーになる一方、日本でも「韓流」「華流」とよばれる東アジアの大衆文化と文学への関心が高まっている。そうした知的生産性を持った空間として東アジアは捉えられるべきだと考えている。 本授業では、明治以降の日本文学が文化的・言語的に多様性を持つ東アジア諸国（韓国、中国、台湾）でどのように受け入れられているのか、その実態と背景を分析する。	講義5時間 演習10時間
	日本文学比較文化特論	日本文学と、それを取り巻く国内外の文化事象について、比較文学比較文化の視点から考察を加える。文献資料と画像資料、音声・映像資料などを用いて多角的に理解を深め、柔軟な思考力のもとに、広範かつ深遠な日本観を醸成する。 明治時代の日本は、西洋文化の摂取によって近代化を推進した。その動きの中で、日本文学も近代化を模索し、文学とは異なるジャンルである西洋美術との結びつきによって、現代まで継承されている新たな文学理論を構築し、近代化革新を成し遂げた。その具体的な様相について、豊富な一次資料をもとに考察を進める。 多彩な文化現象が現れ、文学作品が成立した時代の動きや社会状況、そして、それらが様々な受け継がれてきた歴史性にも目を向けて、日本人の美意識や人生観、思想、価値観などを探り、日本の伝統と近代化の特質を明らかにすることをめざす。	
	近代日本語芸術文化特論	近代日本の言語芸術文化をとりあげ、その「成立」と「受容」の諸相を、同時代の社会文化状況（政治・経済・出版・メディア・教育・学術・芸術・芸能・自然災害・事件犯罪・戦争など）との関わりを問いつつ、任意の具体例に則して、多角的かつ通史的に分析する。特に「受容」においては、海外における翻訳と出版、および視覚芸術（映画・演劇・漫画・TVドラマ・アニメ等）におけるアダプテーションの状況を幅広く視野に入れ、近代日本の言語芸術文化の特質と展開、国際社会における評価と影響を考察する。	
	メディア学特論	メディアの役割に注目して文学と社会の相互作用を学際的に学びます。ロシアの近現代の文化領域において重要な役割を果たしたメディアを取り上げ、理論的、実証的に分析します。これを通じて文学・文化事象、ジャンルや芸術思潮の変化、教育の拡大、社会制度の改革など様々な局面の結節点として、理論的アプローチも含めてメディアを多角的に論じます。メディアというテーマを通じて文学、表象文化論、メディア論、歴史学等多角的に分析する方法を学びます。	講義10時間 演習5時間
	イギリス美術特論	近代までのイギリス美術は、常にイタリア、フランス、オランダ、フランドルといった各地の美術の動向と関係を保つことで発展してきた。そのため、美術に関しては、ヨーロッパ諸国に従うだけの二流国としての評価をしばしば受ける。一方で、イギリスの文学、思想、科学といった豊かな諸学芸の成果が美術作品の制作に影響している点は、ヨーロッパとの関係を重視するだけでは見えてこない注目すべき特徴である。こうした点を、18世紀イギリスで出版された美術理論書を読解することで理解し、あわせてその理論の源泉となったフランスの美術理論をも読解することで、ヨーロッパとの関係を念頭に置きつつ、複数の視点でイギリス美術をとらえ、その本質を探ることがこの授業の内容である。	
	現代語研究法特論	本講義は、研究において現代語を考察の対象とする受講者が研究の思想的基盤を確立できるように、教師とともに基本的な図書を購入し内容検討をするものである。現代日本語およびその他の言語の文典や研究法を論じた書の批判から始め、そこに見られる言語観や現象を見る視点を抽出し、そのうえで、複数の異なる言語の間および異なる先行研究の間で比較・対照を試みる。必要に応じて、研究の基礎を成す論理や、方法論の総論と言語学哲学的な問題にも触れる。そしてそこから得られた知見が、1) 個別の言語研究の中にどう活用されるか、2) 言語哲学や外国語教育理念とどう関係性を持ち得るか、3) 言語現象の研究・外国語としての教育、多言語・多文化状況の諸問題、言語政策など、受講者自身の研究課題とどう接点を持ち得るか、という3つの方向で展開する。	
	日本語史特論	言語は時間のなかで変容する。本授業では言語の歴史的言語変化について、日本語に焦点をあててとりあげる。 はじめに、日本語における音韻、語彙、文法の各領域における言語変容に関するこれまでの研究成果を概観し、各領域においてこれまでに明らかにされた言語変化のシステムとその背景について理解する。それと同時に、そうした言語変化のシステムを明らかにするための研究方法のありかたについて検討する。そのうえで、特に、現代日本語の文法現象についてとりあげ、その背後にある文法体系を探るとともに、現在の文法体系に至るまでの歴史的言語変化について、これまでの研究によって得られた諸知見と受講者各自の内省を用いることにより検討する。	



授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学 分野 特論群          グローバル 地域 デザイン プログラム          地域 デザイン 学 分野 特論群          専門 選択 科目	言語教育特論	多文化共生社会において言語教育が果たす役割は一層重要になってきている。こうした中で、本科目では、学校教育の言語環境に注目し、外国にルーツを持つ子どもたちの読み書き能力習得の現状と課題について言語学、教育学、心理学の知見をもとに検討する。具体的には、まず心理学者Vygotsky及び言語学者Hallidayのそれぞれの理論に基づき、学校教育の言語の特徴について家庭内との比較を通じて概説した後、学校教育に見られる談話構造、学習のレジスターの言語的特徴、文法と作文の発達、学校教育におけるジャンル、論証的な文書理解、教科における言語的特徴等について取り上げ、レジスター及びジャンルといった基本概念を軸に、学習と言語との関係、具体的な教育方法、言語教育の問題について考察する。一連の授業内容を通して多文化共生の課題を高度かつ学際的に理解し、問題解決に向けた学術的思考を養う。	
	政策ガバナンス特論	政策ネットワーク論やローカル・ガバナンス論をめぐる従来の理論研究を提示した上で、政策の立案、作成、実施、評価をめぐる一連の政策ライフサイクルをめぐる諸アクター間関係（組織間関係）に注目する。そして、各アクターの保有するリソース（資源）の活用から生じるネットワークにおけるガバナンスの動態に焦点を当て、ガバナンスの実際を「統治」の側面のみならず、政策に関わる多様かつ対等な諸アクター間の協働に注目した「協治」あるいは「共治」の側面からも捉える。具体的には、たとえばスポーツ政策領域等を対象とした研究から得られた知見を提示する。	
	公共政策特論	現代社会は、インターネットの発達により人々のコミュニケーションは容易になり、ビッグデータの活用により個人の好みも分析されている。しかし政治の世界では、政治は特定の人々によって行われ、自分たちの意見は政治に反映されていないと考える「忘れられた人々」が存在する。既存の政党・政治家への不信感が高まり、忘れられた人々を取り込もうとするポピュリズム政党が台頭してきている。こうした社会の変化のなかで、既存の制度や政策を転換する必要もある。そこで、授業では、国家や政党の役割の変化、国民・住民の役割の変化の変化を踏まえ、誰がどのような形で政策過程に関わっているのか、関わっていくようになるのか、どのような要因が政策転換を可能にするのかについて、日本と他国との比較研究を行い、事例への議論を通じて明確にする。	講義13時間 演習2時間
	コミュニティ政策特論	コミュニティ政策を、地域的まともにおける、コミュニティの持続可能性を目指した仕組づくりと捉える。そしてその仕組づくりは、もはや行政的な解決や、市場による解決は難しい。ニーズをもつ住民（当事者）を中心として、地域の中のさまざまな主体が結びつき協働によって解決していくことが基礎となる。こうした基本的な考え方をもちつつ、最新のコミュニティ政策研究論文をもとに、コミュニティ政策の現代的な展開と課題について把握する。また、社会・人口構造の転換期におけるコミュニティ政策の新たな分析法を探るために、担当教員による論文などを参考にしつつ、コミュニティ・ニーズの捉え方、サービス資源開発の視点、住民同士の合流などに関する分析法について学ぶ。その上でコミュニティ政策の政策形成に資する受講者なりの分析法や分析枠組みを提示できるようにする。	講義13時間 演習2時間
	社会福祉学特論	社会福祉の実践・社会福祉学の研究方法論は、地域社会が直面する諸課題の考察、解決に向けた具体的な分析提示において、ひとつの重要な視点である。本授業では、地域包括ケアに関連する学術論文のレビューを通して、社会福祉学の研究方法を学ぶとともに、社会福祉の制度（仕組み）や実践が、地域社会で果たす役割とそこに及ぼす影響を理解する。	
	福祉会話分析特論	この授業では、福祉場面におけるコミュニケーションの会話分析について、すでにその基礎的な理解は得ている者を対象に、実際のデータを用いて、どのように福祉場面の分析を行い、それらをどのような形で分析していくのか、その方法について実践的な形で講義を行う。具体的には、福祉会話分析の視点の確認を行った上で、福祉現場における現象を捉えるやり方を教授する。その際、現象のコレクションの作成、そして、現象がどのようなプラクティスによって実現し、それがどのような行為を達成しているかを見いだす作業を実際に行う。またそうした分析が、福祉実践に対してどのような還元が可能なのかも説明し理解する。さらに、実際の福祉会話分析の研究例として「共同完了」および「引用」という現象の分析の検討を行う。以上を踏まえて、受講生自身が、福祉会話分析の実践を行い、その方法論を自らのものとする。	
	死生学特論	「死生学(thanatology)」とは、人間の生老病死に関わる学際的な研究（哲学、倫理学、宗教学、文学、医学、看護学、教育学等々）である。この授業では、西洋哲学史における生命観、死生観等を紹介しながら、さらに医療者とともに実際の臨床事例をもとに、より具体的に身近な問題として、終末期医療における「医療ケア」および「生と死」のあり方を考える。死生学の知見を通じて、学生一人ひとりにとっての「生」（あるいは「よき生」）、すなわちソクラテス以来の「いかに生きるべきか」という問いを考えるための授業をめざす。	講義10時間 演習5時間
	遊びとパフォーマンスの心理学特論	経済格差、生活格差、学力格差などいろいろな格差が地域に住まう人々に意識化され始めている。この格差の問題は、情動や社会性の育ちに関する心理学的な側面としてとらえなおすことができる。貧困家庭と裕福な家庭、異文化コミュニケーション（ex.障害児者、人種、等）の問題がアイデンティティの形成や拡散、固着にどのように影響するのかが次第に明らかにされつつある。地域で共に生活する中で、このような問題に如何なる援助が有効となるかを、遊びとパフォーマンス心理学を媒介に授業参加者とともに参加型の講義を行う。講義には、講義者自身のパフォーマンス、「絵本の読み合い遊び」の地域活動実践（実証研究データ、エピソード記述データ、実践活動VTR、子育て支援から図書館活動への拡張と展開）などを題材にブレインストーミングを行い、格差社会の中での地域支援活動の発展可能性を議論する。	講義10時間 演習5時間

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生科学研究科 先端融合科学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門選択科目 グローバル地域デザインプログラム 地域デザイン学分野特論群	地域食生活学特論	私たちの食生活は、住まう地域の歴史や文化、環境等のみならず、ライフスタイルや異文化交流等によっても影響を受けながら形成される。その食生活の営みは私たち自身の健康はもとより地域全体の健康を基盤とした活力へと繋がっている。本授業では、食生活と健康に関わる国内外の既存研究や既存資料をもとに、食生活と健康に関わる現代の課題を地域比較を取り入れて見出し、地域のQOLを高める施策について提案し討議する。	講義10時間 演習5時間
	自然共生デザイン特論	地域の生物多様性や生態系サービスを持続的に維持するための方策として、自然共生社会を実現することが社会的な課題となっている。このために科学的役割を果たすことが期待されている学問分野として、生態系の構造や機能を扱うランドスケープ・エコロジーがある。また、ランドスケープ・アプローチによる地域特性の評価やまちづくりに展開するための手法が提唱されている。本講義では、ランドスケープ・エコロジーや、ランドスケープ・アプローチによる地域デザインの科学的手法について、国内外の取り組みを踏まえて解説する。	
	日本史特論	現代社会の特徴や現代社会で生じる様々な問題は、歴史的な背景を知ることで理解を深めることができる。たとえば、なぜ現在は夫婦別姓なのか、なぜ女性天皇・女系天皇は認められていないのかは、ジェンダー史の成果から考えることができる。また、なぜ東京に一極集中するのは、都市史の成果から検討できる。本授業では、最新の日本史研究の成果を講義形式で解説し、その内容をもとに受講者による発表・討論を組み合わせて行うことで、現代社会と歴史との関係を考える。	講義8時間 演習7時間
	地域解析特論	都市、地域を解釈する一つの手法として、数理、統計による論理的な解釈を行う種々の都市モデルを学ぶ。都市モデルは、数学的な解釈から、経済学、社会学、地理学、物理学など、多様な側面から現象を論理的に解釈するものである。種々の都市モデルを学んだ上で、近年の社会問題と関連付けながら、都市を分析するうえでの高度な分析手法およびデザイン理論を学ぶ。また都市モデルでは種々の空間情報を扱うため、情報を扱う際の技術者倫理についても学ぶ。	講義10時間 演習5時間
	建築環境計画特論	環境に適合した建築都市のあり方を把握するため、主として建築物と都市の環境性能・エネルギー性能に着目し、計画手法、分析手法について解説を行う。また、環境・設備面の設計プロセス、性能評価プロセスを理解するための情報を提示するとともに技術者倫理についてもふれる。	
	人間環境学特論	人々の生活を豊かにするためには、建築空間に限らず、地域・都市・電機製品・サイン・サービスまで、あらゆる手段が連携していることが重要です。そこで専門分野にとらわれず、人間を中心に据えて、その周囲にある地域や環境との関わりという単純な枠組みで物事を捉え直すというのが「人間環境学」の役割だと考えています。この授業では、この枠組みからみることで、地域の課題解決に対する発想を豊かにすることを目指します。	講義8時間 演習7時間
	環境都市計画特論	都市計画および都市交通における諸問題に対して、今後の計画立案に必要な概念について学習する。特に、「持続可能な都市と交通」の実現に向けて、国内外の最新動向について討議する。具体的には、人口減少・少子高齢社会における都市計画・都市交通の課題と展望、都市計画・都市交通の調査および分析における手法・内容の変遷と新たな技術の活用可能性、環境・経済・社会的に持続可能な都市計画・都市交通のあり方に関する講義および演習を行う。	講義10時間 演習5時間
	サプライチェーン・マネジメント特論	原材料の調達と商品の生産から、流通を経て消費に至るまでのプロセスがサプライチェーンである。サプライチェーンを滞りなく行うためには、商品や物資の最適な供給を、計画し管理するサプライチェーンマネジメントが重要である。企業経営やグローバルサプライチェーンの観点で講義を行う。	講義10時間 演習5時間
	統合プロジェクトマネジメント特論	プロジェクトマネジメントの総合的な知識を、実際の社会基盤整備プロジェクトや防災マネジメントに応用できるように、国内外の事例を対象としたケーススタディを行う。ケーススタディでは、事例の課題を抽出・分析し、解決策を考案する。	
防災教育工学特論	今後起こりうる災害に対する備えに関する知識を生かして地域や組織などで行動に移すためには、日常時から防災や災害対応に関する訓練および教育が必要となる。本講義では、防災や災害対応に関する教育や訓練の事例を分析して、受講者が地域や組織での教育や訓練の企画運営に活用できるようになることを目的とする。具体的には、防災マネジメントの考え方をもとに教育工学の考え方を応用した内容を基礎として、その理論と事例の分析を行う。		

(別紙)

国立大学法人宇都宮大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>宇都宮大学</b>					<b>宇都宮大学</b>				
地域デザイン科学部	3年次				地域デザイン科学部	3年次			
コミュニティデザイン学科	50	-	200	→	コミュニティデザイン学科	50	-	200	
建築都市デザイン学科	50	3	206		建築都市デザイン学科	50	3	206	
社会基盤デザイン学科	40	3	166		社会基盤デザイン学科	40	3	166	
国際学部	3年次				国際学部	3年次			
国際学科	90	10	380		国際学科	90	10	380	
共同教育学部				→	共同教育学部				
学校教育教員養成課程	170	-	680		学校教育教員養成課程	170	-	680	
工学部	3年次			→	工学部	3年次			
基盤工学科	315	26	1,312		基盤工学科	315	26	1,312	
農学部					農学部				
生物資源科学科	63		252		生物資源科学科	63		252	
応用生命化学科	32		128		応用生命化学科	32		128	
農業環境工学科	32		128		農業環境工学科	32		128	
農業経済学科	36		144		農業経済学科	36		144	
森林科学科	32		128		森林科学科	32		128	
(3年次編入学)	-	18	36		(3年次編入学)	-	18	36	
計	910	60	3,760		計	910	60	3,760	
<b>宇都宮大学大学院</b>					<b>宇都宮大学大学院</b>				
地域創生科学研究科				→	地域創生科学研究科				
社会デザイン科学専攻(修士課程)	77	-	154		社会デザイン科学専攻(博士前期課程)	77	-	154	名称変更
工農総合科学専攻(修士課程)	258	-	516		工農総合科学専攻(博士前期課程)	258	-	516	名称変更
					先端融合科学専攻(博士後期課程)	25	-	75	研究科の専攻の設置(意見伺い)
国際学研究科				→					
国際学研究専攻(博士後期課程)	3	-	9			0	-	0	令和3年4月学生募集停止
教育学研究科				→	教育学研究科				
教育実践高度化専攻(専門職学位課程)	18	-	36		教育実践高度化専攻(専門職学位課程)	18	-	36	
工学研究科				→					
システム創成工学専攻(博士後期課程)	30	-	90			0	-	0	令和3年4月学生募集停止
計	386	-	805		計	378	-	781	